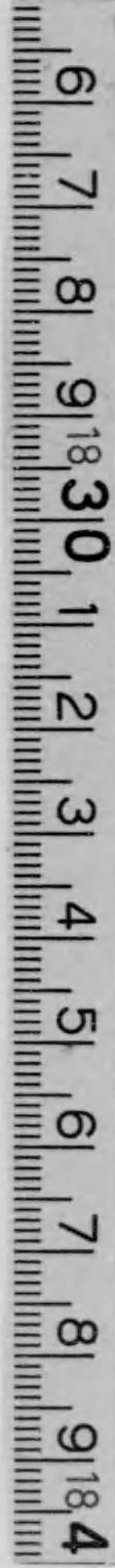


258.2

101

成田山五事業年報  
大正9年

国立国会図書館



始



45763

25  
別冊  
10

成田山五事業大正九年報

大正九年六月發行

露光量違いの為重複撮影

目次

成田中學校一覽……………一

成田高等女學校一覽……………二九

成田稚園一覽……………四五

成田山化院一覽……………五三

田圖館一覽……………七七

大正八年

後に於て新勝寺は二大不幸に遭遇せり、一は同年六月九日

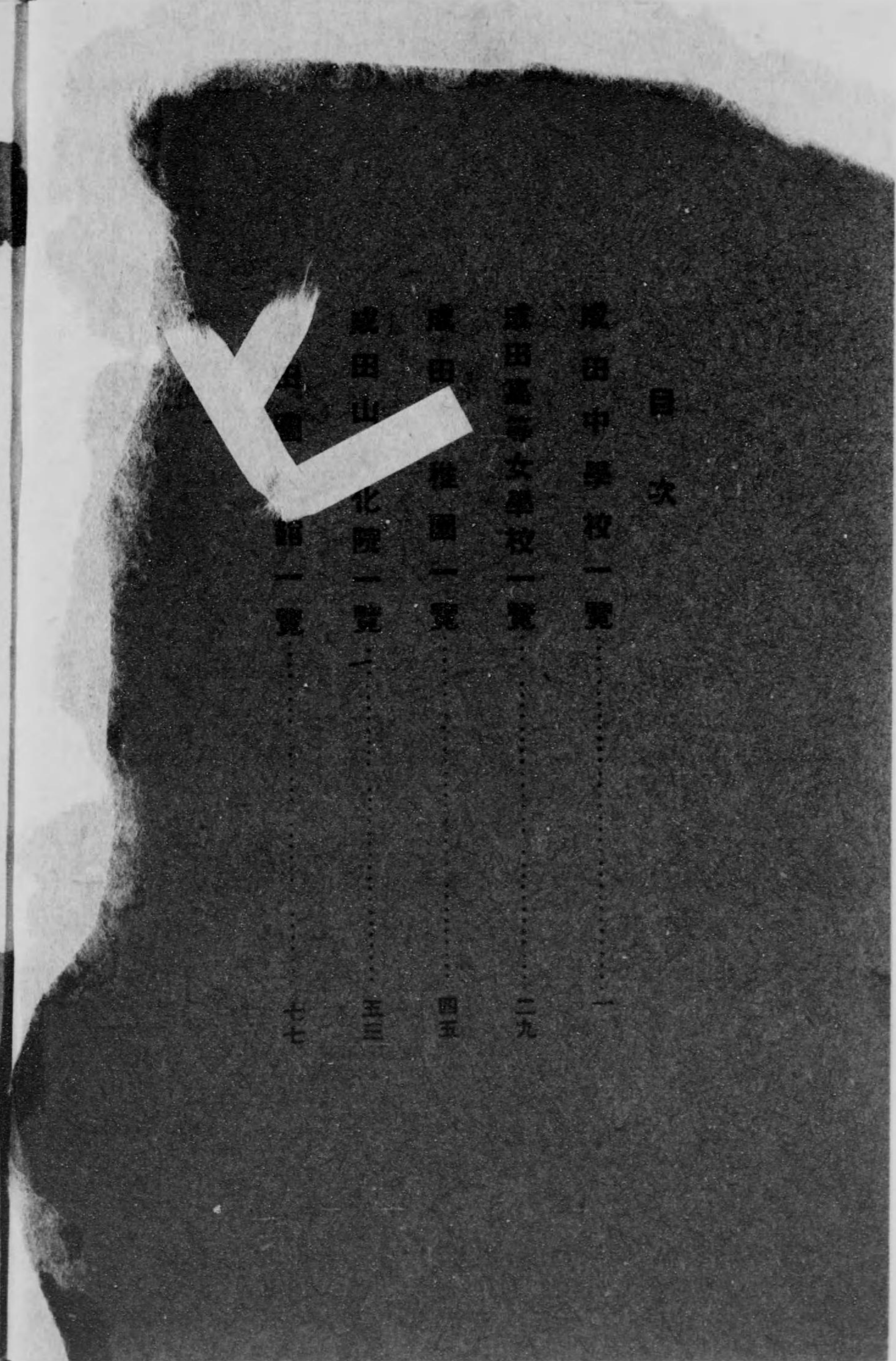
日に於ける横濱出張所主任小林照信の死去にして、他は十二月廿六日に於ける當山執事池田照誓の他界也、照信は後任執事の候補者として予の最も囑望し、照誓は後任住職の候補者として自他俱に許せる所、而して同時に二人者を失ふ予の失望と新勝寺の不幸と夫れ幾許ぞや、予は在職以來己に廿七年、新勝寺は正年々歳々に膨張し、其の事業は月々日々に劇増す、無能の老骨今や殆ど其の職に耐へざらんとする也、則ち近き將來に於て後進の爲に道を開き、新勝寺將來の發展と向上との爲に是等新進を薦めて徐ろに後圖を策せん所存なりしに、噫、事は遂に志と違ふて爰に一頓挫を來たし了りぬ、遮莫、人事意の如く成らざるは世の常のみ、今更に何をか恨み何をか慨かんや。

五事業に就ても、世界の趨勢に鑑み國家の進運に應じて改良し擴張すべきこと頗る多からん、而も寺務に多忙を極めつゝある予が一身は、勢ひ五事業の爲

成田山五事業年報序

9. 6. 23  
寄贈

露光量違いの為重複撮影



目次

成田中學校一覽

成田高等女學校一覽

成田第一覽

成田山一覽

二九

四五

五三

七七

成田山五事業年報序

大正八年

後に於て新勝寺は二大不幸に遭遇せり、一は同年六月九日に於ける横濱出張所主任小林照信の死去にして、他は十二月廿六日に於ける當山執事池田照誓の他界也、照信は後任執事の候補者として予の最も囑望し、照誓は後任住職の候補者として自他俱に許せる所、而して同時に二人者を失ふ予の失望と新勝寺の不幸と夫れ幾許ぞや、予は在職以來己に廿七年、新勝寺は年々歳々に膨張し、其の事業は月々日々に劇増す、無能の老骨今や殆ど其の職に耐へざらんとする也、則ち近き將來に於て後進の爲に道を開き、新勝寺將來の發展と向上との爲に是等新進を薦めて徐ろに後圖を策せん所存なりしに、噫、事は遂に志と違ふて爰に一頓挫を來たし了りぬ、遮莫、人事意の如く成らざるは世の常のみ、今更に何をか恨み何をか慨かんや。

五事業に就ても、世界の趨勢に鑑み國家の進運に應じて改良し擴張すべきこと頗る多からん、而も寺務に多忙を極めつゝある予が一身は、勢ひ五事業の爲

成田山五事業年報序

9. 6. 23  
寄贈

露光量違いの為重複撮影

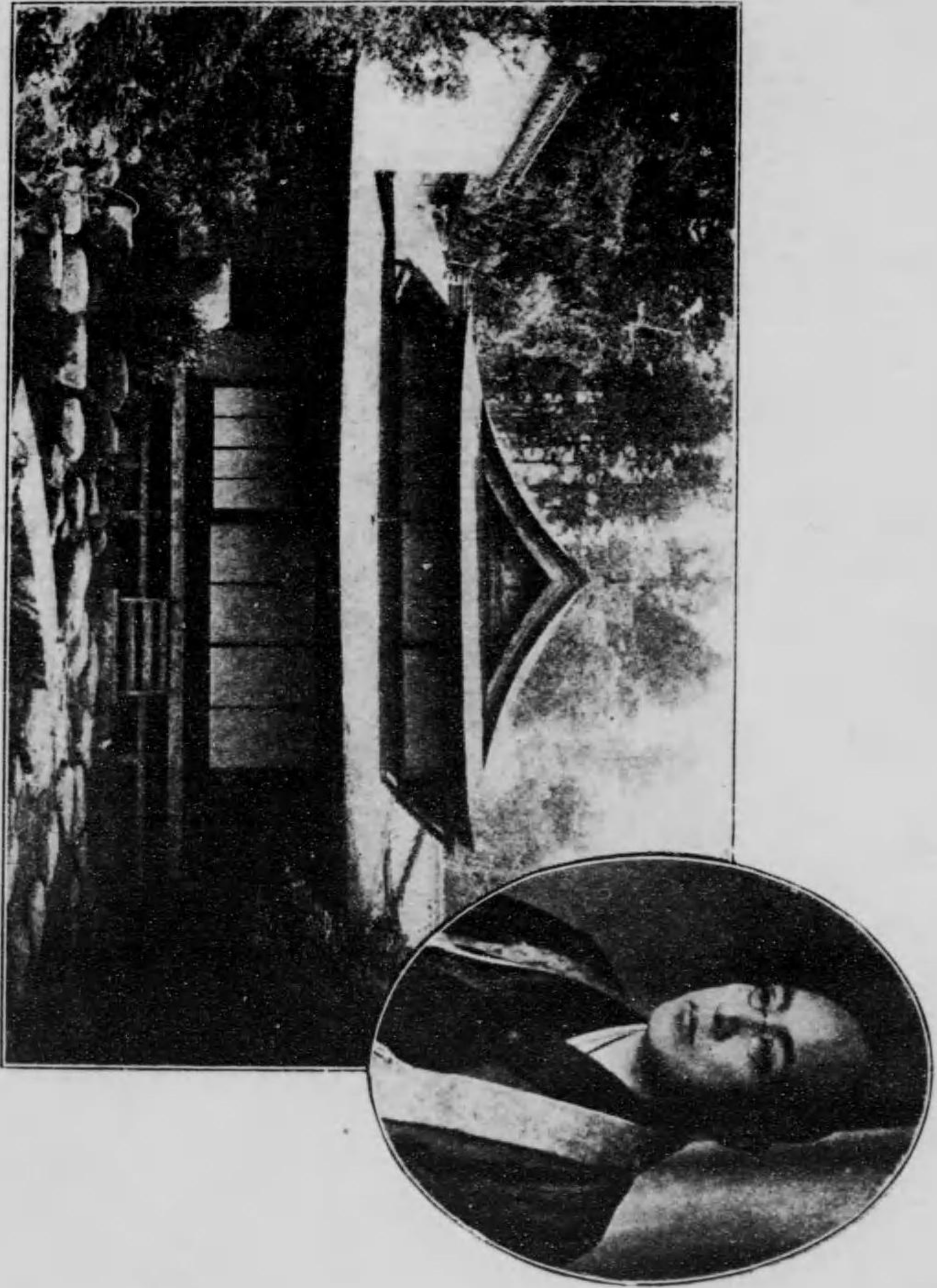
成田山五事業年報序

に充分の力をを用うる克はず、此點常に予の遺憾とする所、幸に二人者にして生存し他日後任執事と成り後任任職と成りて活動せば、横溢せる青年の活氣と圓熟せる平生の手腕とに依りて、五事業も益々發展し彌々完備せしむるの餘裕もあるべかりしに、誠に惜むべからずや、照信は享年四拾六才、照誓は僅に四十二才なりき、一は肺結核にして他は腦溢血なりき、老少不定とは豫て期し乍らも、前途多き彼等を先立たせしこと返すくも残念也、傷ましい哉。

大正九年報を發行するに當り、愚衷を披瀝して二人者への悼辭とす、若夫れ五事業の前途將來に關しては、機を見て當事者と議り、世に後れ勢に戻らざる様努むべき也、大方の各位又た御同情と御後援とを惜まるゝ勿れ。

大正九年五月

石川 照勤



殿奥寺勝新と首貫山田成

露光量違いの為重複撮影

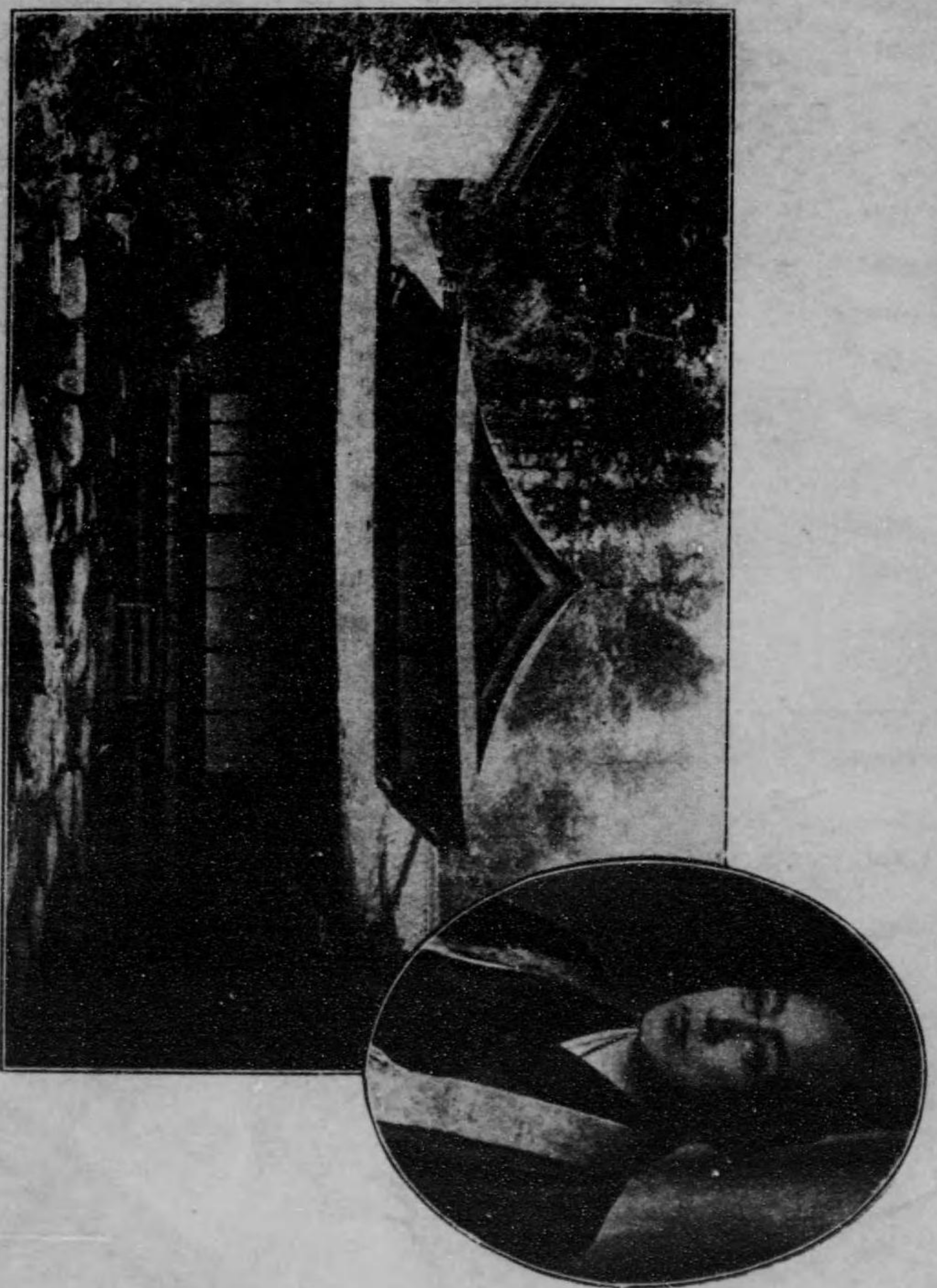
成田山五事業年報序

に充分の力を用うる克はず、此點常に予の遺憾とする所、幸に二人者にして生存し他日後任執事と成り後任住職と成りて活動せば、横溢せる青年の活氣と圓熟せる平生の手腕とに依りて、五事業も益々發展し彌々完備せしむるの餘裕もあるべかりしに、誠に惜むべからずや、照信は享年四拾六才、照誓は僅に四十二才なりき、一は肺結核にして他は腦溢血なりき、老少不定とは豫て期し乍らも、前途多き彼等を先立たせしこと返すくも残念也、傷ましい哉。

大正九年報を發行するに當り、愚衷を披瀝して二人者への悼辭とす、若夫れ五事業の前途將來に關しては、機を見て當事者と議り、世に後れ勢に戻らざる様努むべき也、大方の各位又た御同情と御後援とを惜まるゝ勿れ。

大正九年五月

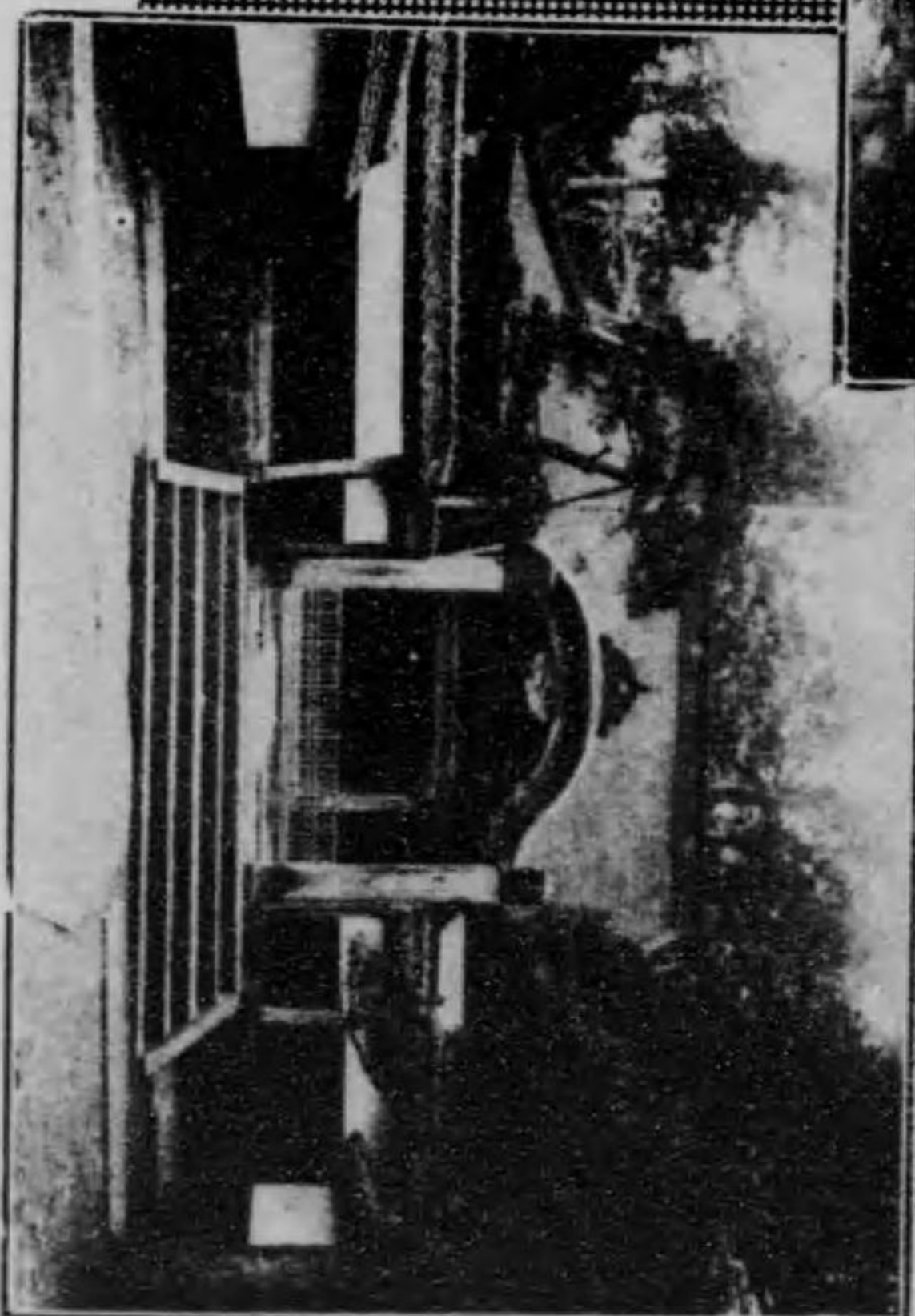
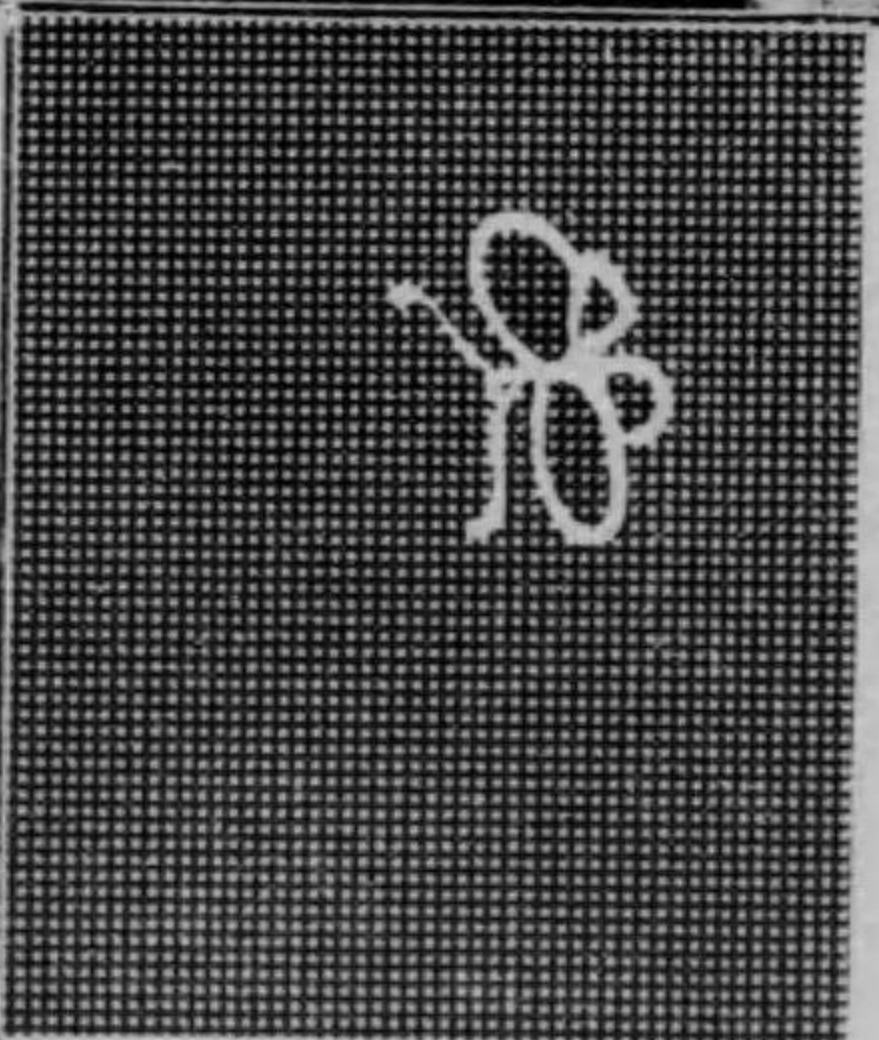
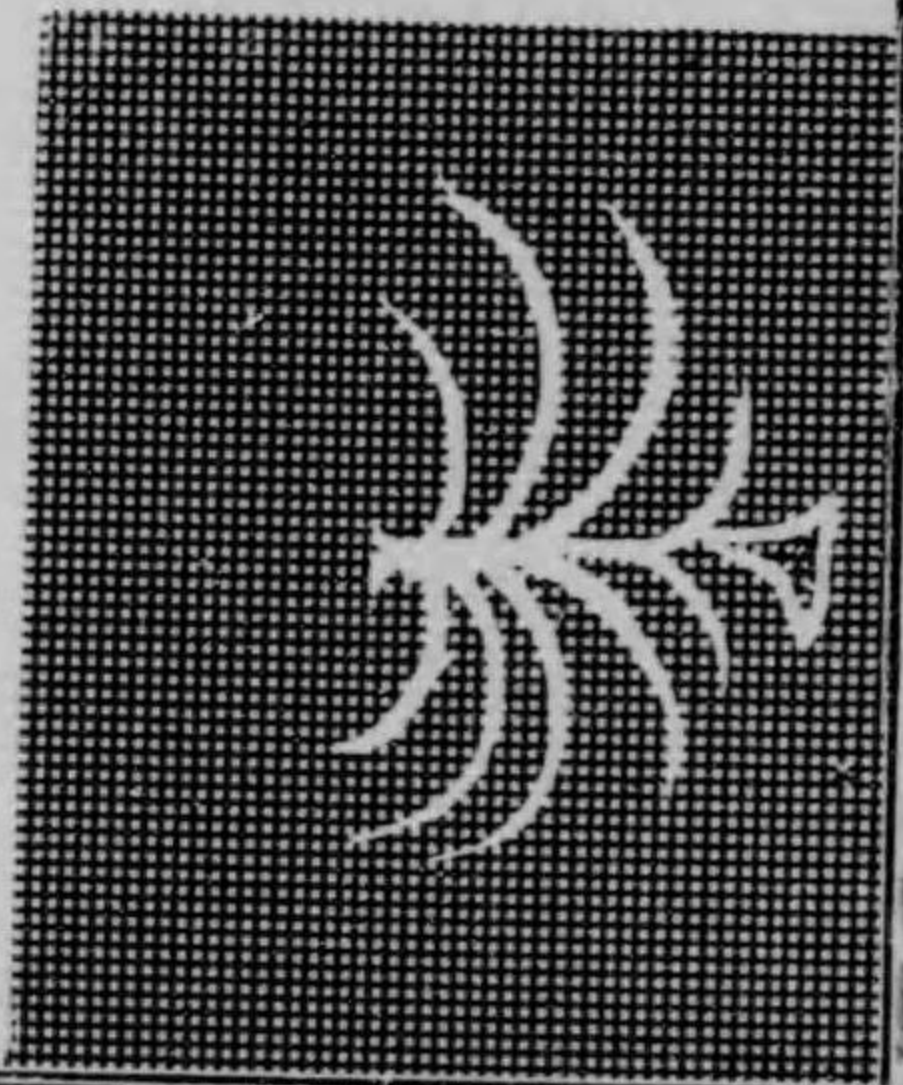
石川 照勤



殿奥寺勝新と首貫山田成



成田山正面

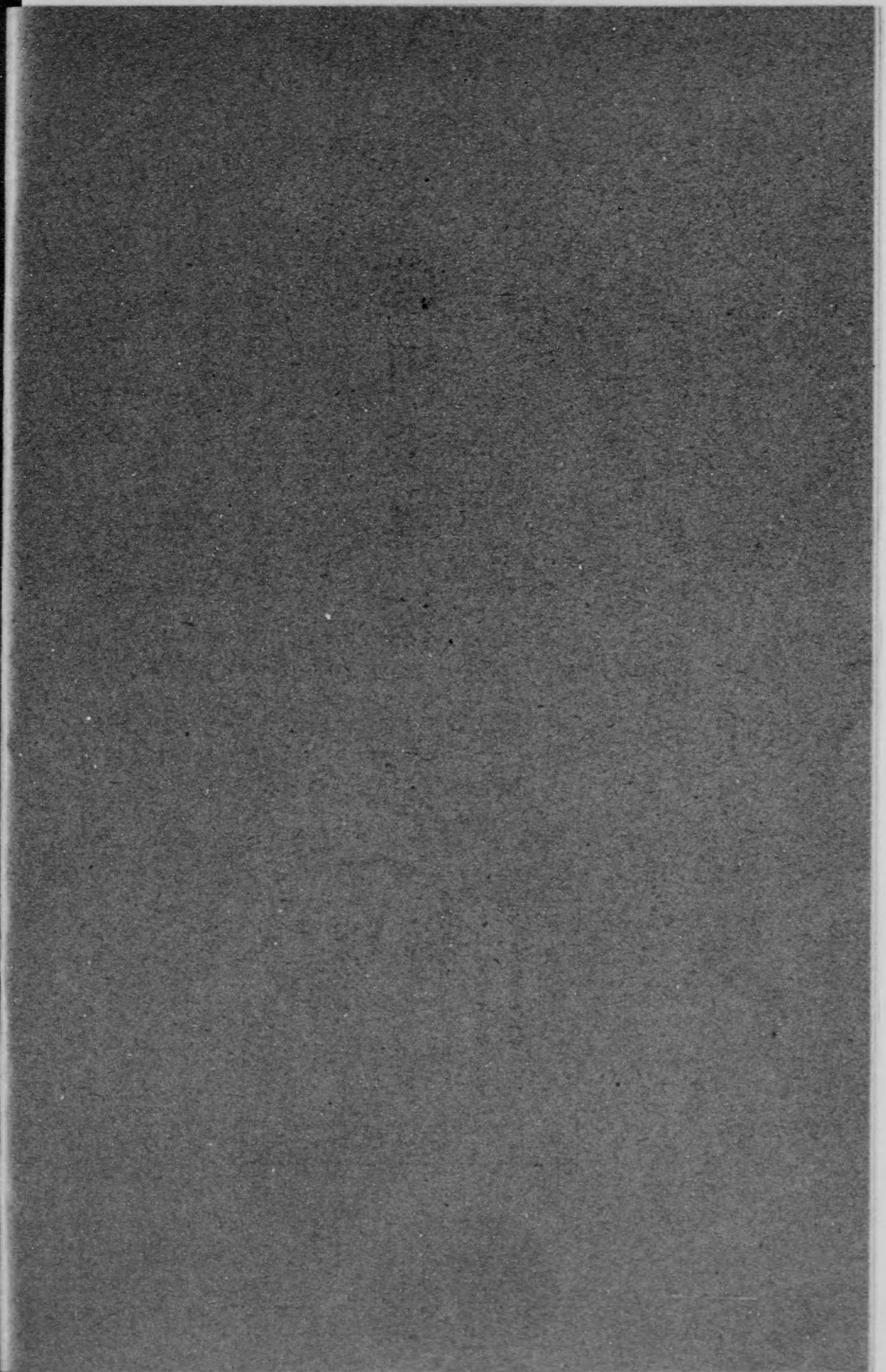


新勝寺客殿

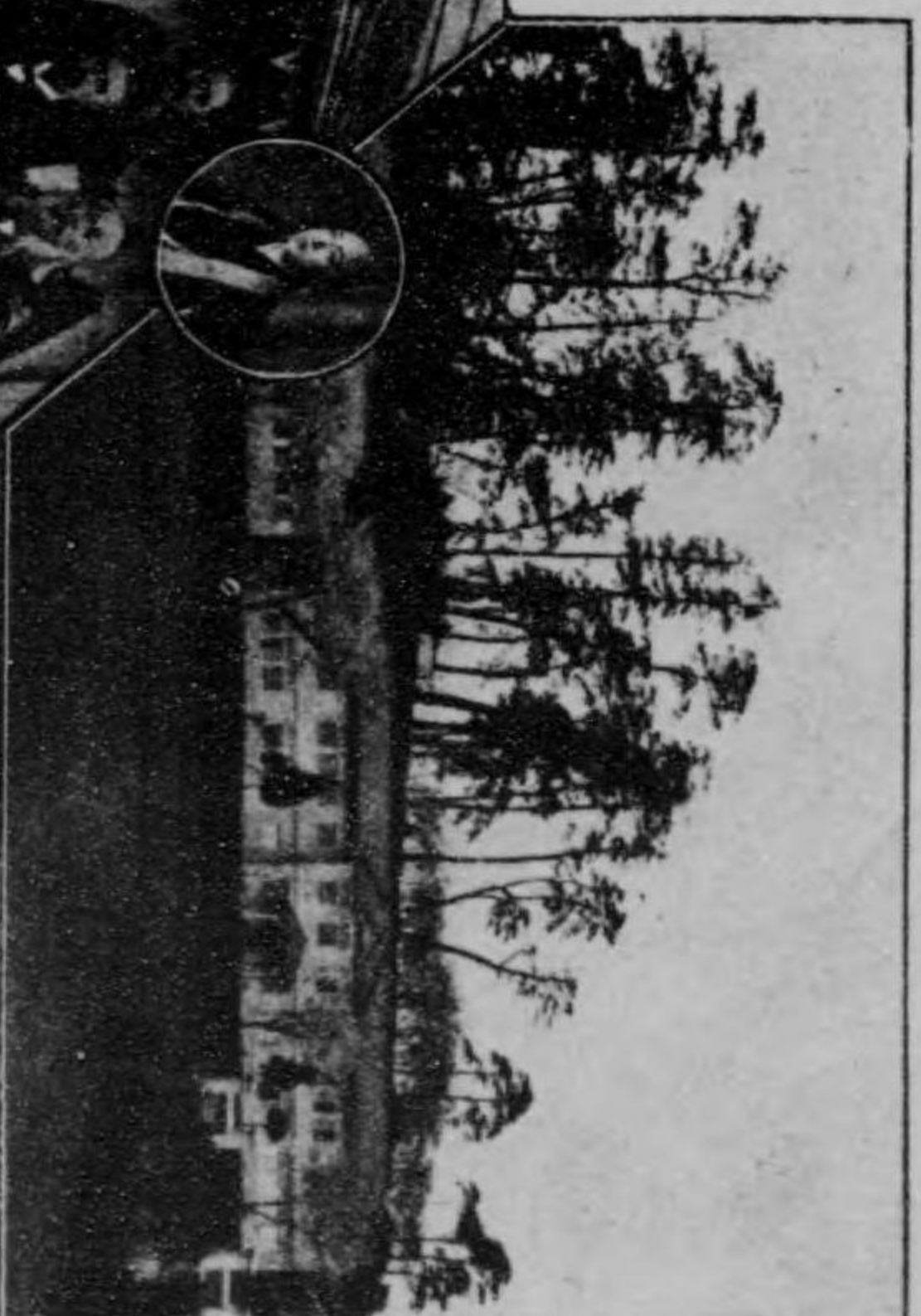
# 成田中學校一覽

沿革大略	一
學 曆	二
成田中學校校則	四
職員表	一〇
生徒表	一一
英漢義塾卒業生人名	一五
卒業生人名及現況表	一七
卒業生及生徒郡別表	二八
經 費	二八

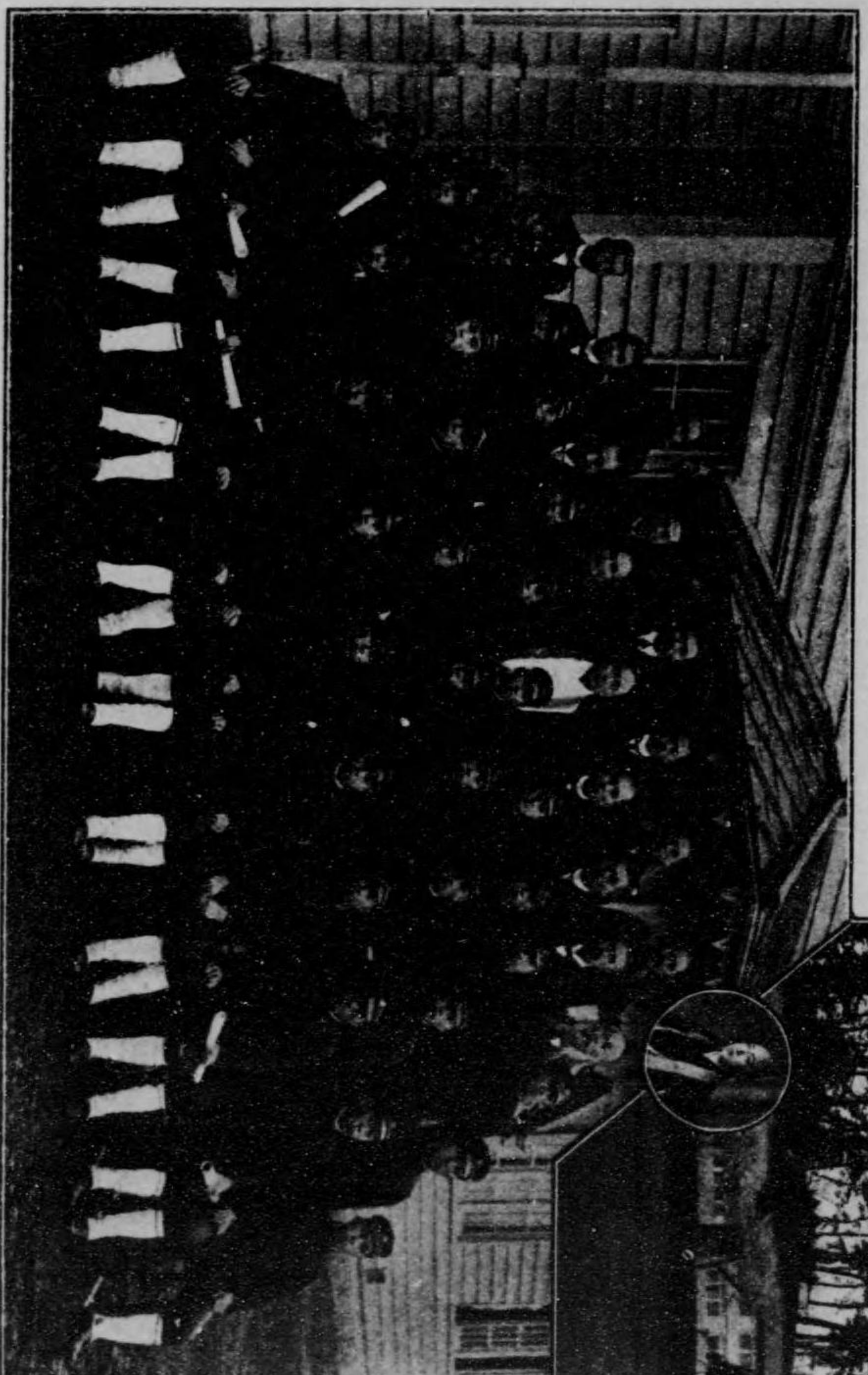




成田中學



全景



教職員及第十九屆畢業生



東京女子高等師範學校教授

文學士 柴尾上八郎氏作歌

學習院教官

巖玉 小松耕輔氏作曲

校

一 戦はをさまりはてし

ほがらけき東のみそら

燦爛と日こそはのぼれ

さめよさめよ成邱の健兒

二

靈域は不落のとりて

御すがたは降魔の守

葉牡丹の校旗のもとに

つどへつどへ成邱の健兒

歌

三

勤勉と克己と慈悲と

忠勇と剛毅と素朴

楯となし劍となして

立てよ立てよ成邱の健兒

四

全世界再び捲きて

起るべき平和のいくさ

光ある勝利の冠

とれよとれよ成邱の健兒

(第十八回卒業生寄贈)

(備考 音域高き時はへ調にて歌ふも可なり)

## 私立成田中學校一覽

(大正九年四月十二日現在)

### ◎沿革大略

私立成田中學校は明治三十一年十月七日文部大臣の認可を得て舊成田英漢義塾を改稱したるものにして、圖書館女學校幼稚園感化院と共に成田山新勝寺の施設せる公共事業の一部に係る。

英漢義塾は明治二十一年八月新勝寺先代の住職正七位大僧正三池照鳳師が有志石川甚兵衛(先代)、諸岡勝太郎(先代)其他の諸氏と謀り地方の公共教育機關として設立したる中等學校にして、全く三池師の篤志に出生したるなり。修業年限三箇年の規定にて高等小學校卒業以上及び其と同等の學力あるものを收容せり。宮村三多氏最初の塾長に任命せられ二十三年一月に至りて濱田義雄氏其跡を襲ふ此年第一回の卒業生を出す已にして濱田氏辭任し福山龜太郎氏來任せしが二十四年二月に至り和田玉一氏代り立てり。二十九年六月塾主三池師入寂せられ現貫首大僧正石川照勤繼で塾主となる。三十一年七月新勝寺院代少僧正服部照和師當時在歐中の塾主の囑託を受けて中學校認可を文部大臣に稟請

す。次で千葉縣知事安部浩氏臨校せらる。十月七日成田中學校と改稱の件認可下る。三十一年十一月文學士喜田貞吉氏校長に任せらる。三十二年三月文部次官奥田義人、商工局長木内重四郎兩氏臨校せらる。八月喜田氏辭任。竹内楠三氏來り代る。

此時まで學校は成田町宇東谷なる。現圖書館の地所に位置せしが中學校認可と共に現在校舎の土工を起し三十三年六月落成す。淺井造、宮田半左衛門、諸岡市郎左衛門(先代)、飯倉郁太郎の諸氏及評議員三橋金太郎氏建築委員として盡力せり。三月校主歸朝す。六月二十七日落成式を舉行す。文部大臣樺山資紀氏以下朝野の名士多數の參列あり。先是三十三年三月文部省告示第五號により徵兵猶豫の特典を附與せらる。又四月十日校旗授與式を行へり。三十四年七月竹内氏辭し校主石川照勤校長を兼ねて今に及ぶ。三十五年四月中學校となりての第一回卒業生を出す。知事代理來臨、七月栗根鐵藏氏校長事務代理を命ぜらる。三十六年三月第二回卒業生を出す。板垣退助伯來臨せらる。三十七年三

月第三回卒業式を行ひ千葉縣知事石原健三氏臨校。三十八年三月第四回卒業式を出す千葉縣知事代理臨席。三十九年三月第五回卒業式出づ、千葉縣知事代理臨席。四十年三月第六回卒業式を出す。四十一年三月第七回卒業式を出す。九月文學博士白島庫吉氏に本校顧問を囑託す。同月校長事務代理栗根氏辭任。文學士葛原運次郎氏來任。次で校長事務代理に校務主監の名稱を附す。四十二年三月第八回卒業式を。四十三年三月第九回卒業式を。四十四年三月第十回卒業式を。四十五年三月第十一回卒業式を。大正二年三月第十二回卒業式を送る。大正二年七月葛原主監辭任し文學士佐竹元二氏主監に任命せらる、大正三年三月第十三回卒業式を送る。大正四年三月文部省普通學務局長田所美治氏臨校せらる。大正四年三月第十四回卒業式を送る。大正四年六月生徒控場改築落成す。大正五年三月第十五回卒業式を送る。大正五年三月佐竹主監辭任。文學士佐藤禮云主監に任ぜらる。大正五年四月文部省參政官大津淳一郎氏の臨校あり。大正六年三月第十六回卒業式を行ひ文部大臣代理、千葉縣知事代理、陸軍大將福島安正閣下及上田文科大學長等臨校せらる。大正七年三

月第十七回卒業式を行ひ千葉縣知事折原巳一郎氏臨席せらる。大正八年三月第十八回卒業式を行ふ、千葉縣知事代理臨校あり。大正八年四月佐藤主監辭任。大正八年七月濱田丑之助氏主監に任ぜらる。大正八年九月文學博士喜田貞吉氏來校。大正九年三月第十九回卒業式を行ふ千葉縣知事代理臨校あり。

◎學 曆

四月  
一日 第一學期開始、春季休業始  
七日 春季休業終  
八日 第一學期始業式、入學式、午前八時始業  
中旬 一日遠足  
下旬 身體檢查

五月  
中旬 修學旅行

六月  
一日 夏服用、服裝檢查  
初旬 野球小會、庭球小會、文藝部小會  
七月  
中旬 第一學期試驗

第一學期終業式

廿一日 夏季休業始

八月

卅一日 第一學期終

九月

一日 第二期開始、始業式

十月

一日 冬服用、服裝檢查

七日 創立紀念日

中旬 武道小會、野球庭球大會、文藝會、運動會

卅一日 天長節祝日

十一月

一日 午前九時始業

上旬 遠足又は長距離競走

中旬 發火演習

十二月

中旬 第二學期試驗

下旬 第二學期終業式

廿六日 冬季休業始

卅一日 第二學期終

一月

一日 第三學期開始、新年拜賀式

七日 冬季休業終

八日 第三學期始業式

中旬 五年級生徒志望調査

至中旬 武道寒稽古

下旬 次學年教科書選定

二月

十一日 紀元節

中旬 武道大會、文藝會

下旬 校友會誌發行

三月

上旬 第五年級卒業試驗

第五年級終業式

中旬 第四年級以下學年試驗

第四年級以下終業式

中旬 卒業式

下旬 入學試驗

入學試驗合格者發表

卅一日 第三學期終

◎成田中學校校則

第一章 總則

第一條 本校は男子に須要なる高等普通教育をなすを以て目的とす

第二條 本校の修業年限を五箇年とし一年を以て一學年とす

但學年は四月一日に始まり翌年三月三十一日に終る

第三條 一學年を分ちて三學期とす左の如し

第一學期 四月一日より八月三十一日に至る

第二學期 九月一日より十二月三十一日に至る

第三學期 一月一日より三月三十一日に至る

第四條 休業日左の如し

各日曜日、開校記念日(毎年十月七日)大祭日、祝日、春季休業(四月一日より同七日に至る)夏季休業(七月二十一日より八月卅一日に至る)冬季休業(十二月二十五日より一月七日に至る)

第二章 學科課程及授業時間

第一條 各學科の配當并に毎週授業時數は別紙に依る

第三章 試験

第一條 試験を分ちて學期試験學年試験の二種とす

第二條 學期試験は第一學期及第二學期の終りに於て其學期間に授業せし科目に付之れを行ふ者とす第三學期試験は其學期間に於ける日課評點のみを以て之に充つ

第三條 學年試験は學年の終りに於て該學年間に授業せし全學科に付之れを行ふものとす

第四條 試験の評點は修身、國語及漢文、外國語、歴史及地理、數學、博物、物理及化學、法制及經濟、圖畫、唱歌、體操は各一學科毎に百點を以て最高點とす

第五條 各教員は其受持學科に就き日課點を附す

第六條 一科目の學期試験評點は其學期中に於ける日課點の平均點と學期試験點とを加へ其和を二除したるものとす

第七條 一科目の學年試験評點は各學期試験評點の平均の二倍に學年試験點を加へ其和を三除したるものとす

第八條 各學年の學年評點五十點以上總約點六十點以上を得るにあらざれば進級するを得ず但三十五點以上

學科課程毎週教授時數表

學科	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年
修身	生徒心得、教育勸語、作法	道徳の要領	同上	戊申詔書、道徳の要領、我國道徳の特質、作法	同上
國語	講文、習字	同上	同上	講讀、文法	講讀、作文
漢文	讀方、譯解、會話、習字	同上	同上	同上	同上
英語	讀方、譯解、會話、習字	同上	同上	同上	同上
歴史	日本地理	日本歴史	東洋歴史	西洋歴史	日本歴史
地理	同上	同上	同上	同上	同上
數學	算術	代數	幾何	同上	代數、幾何
博物	植物、動物	同上	動物、生理	礦物、通論	同上
物理	同上	同上	同上	同上	同上
化學	同上	同上	同上	同上	同上
法制	同上	同上	同上	同上	法制經濟
圖畫	自在畫	同上	同上	同上	同上
體操	器械體操	同上	同上	同上	同上
唱歌	同上	同上	同上	同上	同上
計	三九	三九	三〇	三三	三三

上のもの一學科又は四十點以上のもの二學科以下あるも總約點六十點以上なるときは進級せしむ

第九條 學年試驗及び學期試驗に正當の事故の爲め豫め届出の上缺席したるものは補缺試験を行ふことあるべし但此の場合に於ては其得點の十分の二を減じ之れを試験點と定む

第四章 入學及退學

第一條 生徒の入學は毎學年の始とす但缺員あるときは學期の始めに於て募集することあるべし

第二條 本校第一學年級に入學を許すべきものは尋常小學校第六學年卒業のものは其卒業證により其他の志願者は入學試験に合格せるものを取る但尋常小學校第六學年卒業の者と雖も志願者の數募集人員に超過するときは入學試験を執行すべし

第三條 第一學年級の入學試験は尋常小學校第六學年を修了したるものに對しては讀書、作文、習字、算術の四科目に就き其他の志願者に對しては尙ほ日本地理、日本歴史を加へ尋常小學校第六學年卒業以上の程度に依り試験を行ふべし

第四條 第二學年級以上に入學を許可すべきものは相當

年齢に達し其學級に相當する學力試験に合格したるものに限る

第五條 他の中學校より轉學せんと欲する者ある時は缺員ある場合に限り入學を許可することあるべし但前學校と學科の配當に差異あるときは其學科に限り試験を行ひ前學校と同年級或は一級下に編入す

第六條 凡て本校に入學せんと欲するものは體格検査を施し合格せざるものは入學を許可せず

第七條 入學志願者は左の書式に依り入學願書に履歴書を差出すべし但尋常小學校六學年以上の課程を了へたる入學志願者は更に修業證書又は卒業證書を添へ該書なき者は校長又は首席訓導の證明書を添ふべし

入學願書

(用紙半紙 二ツ折)

私儀御校何年級に入學志願に付御許可相成度此段奉願候也

年 月 日

住所族籍

戸主誰子弟 姓名印  
成田中學校長 何 誰 殿 生年月日

履歷書 (用紙半紙 二ツ折)

本籍何府何縣何市何郡町村何番地  
現在、、、、、  
族籍、戸主に非れば誰子弟、

一何年何月より何年何月まで何學校に何學修業  
一何年何月何學校を修業  
一、、、、、  
一何年何月何の廉に付何賞或は何罰を受く  
右之通相違無之候也  
年 月 日 右 姓名印

第八條 入學の許可を得たるものは一週間以内に左式の在學證書并に戸籍謄本を差出すべし

在學證書 (用紙半紙 二ツ折)

保證人の印

參入 收紙 印

私儀今般入學御許可相成候に付ては在學中御規則命令等堅く遵奉可仕候也

住 所 誰子弟 姓名印  
住 所 誰子弟 姓名印  
前記之通相違無之候に付拙者保證人に相立ち御規則命令等堅く相守らせ本人に關する事件一切引受可申候也

年 月 日 住 所 族籍職業 姓名印  
年 月 日 住 所 族籍職業 姓名印  
右保證人は丁年以上の男子にして本町(村)内に於て一家計を立つる者に相違無之候也  
成田中學校長 何某殿 姓名印  
何府何縣何國何郡市何町村長 何某 姓名印

第九條 保證人は父兄親戚又は後見人中丁年以上の男子にして一家計を立つる者に限る

第十條 保證人は豫め本校長の承諾を得たるものたるべし

第十一條 保證人の資格上不適當と認むるときは之れを變更せしむることあるべし

第十二條 左の場合に於ては退學を命ず

- (一) 性行不良にして改善の見込なしと認めたる者
- (二) 學力劣等にして成業の見込なしと認めたる者
- (三) 引續き一箇年以上缺席したる者
- (四) 正當の事由なくして引續き一ヶ月以上缺席したる者

(五) 授業料怠納二ヶ月以上に亘るもの

(六) 疾病事故に因り學業を履修する能はざるものと認むるもの

(七) 出席常ならざるもの

第十三條 中途退學せんと欲するものは保證人連署を以て其理由を具し願出づべし

第五章 授業料

第一條 授業料は一ヶ月金壹圓八拾錢とす

第二條 生徒在學中は出席の有無に拘はらず毎月五日迄に納むべし但毎年八月は納むるを要せず

第三條 授業料納付期日を過ぎ五日以内に尙ほ納めざるものは納入済まで停學を命じ保證人をして之を納めしむ

第四條 入學の許可を得たるものは入學金壹圓を納むべし

第五條 左の各項に該當するものは授業料を減免す  
一 學力優等品行方正にして他生の模範たるべきもの  
一 戦時若しくは事變に際し召集せられたる者の子弟  
一 貧困にして資力なく學力品行中等以上なるもの但此第三の場合に於ては父兄又は後見人より特に願書を差出さしめ又本人に對しては相當の義務を負はしむ

第六章 賞罰

第一條 品行方正學術優等の者には一學年間の授業料を免除し又は賞品賞狀を授與することあるべし

第二條 規則命令に違背し又は風紀を害するものは戒飭、留置、停學、放校の罰に處す

第三條 學校の建物器具器械標本等を毀損又は亡失し

たるときは相當の賠償をなさしむることあるべし

第七章 寄宿舎

第一條 寄宿舎は本校生徒にして父兄及保證人の住宅より通學し能はざるものをして寄宿せしむる所とす但場合により下宿を命ずることあるべし

第二條 寄宿生は一ヶ月の食費として金五圓舍費として金十錢毎月五日以内に納むべし若し故なくして期間内に納めざる者は退舎を命じ未納の費額は保證人より追徴す

但食費の外炭油料の實費を徴集す

第三條 入舎の許可を得たるものは左の保證書を差出すべし

形籖	保證書
參入	(用紙半紙)
錢印	折
收紙	

御校何年生某儀今般寄宿舎へ入舎致し候上は本人入舎中金員物品の辨償は勿論本人身上に關する一切の事件負擔可仕候仍て保證書如件年 月 日 住所番地族籍 保證人 姓 名 印 成田中學校長 何誰殿

第四條 保證人に異動あるときは直ちに届出相當の手續をなすべし

第五條 退舎せんと欲するものは事由を記し保證人連署の上願書を差出し許可を受くべし

第八章 服制

第一條 生徒登校の時は必ず制服制帽を用ふべし

第二條 制帽の地質は黒羅紗にして本校の徽章を附すべし

第三條 制服はジャケット製ホツク止めにして冬服の地質は紺色又は黒色のヘル若しくは小倉織を用ふべし

第四條 製服を未だ調製せざるもの若しくは汚損したるものは代用服を着用すべし

第五條 代用服は筒袖にして袴を着用すべし

第六條 製服又は代用服を着用するにあらざれば教場に入るを許さず但新入學生に限り指定の期間中制服調製の間は特に代用服を許す











私立成田中學校一覽

佐倉實科高女教諭(早大卒業)

實業

醫師(千葉醫專卒業)

小學校教師

中央新聞社在職

栃木縣原軌道會社

早大卒業

實業

千葉縣鐵道課二里塚驛助役

實業

實業

三井物産會社員(東京高商卒業)

醫師(慈惠醫學士)

日本生命保險會社醫(京都醫專卒業)

大木 榮次郎 印旛中郷

×坪井 節爾 千葉千葉

秋葉 有一郎 山武千代田

小幡 久 石川金澤

安達 胤治 山武千代田

鈴木 亮 印旛公津

辻 英吉 東京荏原

高仲 喜代松 印旛遠山

湯淺 儀三郎 印旛八生

藤崎 俊一 印旛富里

×藤崎 宗平 印旛遠山

小川 明 印旛中郷

黒川 傳 印旛成田

石原 泰次郎 印旛成田

松本 保 大分宇佐

德島縣立臨町中學校教諭

(京都高等工藝卒業)

北海通藤田組加比字牧場技師

(東京農大卒業)

野田電燈會社支配人

(日本大學卒業)

實業

南滿鐵道本社在職

實業

實業

實業

實業

實業

×澤田 信三 印旛久住

小野寺英二郎 印旛成田

仁科 一 靜岡靜岡

鈴木 七郎 印旛八生

山野 隆治 印旛成田

萩原 長三 山武千代田

丸 良輔 印旛公津

石原 清泉 印旛成田

作田 紋平 山武鳴瀆

淺井 信之 印旛成田

×石橋 堯之助 印旛成田

松本 頼三 東京京橋

古矢 誠助 印旛成田

宮田七右衛門 印旛八生

清宮 俊平 印旛八生

第五回卒業生

(明治三十九年三月)

×小倉 榮二郎 印旛成田

長谷川 治吉 印旛成田

土肥 多助 印旛富里

三橋 英治 印旛成田

×土屋 圓 山武瑞穂

佐藤 繁藏 安房由基

山野 裕三 印旛成田

第六回卒業生

(明治四十年三月)

農學士 大塚 靜 印旛成田

法學士 石川 芳太郎 印旛安食

×石川 金太郎 印旛安食

櫻井 重助 香取遠山

泉 顯藏 茨城行方

黒川 孝 印旛成田

石橋 昇 印旛富里

×稻生 恭平 印旛木下

三浦 照芳 印旛佐倉

丸 武夫 印旛公津

藤田 正己 印旛八生

×三好 達也 印旛富里

龍崎 源 山武千代田

×三好 照實 山武二川

飯倉 汎三 印旛成田

×石橋 清 印旛富里

×香取 實 印旛成田

×鈴木 三郎 東京品川

×稻垣 保治 印旛成田

×三好 照正 印旛成田

×大島 慎三 印旛八生

×大島 三郎 印旛八生

林 正四郎 印旛富里

篠原 昇 印旛成田

高野 照實 印旛成田

×木内喜右衛門 印旛成田

×松本 修一 高知安藝

陸軍三等軍計(在四街道)

寫真術研究

實業

實業

實業

實業

實業

實業

實業

第七回卒業生

(明治四十一年三月)

(長谷川改)

五木田 康吉 印旛成田

×石井 延太郎 印旛遠山

三橋 治平 印旛富里

×飯島 貞雄 東京芝

土井 彌一 印旛公津

藤崎 翠 印旛遠山

麻布赤坂醫學校卒業(騎兵少尉)

僧侶(智山勤學院卒業)

實業

實業

實業

實業

實業

實業

實業

實業

實業

實業

實業

私立成田中學校一覽



私立成田中學校一覽

實業

大塚七郎

印旛成田

實業

新橋

櫻井和

印旛豐住

新潟醫專在學

青柳公

印旛公津

實業

池田一介

大木喜三郎

印旛富里

東京赤坂區役所

萩原章吾

印旛安食

實業

飯塚英夫

竹村和

印旛富里

實業

栗原照宣

東京八王子

小學校教師

淺岡惠太郎

飯塚英夫

香取多古

實業

齋藤義秀

印旛遠山

實業

菅澤忠高

三橋仙次

印旛富里

實業

加藤英一郎

印旛成田

實業

早川重雄

藤崎源之助

印旛成田

實業

石井鼎

印旛遠山

實業

山田白民

蛭田白民

印旛八生

實業

鈴木佐太郎

印旛富里

實業

丸山才

清水長

印旛八生

實業

內田浩平

茨城行方

東京高商在學

丸山才

清水長

印旛八生

實業

瀧澤榮亮

印旛成田

東京高商在學

山田白民

清水長

印旛八生

實業

東美義照

東京淺草

東京高商在學

山田白民

清水長

印旛八生

實業

辻愛吉

印旛遠山

東京高商在學

山田白民

清水長

印旛八生

實業

內海喜男

印旛八生

東京高商在學

山田白民

清水長

印旛八生

實業

葛生清三郎

香取滑川

東京高商在學

山田白民

清水長

印旛八生

實業

三橋有方

印旛富里

東京高商在學

山田白民

清水長

印旛八生

實業

小柳秀吉

印旛成田

東京高商在學

山田白民

清水長

印旛八生

實業

岩澤忠二

山武二川

東京高商在學

山田白民

清水長

印旛八生

實業

塚本憲一郎

香取滑川

東京高商在學

山田白民

清水長

印旛八生

實業

青木榮俊

京都下京

東京高商在學

山田白民

清水長

印旛八生

實業

藤崎鑽

愛媛松山

東京高商在學

山田白民

清水長

印旛八生

實業

稻川義雄

印旛成田

東京高商在學

山田白民

清水長

印旛八生

實業

長竹彦次郎

印旛成田

東京高商在學

山田白民

清水長

印旛八生

實業

大木健

香取滑川

東京高商在學

山田白民

清水長

印旛八生

實業

榑利一

印旛成田

東京高商在學

山田白民

清水長

印旛八生

實業

出山博

印旛成田

東京高商在學

山田白民

清水長

印旛八生

實業

貝原塚豐

印旛八生

東京高商在學

山田白民

清水長

印旛八生

實業

瀧澤誠

印旛成田

東京高商在學

山田白民

清水長

印旛八生

實業

瓜生勘之丞

香取多古

東京高商在學

山田白民

清水長

印旛八生

實業

佐瀬旭

印旛八生

東京高商在學

山田白民

清水長

印旛八生

實業

田島俊一

茨城鹿島

東京高商在學

山田白民

清水長

印旛八生

實業

箕輪平三

茨城鹿島

東京高商在學

山田白民

清水長

印旛八生

第十四回卒業生 (大正四年三月)

海軍經理學校在學

岡部義麿

印旛遠山

實業

鈴木金候

鈴木金候

山武二川

第五高等在學

三橋藤太郎

印旛成田

實業

鈴木金候

鈴木金候

山武二川

千葉醫專在學

木川浩逸

香取東條

實業

鈴木金候

鈴木金候

山武二川

拓殖大學在學

藤崎總三郎

印旛遠山

實業

鈴木金候

鈴木金候

山武二川

實業

小倉要

印旛成田

實業

鈴木金候

鈴木金候

山武二川

實業

石井操

印旛遠山

實業

鈴木金候

鈴木金候

山武二川

私立成田中學校一覽

上田蠶糸專門學校在學

藤崎鑽

印旛遠山

實業

戶村嘉平

戶村嘉平

山武二川

東京齒科醫專在學

稻川義雄

愛媛松山

實業

大木嘉平

大木嘉平

山武二川

早大商科在學

長竹彦次郎

印旛成田

實業

齋藤篤三郎

齋藤篤三郎

山武二川

實業

大木健

香取滑川

實業

丸山善一

丸山善一

山武二川

實業

榑利一

印旛成田

實業

丸山善一

丸山善一

山武二川

實業

出山博

印旛成田

實業

丸山善一

丸山善一

山武二川

第十三回卒業生 (大正三年三月)

日本棉花株式會社外國課在勤

青木榮俊

京都下京

東京高商在學

丸山善一

丸山善一

山武二川

東京外國語學校英語科卒業

塚本憲一郎

香取滑川

東京高商在學

丸山善一

丸山善一

山武二川

實業

小柳秀吉

印旛成田

東京高商在學

丸山善一

丸山善一

山武二川

實業

岩澤忠二

山武二川



鐵道院在學  
早大商科在學  
實業  
國學院大學在學  
成田鐵道會社  
耕地整理技手  
實業

第十八回卒業生

高橋 巖 印旛成田  
田中 藤治 香取 小門  
小川 總良 山武 千代田  
古川 規矩藏 山武片貝  
土井 規矩藏 印旛公津  
長谷川 藤市 印旛成田  
武士田 胖 印旛成田  
實川 和男 山武 千代田  
藤崎 英亮 印旛遠山  
安藤 俊行 印旛久住  
林 一 郎 印旛八生  
日暮 文輝 印旛豐住  
伊藤 三郎 印旛遠山  
宮原 三郎 印旛久住  
藤崎 忍 印旛遠山  
鈴木 茂喜 印旛久住  
湯淺 三吾 印旛八生  
湯淺 武之助 印旛八生  
千脇 武之助 千葉更科  
篠原 岩次郎 印旛成田  
石川 順 印旛成田  
糸川 平 印旛久住  
石橋 正也 印旛成田

實業  
實業  
實業  
國學院大學在學  
小學校教師(千葉師範卒業)  
早稻田大學在學  
一年志願兵  
兵 役

葛生 幸吉 印旛安食  
藤崎 信助 印旛富里  
根本 新一 茨城稻敷  
林 正雄 印旛成田  
澤田 武 印旛中郷  
小川 了介 山武 千代田  
廣瀬 光亮 印旛豐住  
香取 舜治 山武 二川  
石橋 孝三郎 印旛成田  
丸 善衛 印旛公津  
福田 直四郎 東京本郷  
藤崎 隆二郎 印旛遠山  
池田 春之助 印旛中郷  
伊藤 公平 印旛八生  
小川 太郎 香取 本郷  
大川 弘之 香取 多古  
瀧澤 德治 印旛成田  
小倉 仁 印旛成田  
猪瀬 堯澄 印旛布織  
武藏 行敬 印旛永治  
山崎 信男 印旛高岡  
檜垣 省吾 印旛久住

千葉師範二部在學  
實業  
實業  
實業

第十九回卒業生

四宮 操 印旛富里  
吉川 巖 印旛中郷  
神崎 俊之助 印旛遠山  
相原 理三郎 印旛公津  
石橋 進 印旛富里  
伊藤 源右 印旛中郷  
福田 郁次郎 茨城縣  
深山 陽 印旛江津  
若命 富郎 橫濱市  
岩立 源一郎 香取 滑川  
高橋 勇 印旛公津  
加藤 武夫 同 成田  
山崎 一雄 同 永治  
鈴木 藤吉 同 安食  
木内 芳雄 同 成田  
大野 龜之助 同 酒々井  
宮崎 廣則 同 成田  
藤崎 章 同 遠山  
伊藤 俊一 同 久住  
小川 秀一 同 公津  
竹村 好壽 同 成田  
下村 權之尉 同 八生  
石井 權之尉 同 遠山

東京商科醫專在學  
千葉師範二部在學

石井 庄平 印旛成田  
萩原 英一 同 成田  
甲田 與市 同 遠山  
千葉 稜二 茨城縣  
林 榮昌 印旛八生  
平山 美雄 香取 多古  
石井 美雄 印旛富里  
山崎 規矩治 同 木下  
阿部 利雄 同 豐住  
竹村 忠男 同 富里  
篠崎 平吉 同 遠山  
磯山 儀一 老海名  
寺內 五市 印旛公津  
吉岡 彰 同 中郷  
藤崎 慶司 同 中郷  
飯田 榮亮 香取 大須賀



卒業生及生徒郡別表  
(在大正九年四月現)

卒業生	計	學年					區別	
		一學年乙組	一學年甲組	二學年乙組	二學年甲組	三學年	四學年	五學年
三	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	千葉市原
四	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	東葛飾
二 三 六 一	三 一 九 六	一 二 四	一 二 六	一 二 〇	〇 二 二	〇 四 一	〇 三 五	印旛
三 二	一 七	〇	一 五	三	五	一	二	香取
一	二	一	〇	〇	〇	〇	〇	海上
一	二	〇	一	〇	〇	一	〇	匝瑳
三 三	一 八	一	三	四	一	六	二	山武
三	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	長生
一	二	〇	〇	〇	〇	〇	一	夷隅
二	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	君津
四	三	一	一	〇	〇	〇	一	安房
四 六 四 九 二	三 〇 二 七 三	九 三 七	五 三 八	〇 三 〇	四 三 〇	六 三 〇	二 四 一	他府縣
		三 七	三 八	三 〇	三 〇	六 〇	四 一	計

經費

年度	俸給	雜給	需用費	雜費	賞費	營繕費	平常金	豫備金	合計
大正八年度決算	八,104,100	11,738,863	4,444,110	8,644,633	1,227,300	4,420,300	3,650,330	5,967,500	41,197,136
大正九年度豫算	10,434,000	10,110,000	4,731,000	6,626,000	1,025,000	2,180,000	3,332,000	2,126,750	40,487,750

成田高等女學校一覽

學 曆	二九
沿革略	二九
大正八年度重要記事	三〇
學 則	三一
職員表	三五
生徒表	三五
成田山女學校卒業生人名	三七
卒業生人名及現況	三八
經費統計概表	四二

# 露光量違いの為重複撮影



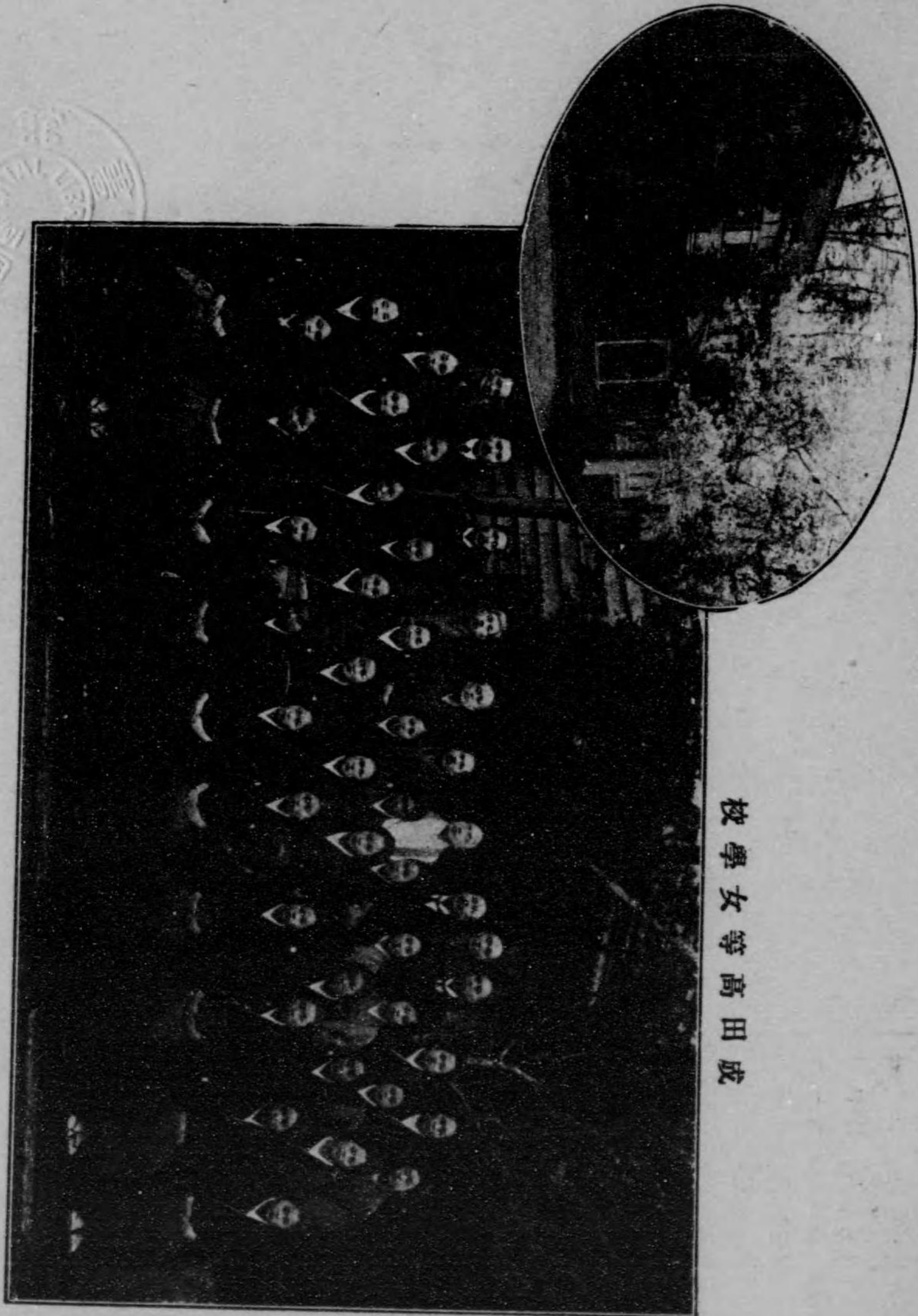
校學女等高田成

生業卒回九第及員職教

## 大 學 正 九 年 曆

第一學期 自四月一日至八月三十一日	第二學期 自九月一日至十二月三十一日	第三學期 自一月一日至三月三十一日	每月 第一月曜日講堂訓話	每月 第三月曜日學級會
四月	五月	六月	七月	八月
五日 春季休業終	六日 入學式、始業式	七日 午前八時半始業	中旬 同窓會	中旬 教授豫定記入
下旬 身體檢查	中旬 遠足	十日 午前八時半始業	中旬 校友會運動部會	廿七日 海軍記念日
上旬 校友會學藝部會	廿五日 地久節	七月	十一月	十一月 午前九時始業
十一月 校友會運動部大會	十二月	十一月 修學旅行	中旬 校友會學藝部會	中旬 保證人會
三十一日 天長節	九月	一日 始業式	二日 午前八時半始業	中旬 教授豫定記入
八月	九月	廿一日 第二學期授業終	廿四日 成績發表、終業式	廿五日 夏季休業始
三十日 明治天皇祭	十月	十一月	十一月 天長節祝賀式	十二月
十一月	十二月	十一月 紀元節祝賀式	十三日 創立記念祝賀式	同日 校友會學藝部大會
本月 卒業者ノ志望調査	三月	十七日 陸軍記念日	十七日 第三學期終	廿七日 成績發表、終業式
廿二日 證書授與式	廿六日 春季休業始	廿一日 第二學期授業終	廿四日 成績發表、終業式	廿五日 冬季休業始
一月	一月	一日 新年祝賀式	七日 冬季休業終	八日 始業式
中旬 教授豫定記入	中旬 來學年度教科書選定	二月	十一日 紀元節祝賀式	十三日 創立記念祝賀式
同日 校友會學藝部大會	本月 卒業者ノ志望調査	三月	十七日 陸軍記念日	十七日 第三學期終
廿七日 成績發表、終業式	廿二日 證書授與式	廿六日 春季休業始		

露光量違いの為重複撮影



女學高等田高

教職員第九回卒業生

◆ 誌

大學正九年曆

<p>第一學期 自四月一日至八月三十一日                  第二學期 自九月一日至十二月三十一日                  第三學期 自一月一日至三月三十一日                  每月 第一月曜日講堂開講                  每月 第三月曜日學業會</p>	<p>四月                  五日 春季休業終                  六日 入學式、始業式                  七日 午前八時半始業                  中旬 同慶會                  中旬 教授決定記入                  下旬 身體検査</p>	<p>五月                  中旬 始業式                  下旬 教授決定記入                  廿七日 講義記念日</p>	<p>六月                  上旬 校友會學業會                  廿五日 始業式</p>	<p>七月</p>	<p>廿一日 第二學期授業終                  廿四日 成績發表、終業式                  廿五日 夏季休業始                  三十日 明治天皇祭</p>	<p>八月                  三十一日 天皇節</p>	<p>九月                  一日 始業式                  二日 午前八時半始業                  中旬 教授決定記入</p>	<p>十月                  中旬 修業旅行                  中旬 校友會學業會                  中旬 教授決定記入                  三十一日 天皇節祝賀式</p>	<p>十一月                  一日 午前九時半始業                  中旬 校友會學業會</p>	<p>十二月</p>	<p>二十一日 第二學期授業終                  廿四日 成績發表、終業式                  廿五日 冬季休業始</p>	<p>一月                  一日 新年祝賀式                  七日 冬季休業終                  八日 始業式                  中旬 教授決定記入                  下旬 學業會學業會</p>	<p>二月                  十一日 紀元節祝賀式                  十三日 創立記念祝賀式                  同日 校友會學業會大會                  本月中 卒業生ノ志願調査</p>	<p>三月                  十日 始業式                  十七日 第三學期始業                  廿二日 成績發表、終業式                  廿六日 春季休業終</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------	-----------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------	------------	--------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

# 私立成田高等女學校一覽

## ◎沿革略

本校は元私立成田山女學校と稱し明治四十一年四月の創立に係り明治四十四年二月文部大臣の認可を得て成田高等女學校と改稱す所謂成田山五專業の一にして校主兼校長たる現成田山貫首石川僧正の慈心の下に生々發達しつゝあるものなり

本校に理事ありて校主兼校長を補査す石川甚兵衛、三橋金太郎、三橋重郎兵衛、小野寺清三郎の四氏は即ち其人にして石川理事現に専務たり

明治四十四年二月十三日文部大臣より本校設立の認可を受けてより爾後の沿革は大略左の如し

- 一 明治四十四年三月廿一日本校々則を制定す
- 一 同 四月一日成田中學校教諭中島喜一(高等師範學校出身)校務主監兼教諭に任ぜらる
- 一 同 四月一日、二日の兩日以て二、三、四學年の編入試験を行ふ
- 一 同 四月五日生徒八十四名に入學を許可し之を本科第四學年以下の各學年に分編す、同日始業

私立成田高等女學校一覽

## 式を行ふ

- 一 明治四十五年三月第一回卒業生を出し、千葉縣知事臨席す
- 一 四十四年十二月増築に着手せし雨中體操場、理科教室及普通教室等工を竣へ大正元年十一月より使用したり
- 一 大正二年三月第二回卒業生出つ
- 一 大正二年九月校務主監兼教諭中島喜一休職を命ぜらる
- 一 同 十月理學士菅野皆可校務主監兼教諭に任ぜらる
- 一 大正三年三月第三回卒業生を出す
- 一 大正四年三月第四回卒業生を出せり
- 一 大正五年三月第五回卒業生を出す
- 一 大正六年三月第六回卒業生を出せり
- 一 同 十一月校務主監兼教諭菅野皆可休職を命ぜらる
- 一 同 十一月文學士中村安之助校務主監兼教諭に任ぜらる
- 一 大正七年第七回卒業生を出せり

- 一大正八年三月第八回卒業生を出せり
- 一大正八年十月中村校務主監死去
- 一大正八年十二月文學士矢野太郎校務主監に任せらる
- 一大正九年三月第九回卒業生を出せり

◎大正八年度重要記事

- 四月五日 入學式、始業式、相馬教諭就任披露
- 四月十四日 佐野教諭就任披露、第二回同窓會ヲ開ク
- 四月廿六日 職員全生徒を引卒して香取神宮ニ遠足
- 五月十二日 中江教諭就任披露
- 五月十五日 富澤教諭就任披露
- 五月廿六日 石川僧正猥下在職二十五年祝賀會を校内に開かる
- 六月廿日 三神教諭本縣中等學校教務打合會のため安房中學校に出張
- 六月廿五日 地久節祝賀式舉行
- 七月廿三日 第一學期終業式
- 九月廿二日 本縣中等學校數學科受持教員打合會に富澤教諭千葉中學校に出張

- 十月三日 家事科教員打合會に中江教諭本縣女子師範學校に出張
- 十月六日 中村校務主監病氣靜養中死去
- 十月九日 伊藤囑託教師依願解職
- 十月十四日 三學年江の島鎌倉、四學年日光方面に修學旅行の途に就く
- 十月十八日 一、二學年小御門方面ニ遠足
- 十一月十日 第五回運動部大會開催
- 十一月十二日 故校務主監中村先生の追悼會を開く
- 十二月一日 矢野氏本校々務主監に就任披露
- 十二月廿四日 第二學期修業式
- 一月一日 新年祝賀式
- 一月廿二日 大島本縣視學官來校
- 一月廿八日 本縣廳内に開催の中等學校長會議に矢野校務主監出張
- 二月十一日 紀元節祝賀式
- 二月十三日 創立記念式、第八回學藝部大會開催
- 三月廿二日 第九回證書授與式卒業生三十一名
- 三月廿四日 入學試驗施行
- 三月廿七日 第三回同窓會を開く

三月三十一日 三神教諭依願解職

◎學則

第一章 總則

- 第一條 本校ノ修業年限ハ本科四箇年トス
- 第二條 生徒定員ハ百六十八トス
- 第三條 休業日ハ左ノ如シ
  - 一、祝日、大祭日
  - 二、日曜日
  - 三、皇后陛下御誕辰
  - 四、紀念日、二月十三日
  - 五、春季休業三月廿五日ヨリ四月四日ニ至ル
  - 六、夏季休業七月廿五日ヨリ八月卅一日ニ至ル
  - 七、冬季休業十二月廿六日ヨリ翌年一月七日ニ至ル

第二章 學科課程及教授時數

- 第四條 本科ノ學科目ニ編物袋物插花按摩ヲ加ヘ隨意科目トス
- 第五條 學科課程及ビ教授時數ハ左ノ如シ

私立成田高等女學校一覽

學科	年級			
	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
修身	二 八倫道德ノ要旨、作法	二 全	二 全	二 全
國語	七 講讀、作文、習字	十 全	五 全	五 講讀、作文
英語	二 讀方、習字	二 全	二 全	二 全
漢語	二 讀方、習字	二 全	二 全	二 全
歷史	三 本邦地理	三 外國地理	三 外國歷史	三 地理通論
地理	三 本邦地理	三 外國地理	三 外國歷史	三 地理通論
數學	三 算術、珠算	三 算術、代數、幾何	三 算術、代數、幾何	三 算術、代數、幾何
理科	二 植物、動物	二 植物、動物	二 植物、動物	二 植物、動物
圖畫	一 自在畫	一 全上幾何畫	一 全	一 全
家事	一 裁縫	三 裁縫	三 裁縫	三 裁縫
音樂	二 單音唱歌	二 全	二 全	二 全
體育	三 普通體操	三 全	三 全	三 全
教育	二 教育學	二 全	二 全	二 全
編物	一 編物	一 全	一 全	一 全
袋物	一 袋物	一 全	一 全	一 全
插花	一 插花	一 全	一 全	一 全
按摩	一 按摩	一 全	一 全	一 全

第三章 入學及退學

- 第六條 生徒募集ハ學校長期日學年及人員ヲ定メ之ヲ公告スベシ但時宜ニ依リ臨時入學ヲ許ルスコトアルベシ
- 第七條 入學志願者ハ第一號書式ノ入學願書ニ第二號書式ノ履歷書ヲ添ヘテ差出スベシ
- 第八條 第一學年入學志願者ニ就キテハ試驗ニヨリテ其學力ヲ檢定ス
- 第九條 前條ノ試驗ハ國語算術日本地理日本歴史理科ニ就キ尋常小學校卒業程度ニ依リ之ヲ行フ
- 第十條 第二學年以上ニ入學ヲ許スベキ者ハ相當年齡ニ達シ家力試驗ニ合格シタルモノタルベシ
- 第十一條 入學ヲ許可セラレタル者ハ第三號書式ノ證書ヲ差出スベシ
- 第十二條 保證人ハ親權者若クハ後見人又ハ親族ニシテ一家計ヲ立テ本人ニ關シ一切ノ責ヲ負フニ足ルベキモノタルベシ
- 第十三條 保證人ノ住所學校所在地ヨリ一里以内ニ在ラザルトキハ一里以内ニ住所ヲ有シ一家計ヲ立ツルモノヲ以テ代理保證人ト定メ保證人連署ノ上之ヲ學

校長ニ届出ヅベシ

- 第十四條 家校長ハ必要ト認ムルトキハ保證人又ハ代理保證人ヲ換ヘシムルコトアルベシ
- 第十五條 保證人若シクハ代理保證人住所氏名ヲ變更シ又ハ改印シタル時ハ直ニ學校長ニ届出ヅベシ
- 第十六條 生徒退學セントスルトキハ其理由ヲ記シ保證人連署ノ上學校長ニ願出ヅベシ
- 第十七條 生徒病氣其ノ他止ムヲ得ザル事由ニ由リ三ヶ月以上出席シ難キトキハ期間ヲ定メ休學ヲ願出ヅルコトヲ得但シ期間ハ一ケ年ヲ超ユルコトヲ得ズ
- 第十八條 修了及卒業
- 第十九條 各學科ノ課程ノ修了又ハ卒業ヲ認ムルニハ平素ノ成績ヲ考查シテ之ヲ定メ又ハ平素ノ學業及試驗ノ成績ヲ考查シテ之ヲ定ムベシ
- 第二十條 卒業證書及修業證書ハ第四號及第五號書式ニ依ル
- 第五章 授業料及入學料
- 第二十一條 授業料ハ月額金一圓三十錢トシ毎月十日迄ニ之ヲ納メ特ニ其期日ヲ指定シタルトキハ其當日之ヲ納ムベシ但毎年八月ハ之ヲ徵收セズ。

第廿一條 入學料ハ金一圓トシ入學許可ノ際之ヲ徵收ス

第六章 賞罰

- 第廿二條 品行方正學術優秀ナル者ハ特待生トシテ授業料ノ全部又ハ一部ヲ免除シ若クハ賞品褒狀ヲ與フ
- 第廿三條 學校長ハ左ノ各項ニ該當スル者ニハ退學ヲ命ズ
  - 一 性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者
  - 二 成業ノ見込ナシト認メタル者
  - 三 出席常ナラザル者
- 第廿四條 規則命令ニ違背シ學校ノ風紀ヲ害スル者ハ其ノ輕重ニ依リ戒飭停學又ハ退學ニ處ス
- 第七章 寄宿舎及生徒取締
- 第廿五條 生徒ハ自宅ヨリ通學スル者及ビ學校長ノ許可ヲ受ケタル者ノ外總テ學校ノ指定スル場所ニ寄宿セシム
- 第廿六條 寄宿ハ自治自炊制トシ舍生ヲシテ輪番ニ之ヲ處理セシム
- 第廿七條 生徒取締ニ關スル規程ハ學校長之ヲ定ム

第八章 附則

第廿八條 本校則施行ニ關スル細則及ビ其ノ他必要ナル内規ハ學校長之ヲ定ム

第一號書式

入學願書 (用紙半紙)

私儀御校第何學年へ入學志願ニ付御許可被成下  
度履歷書相添へ親權者(後見人)連署ヲ以テ此段  
相願候也

本籍 何府縣何郡市何町村大字何何番地  
現住所 何府縣何郡市何町村大字何何番地  
年 月 日 本人 氏 名 印 生年月日

本籍 記載方前ニ同シ  
現住所 何府縣何郡市何町村大字何何番地  
華士族平民職業  
右親權者(後見人)  
氏 名 印

千葉縣私立成田高等女學校長氏名殿

私立成田高等女學校一覽

第二號書式

履歷書 (用紙半紙)

氏名印 生年月日

一、本籍 何府縣何郡市何町村大字何番地

一、現住所 何府縣何郡市何町村大字何番地

一、出生地 何府縣何郡市何町村大字何番地

一、從前ノ教育

明治何年何月ヨリ同何年何月マテ何地ニ於テ  
何科第何學年修リ又ハ卒業或ハ明治何年何月  
ヨリ同何年何月マテ何地ニ於テ何某ニ就キ又  
ハ家庭ニ於テ何修業等

一、賞罰

明治何年何月何地何所ニ於テ何々ニ付褒賞又  
ハ懲罰ヲ受ク等

一、健康ノ状態

生來著シキ疾患ニ罹リシコト有無及ビ病名並  
ニ目下ノ状態等

右之通ニ候也

年 月 日 右 氏 名 印

第三號書式

印 三錢ノ收入 印紙貼用

在學證書 (用紙美濃紙)

私儀御校へ入學御許可相成候ニ付テハ在學中御  
規則命令堅ク遵奉可致候也

本人 氏 名 印 生年月日

前書ノ通り相違無之ニ付拙者保證人ニ相立テ御  
規則命令堅ク相守ラセ本人ニ關スル事件ヲ一切  
引受可申候也

本 籍 何府縣何郡市何町村大字何番地

現住所 何府縣何郡市何町村大字何番地

華族、士族、平民職業

右親權者(後見人又ハ親族)

年 月 日 保證人 氏 名 印

千葉縣私立成田高等學女校長名氏殿

◎職員

受持學科	職名
修身、歴史、英語	校主兼校長
作法、國語	主監兼教諭
數學、物理、化學、教育	教諭
博物、球算、地理、漢文	教諭
裁縫	教諭兼事務係
國語、習字	教諭
家事、裁縫、英語	教諭
裁縫	教諭
音樂、體操	教諭心得
圖畫	囑託教師
插花	囑託教師
按摩	囑託教師
插花	助手
	書記
	學校醫

◎生徒表

(大正九年四月二十五日現在)

姓名	族 籍	就職年月
石川 照勤	千葉縣平民	大正八年十二月
矢野 太郎	愛媛縣士族	大正八年四月
相馬 芳枝	千葉縣平民	大正八年五月
富澤 とみ	茨城縣平民	大正八年五月
川島能三郎	千葉縣平民	明治四十四年四月
宮島 あい	千葉縣平民	大正二年一月
青木三井子	京都府平民	大正七年一月
中江 靜枝	京都府平民	大正八年五月
佐野壽久世	山形縣平民	大正八年四月
細川 文江	香川縣平民	大正八年五月
太貫 堅	栃木縣平民	大正八年十月
吉岡 一蝶	千葉縣平民	明治四十四年四月
酒井 泰作	福島縣平民	大正四年四月
加藤 あい	千葉縣平民	大正八年七月
伊藤 總平	千葉縣平民	明治四十五年四月
山内平治郎	千葉縣平民	明治四十四年四月

(いろは順)

私立成田高等女學校一覽

私立成田高等女學校一覽

第四學年(二十七名)

學年主任

教諭

青木三井子

石川 婦久 印旛成田  
 遠藤 ゆう 印旛公津  
 林 君代 印旛八生  
 尾崎 サト 山武松尾  
 小川 てい 印旛公津  
 小野寺 千代子 印旛成田

小田垣 徳子 印旛成田  
 海瀬 よしゑ 安房稻都  
 神崎 あい 印旛遠山  
 吉岡 瑛子 印旛木下  
 谷 うめ 印旛公津  
 中山 たつ 印旛佐倉

中越 加津子 印旛成田  
 中野 哲子 香取高岡  
 葛生 かつ 印旛安食  
 山田 布知 印旛八生  
 山田 勢い 印旛八生  
 松田 さだ 印旛成田

第三學年(四十二名)

學年主任

教諭

富澤とみ

石橋 喜代 印旛成田  
 飯倉 ひさ 印旛成田  
 秦野 とく 印旛公津  
 堀内 千代 高知津呂  
 大木 みつ 印旛八生  
 加藤 くみ 印旛八生  
 神崎 やす 印旛遠山  
 勝田 菊代 印旛安食

川村 長子 印旛成田  
 川島 まつ 印旛酒々井  
 田中 はな 茨城龍崎  
 高橋 こと 印旛大森  
 高川 興子 安房北三原  
 谷 すい 印旛公津  
 竹村 嘉代 印旛富里  
 増淵 才 同安食  
 小倉 松 印旛成田

黒田 くに 印旛成田  
 山本 たか 印旛安食  
 山田 てい 印旛八生  
 矢野 敬 愛媛久米  
 野口 己 印旛豊住  
 篠崎 シン 印旛遠山  
 篠崎 たし 印旛酒々井  
 篠崎 ふみ 印旛遠山

飯沼 つね 印旛酒々井  
 石橋 なか 印旛成田  
 石原 とみ 印旛富里

林 八千代 印旛八生  
 原 え津 印旛根郷  
 細川 喜與 埼玉川越

小坂 とめ 印旛酒々井  
 小池 よし 香取飯高  
 寺本 きみ 印旛八生  
 齋藤 くに 印旛安食  
 齋藤 たけ 市原八幡  
 佐藤 より 印旛八生  
 櫻井 けい 印旛八生  
 湯淺 はな 印旛八生

第二學年(四十六名)

學年主任

教諭

相馬芳枝

岩井 きく 印旛大森  
 井浦 多美子 香取小野川  
 伊藤 きわ 印旛中郷

飯沼 つね 印旛酒々井  
 石橋 なか 印旛成田  
 石原 とみ 印旛富里

千種 千江 東京牛込  
 岡田 はな 安房龍崎  
 大澤 しげの 印旛本郷

大木 美代 印旛八街  
 大竹 信乃 香取滑河  
 太田 鹿子 印旛公津  
 小倉 茂子 印旛成田  
 小野寺 シゲ 印旛成田  
 勝田 俊 印旛八生  
 海保 けい 茨城金江津

吉橋 きん 印旛旭  
 吉岡 誠 印旛中郷  
 椿 たき 香取滑河  
 並木 菊子 印旛遠山  
 宇井 敏子 印旛成田  
 鶴澤 喜代 山武運沼  
 山本 佐多 印旛和田

山本 くに 印旛八街  
 増田 温子 印旛成田  
 藤崎 まつ 印旛安食  
 後藤 瑞子 印旛八生  
 紺谷 満枝 印旛成田  
 小池 よし 香取飯高  
 安達 靖子 印旛遠山

相京 いく 印旛酒々井  
 秋山 ユヤ 印旛中郷  
 櫻井 けい 香取小野川  
 京増 はる 印旛酒々井  
 三須 千代 印旛川上  
 島田 輝代 印旛酒々井  
 平山 まさ 印旛成田

第一學年(五〇名)

學年主任

細川

文江

石川 たけ 印旛成田  
 岩田 とみ 印旛布鏡  
 石原 節子 印旛安食  
 早川 くに 印旛成田  
 豊岡 八千代 茨城布川  
 豊田 登代 印旛成田  
 土井 てい 印旛公津  
 及川 ナカ 印旛榮  
 小倉 美枝 印旛成田  
 岡田 けい 印旛本郷

大木 まつ 印旛中郷  
 大久保 ちか 印旛本郷  
 小川 貞女 印旛八生  
 綿貫 綾子 印旛酒々井  
 兼坂 はる 印旛根郷  
 片岡 とゑ 印旛成田  
 玉村 ハナ 茨城布川  
 玉澤 娘 香取飯高  
 高槻 洋子 福島木幡  
 竹尾 きよ 印旛和田

瀧澤 喜代 印旛成田  
 中島 さき 印旛安食  
 仲山 勢い 印旛公津  
 野口 とき 印旛豊住  
 山口 かつ 印旛成田  
 山内 總江 印旛成田  
 山口 ひで 印旛八生  
 山田 ふく 印旛成田  
 増田 とき 香取新島  
 藤原 せつ 香取小野川

船橋 ツネ 印旛成田  
 小泉 繁子 印旛成田  
 後藤 山み 印旛安食  
 秋山 ユツ 印旛八生  
 青野 むつ 香取高岡  
 相京 タケ 印旛公津  
 齋藤 あい 印旛遠山  
 齋藤 さよ 印旛酒々井  
 木村 ふさ 印旛酒々井  
 湯淺 ゆう 印旛八生

◎成田山女學校卒業生人名

(明治四十四年三月)

(○は結婚の印)

○藤崎

藤崎 好(舊岩瀬)

○石原

石原 みよ

○長谷川

長谷川 さみ

○小川

小川 とし

私立成田高等女學校一覽







仲山千代子  
 井山幾久  
 山本喜子  
 山本貞子  
 山本光子  
 福田

印藤公津  
 印藤成田  
 印藤八生  
 山武日向  
 印藤成田  
 印藤和田  
 印藤酒々井

東京津田英學塾在學

小寺坂宮三杉  
 林内田島須  
 三瀬川  
 枝川  
 衣子  
 な

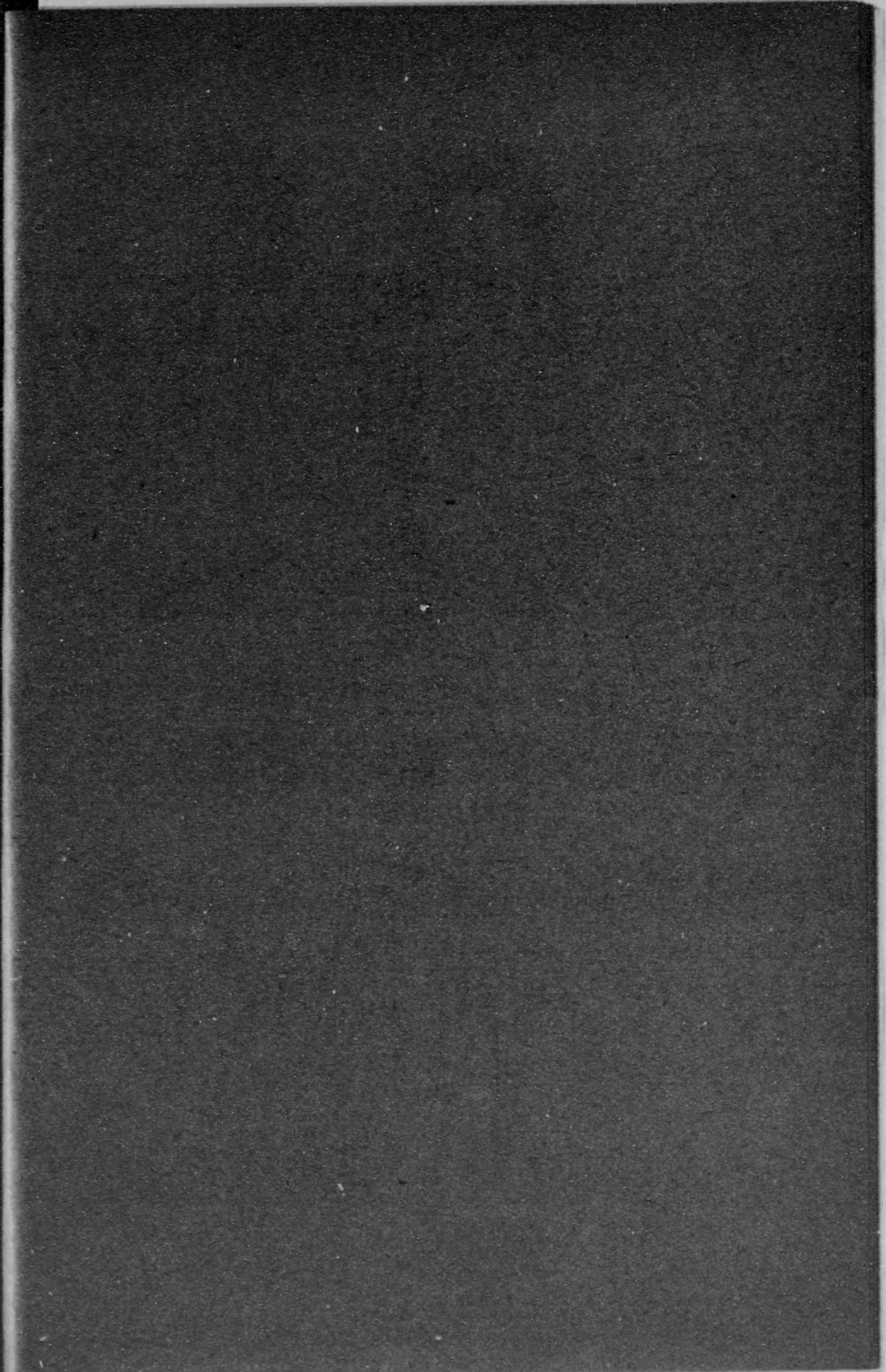
印藤白井  
 印藤成田  
 印藤富里  
 印藤大森  
 印藤川上  
 印藤安食

◎經費統計概表

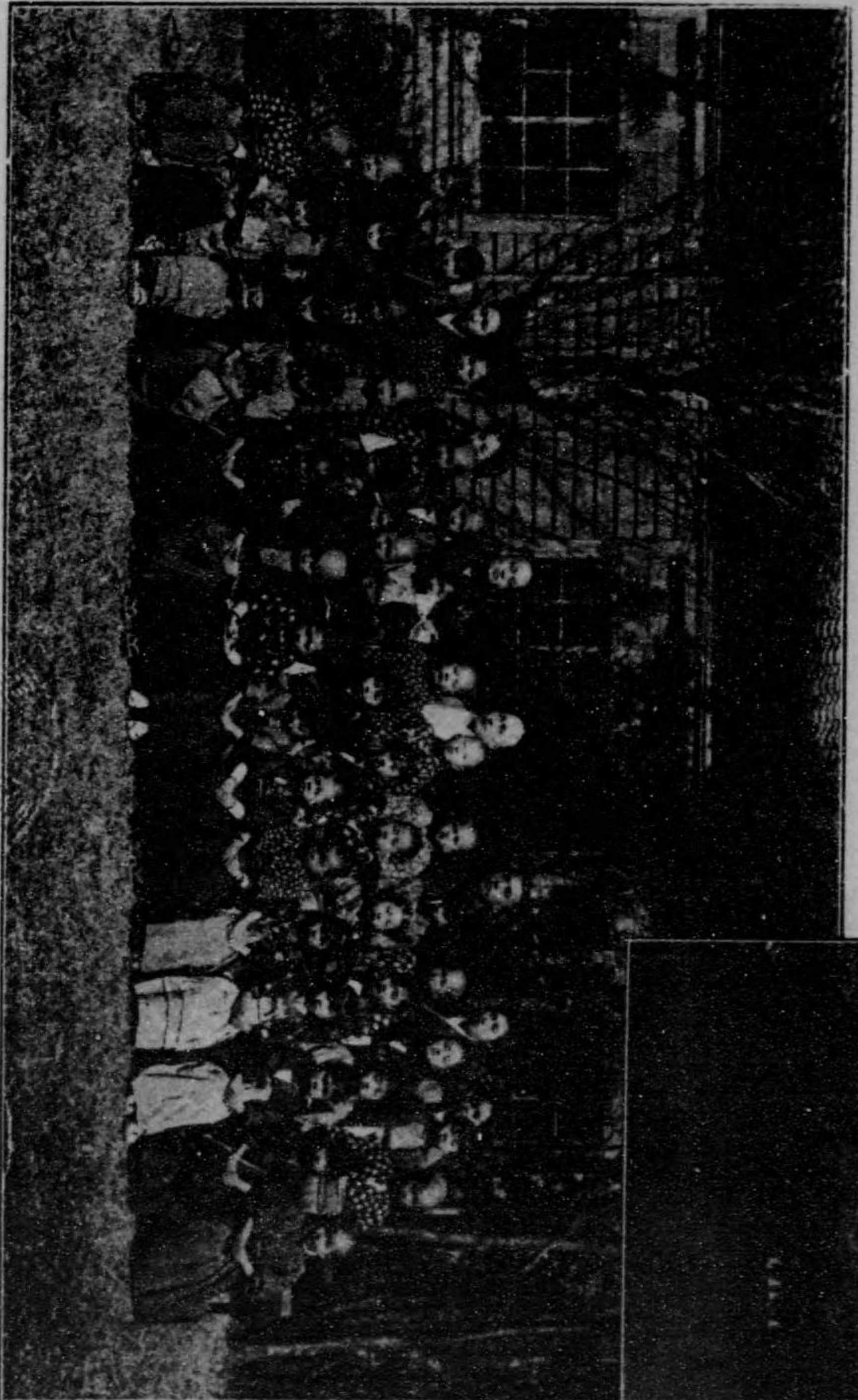
年 度	作 給	備 給	手 當	賞 與	旅 費	需用費	管 轄 費	雜 費	準 備 費	合 計
四十四年度決算	三三三,八〇〇	一〇八,〇〇〇	七三,〇〇〇	三三,六九〇	四五,六〇〇	六一三,八三〇	二八三,六八一	二七,一六〇		四四七,七九〇
四十五年度決算	二五三,三三〇	一〇八,〇〇〇	六三,〇〇〇	三九,六〇〇	一〇〇,〇〇〇	八八二,〇三〇	三八,八三一	三九五,八八五		四八三,五七〇
大正二年度決算	四〇〇,一九〇	一〇八,〇〇〇	六六,〇〇〇	九八,三九〇	六八,三〇〇	九四四,七七五	九一,八四三	四三,五三〇		七三九,五七〇
大正三年度決算	四三〇,〇〇〇	一〇八,〇〇〇	六六,〇〇〇	三三,〇〇〇	九三,〇〇〇	九三七,七二五	五〇,一八六	四三,〇五〇		七三九,五七〇
大正四年度決算	四三〇,〇〇〇	一〇八,〇〇〇	六六,〇〇〇	三三,〇〇〇	一一〇,一五〇	二〇六,六二五	四三,八三三	七四,〇五〇		七三九,五七〇
大正五年度決算	四三〇,〇〇〇	一〇八,〇〇〇	六六,〇〇〇	三三,〇〇〇	一四七,一〇〇	八三三,八三三	三三,〇〇〇	三三,〇〇〇		六六三,三三三
大正六年度決算	四八四,六八〇	一〇八,〇〇〇	六六,〇〇〇	九七,三九〇	三三〇,八九〇	七四〇,〇三〇	一六二,七三〇	三三,七〇六		七四八,〇〇〇
大正七年度決算	五五八,七五〇	一〇八,〇〇〇	六六,〇〇〇	八八,六九〇	九七,四三〇	六八一,一五五	三三,一七〇	五五,九四八		七五八,一四八
大正八年度決算	八三三,六七〇	一〇八,〇〇〇	六六,〇〇〇	三〇,三〇〇	二三〇,四九〇	一七九,四六〇	五七三,三〇六	一〇八,五四〇		二,三三三,五六〇

成田幼稚園一覽

園歌……………  
 沿革略用職員、經費……………四五  
 入退園及年度末現員調……………四七  
 保育修了幼兒數……………四八

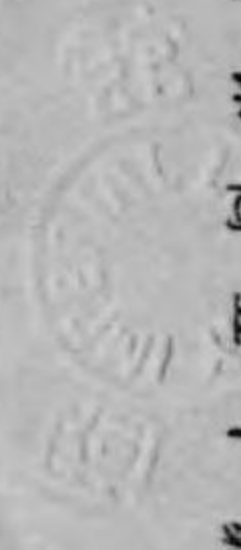


成田幼稚園園



全景

職員及第五回保育修了者



## 園歌

大和田 建樹氏作歌  
小山 作之助氏作曲

御寺の山をあげ暮に

見わたす成田の幼稚園

園に生ひたつ撫子の

花にめくみの露しけし

我等も日々集りて

雲雀となりて謠はまし

その、恵の嬉しさを

御代の恵のたのしさを

ミテラノ ヤ マヲ アケクレ ニ  
われらも ひ びに あつまり て

ミワタス ナリタノ ヨーチエ ン  
ひばりと なーりて うたはま し

ソ ノニ オヒタツ ナテシコ ノ  
そ のの めぐみの うれしさ を

ハ ナニ メグミノ ツユシゲ シ  
み よの めぐみの たのしさ を

### 私立成田幼稚園一覽

#### ◎沿革略

本園は明治三十八年五月の創立にして保育を開始せしは其月の二十四日也而して開園式は六月一日町立成田尋常小學校内假園舎に於て舉行せり

假園舎の狹隘なるにも拘はらず幼児入園の申込は月毎に増加し行くの趨勢なるが故に園舎新築の必要を生じ同年の十月地を成田山の東南、向臺と稱する一區域をトし此所に工事に着手すると爲り而して翌三十九年六月三日園舎新築落成の式典を擧ぐることを得たり

新築に關する工事費並に諸般の設備費は概算約一萬餘圓内二千圓は成田區よりの寄附にかゝり餘は悉く新勝寺に於て負擔支辨せり

園舎の位置は成田町成田小字向臺と稱する所にして町の東南方に位し四方の眺望極めて佳く四季の風光亦大に推稱するに足る高燥なる地域也

園の總敷地は三千七十五坪内遊園に屬するもの約二千六百坪花壇、砂場、築山、藤棚等を設け自餘は所々

に樹木を植えて大に趣を添へたり而して園舎の總建坪は二百四十餘坪其内左の如し

一 昇降口	一	十二坪
一 保育室	四	四十九坪五合
一 園長室	一	三坪
一 恩物室兼保母室	一	八坪
一 遊戯室	一	四十八坪
一 應接室	一	四坪
一 静養室	一	四坪
一 廊下、便所	二	六十四坪五合
一 保母住宅	二	三十四坪
一 小使室等附屬建物	二	十七坪二合五勺

大略右の如くにして其構造上特色とも見るべきものなきも只主として幼児の出入の便を計るが爲めに廣き昇降口を園舎の正面に置きて有觸たる玄關構を設けず南面にして空氣の流通光線の射入等に意を注ぎ専ら保

私立成田幼稚園一覽

育上の便宜を旨とし又華美に渉るを避けて質實を旨としたり、而して全般に亘る工事の設計は斯道に名ある服部文部技手之に當られり。

かくて園舎の新築竣成と同時に幼児保育の効果を開き、うせんが爲に家庭との連絡を計り屢次保育懇話會を開きて園児の保護者を招集し或は不定期刊行の雑誌「撫子」を發刊して其連絡の機關とし聊か得る所ありき

保育の事は保母専ら其の任に當り保育主任之を指導監督す其他全般の庶務等に至りては園長之を總攬し理事之が諮問の任に當る而して園長は園主之を兼ね理事は園主之を囑託す外に幹事、會計主任、園醫あり共に園主の任命する所たり。

園主兼園長は成田山貫首石川僧正にして理事は石川甚兵衛、三橋重郎兵衛、關川博道の三人也内三橋理事は幹事を關川理事は園醫を兼ね別に淺井儀助會計主任たり。右の外現在職員は保育主任以下保母四名なり左の如し

職名	旅籍	姓名	就職年月
保育主任	徳島縣土族	山口政子	大正三年十月

職名	族籍	姓名	就職年月
保母	東京府士族	鈴木ふじ	大正八年五月
保母	千葉縣平民	淺井よし	大正七年十一月
保母	千葉縣平民	中臺よし	大正八年四月
保母	千葉縣平民	山内とわ	大正九年三月

本園の新築費及經費は左の如くにして保育料以外は凡て新勝寺の負擔支出する所のもの也。而して保育料として保護者より徴收する料金は一人一ヶ月五十錢とし二人以上を通園せしむるものは一人毎に半減とす

- 敷地買入及新築費、落成式費
- 一金參千五百八圓八十五錢一厘 (自三十八年六月) 經費 (至四十年三月)
- 一金壹千八百八圓十六錢五厘 (四十年年度經費)
- 一金壹千九百四十圓三十九錢六厘 (四十一年度經費)
- 一金壹千五百二十七圓三錢三厘 (四十二年度經費)
- 一金壹千七百二十五圓四十二錢五厘 (四十三年度經費)
- 一金壹千九百三十五圓七十錢四厘 (四十四年度經費)
- 一金壹千九百二圓九十五錢四厘 (大正元年度經費)
- 一金貳千一百四十圓十五錢四厘 (大正二年度經費)
- 一金貳千三百三十四圓十四錢七厘 (大正三年度經費)

◎入退園及年度末現員調

年 度	入 園		卒 業		退 園	死 亡	現 員
	女	男	女	男			
明治三十八年度	四二	一三	三九	九	四	〇	二五
明治三十九年度	二三	一五	二二	九	七	〇	二四
明治四十年度	二六	二〇	二六	一〇	四	〇	一八
明治四十一年度	二四	一五	二四	七	六	〇	二六
明治四十二年度	三一	二〇	三一	一	五	〇	二五

一金參千一百四十六圓五十錢五厘 (大正四年度經費)  
 一金壹千九百九十一圓三十四錢八厘 (大正五年度經費)  
 一金壹千九百五十四圓七十八錢五厘 (大正六年度經費)  
 一金貳千四百五十九圓七十參錢 (大正七年度經費)  
 一金參千四百九十五圓九十七錢 (大正八年度經費)  
 合計金四萬貳千貳百五拾圓壹錢八厘  
 最近三ヶ年經費平均額  
 金貳千六百三十六圓八十二錢八厘

年 度	入 園		卒 業		退 園	死 亡	現 員
	女	男	女	男			
明治四十三年度	二九	一七	二二	一〇	九	〇	三〇
明治四十四年度	四九	二二	四一	一七	一〇	〇	三九
大正元年度	二五	一九	二五	一〇	四	〇	四二
大正二年度	二〇	一九	二〇	二	六	〇	二五
大正三年度	二〇	一三	二六	六	六	〇	三三
大正四年度	二六	一六	二六	九	九	〇	三六
大正五年度	二五	一八	二五	一三	九	〇	三一
大正六年度	二四	一五	二四	一二	九	〇	三二
大正七年度	二八	一八	二八	一	一	〇	三五
大正八年度	二六	二〇	二六	四	四	〇	三六





私立成田幼稚園一覽

Table listing names and birth dates for the first group of children, including '大正元年度三十八人' (38 children from the first year of the Meiji era).

Table listing names and birth dates for the second group of children, including '大正二年度五十五人' (55 children from the second year of the Meiji era).

大正三年度二十九人

Table listing names and birth dates for the third group of children, including '大正三年度二十九人' (29 children from the third year of the Meiji era).

大正五年度三十五人

Table listing names and birth dates for the fourth group of children, including '大正五年度三十五人' (35 children from the fifth year of the Meiji era).

大正四年度二十五人

Table listing names and birth dates for the fifth group of children, including '大正四年度二十五人' (25 children from the fourth year of the Meiji era).

大正六年度四十人

Table listing names and birth dates for the sixth group of children, including '大正六年度四十人' (40 children from the sixth year of the Meiji era).

私立成田幼稚園一覽

三ヶ年	竹内まつ	二ヶ年	山田保	江上英子
三ヶ年	京須瑞雄	同	諸岡綾子	木内喜久雄
同	石川きく	同	武士田美都子	宇井春雄
三ヶ年	松田晴源	同	伊藤英夫	吉田松年
三ヶ年	大友俊	同	古矢勝正	諸岡武
同	佐久間ふみ	同	石川文枝	一年七ヶ月
同	小野寺キク	同	田中節一	一年七ヶ月
同	高橋正雄	同	木内しげ	一年七ヶ月
同	平野俊子	同	湯浅秀一	一年七ヶ月

大正七年度四十一人 男二 女二〇

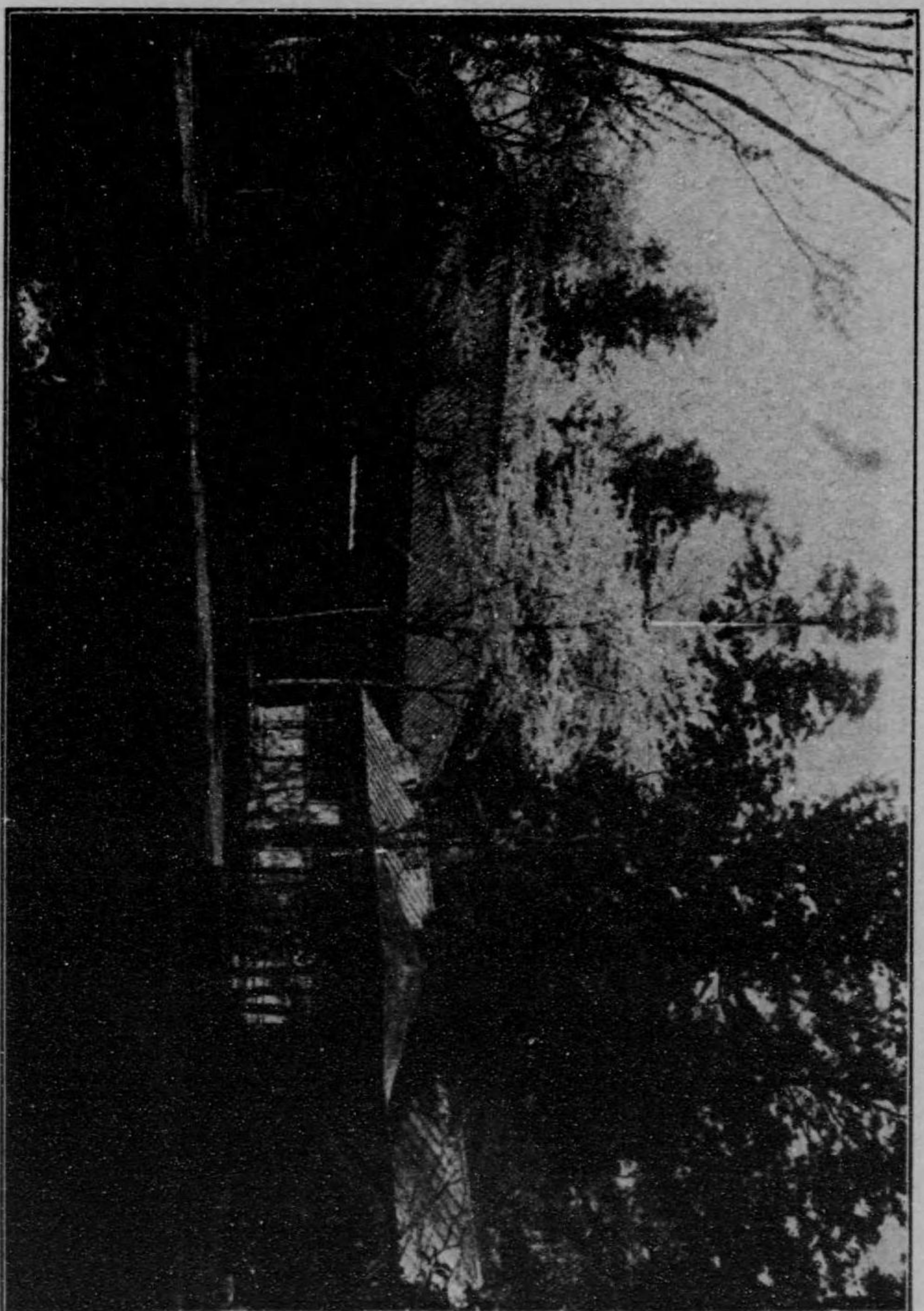
三ヶ年	三橋壽子	三ヶ年	京須壽雄	二ヶ年	藤崎菊枝
同	石橋正俊	同	加藤俊子	同	伊佐治忠雄
三ヶ年	坂本なる	同	瀧口清	同	高野正二
同	坂本くら	同	石原廣	同	高川春野
同	高木真一	同	諸岡みつ	同	小倉あや
同	渡邊正	同	渡邊三男	同	加藤春雄
同	渡邊利子	同	田中靖悟	同	稲垣昌則
同	石橋はつ	同	木曾智恵	同	佐藤寅吉
同	新橋千代	同	篠原茂	同	古川正子
同	木下てる	同	小野幸	同	木村豊太郎
同	平野大子	同	三橋貞子	同	木村秀雄
同	黒川家壽	同	今井正治	同	山田豊

大正八年度四十五人 男二 女二四

二ヶ年	山田はる	三ヶ年	木内よね	二ヶ年	内田純子
同	浅井文彦	同	佐久間やす	同	神崎純一
同	岩瀬トシ	同	石原繁三	同	大徳正雄
同	藤倉静男	同	長谷川明慶	同	諸岡貞子
同	小倉富太郎	同	木内みね	同	山田まさ
同	石川とみ	同	石橋武四郎	同	小林さた
同	伊藤久子	同	小野寺ケン	同	沼尾和江
同	日暮静	同	天木誠治	同	管澤富美子
同	小泉豊	同	山田文太郎	同	瀧澤ひさ
同	小倉千代	同	小倉勇二	同	小林武
同	渡邊延江	同	京須しげ	同	小野つる
同	瀧澤清	同	黒川善子	同	藤倉章
同	南村秀雄	同	黒川善子	同	豊田富美
同	早川満治	同	小川あ	同	原ハル
同	萩原貢	同	成田敬二	同	芦田ハル

感化院一覽

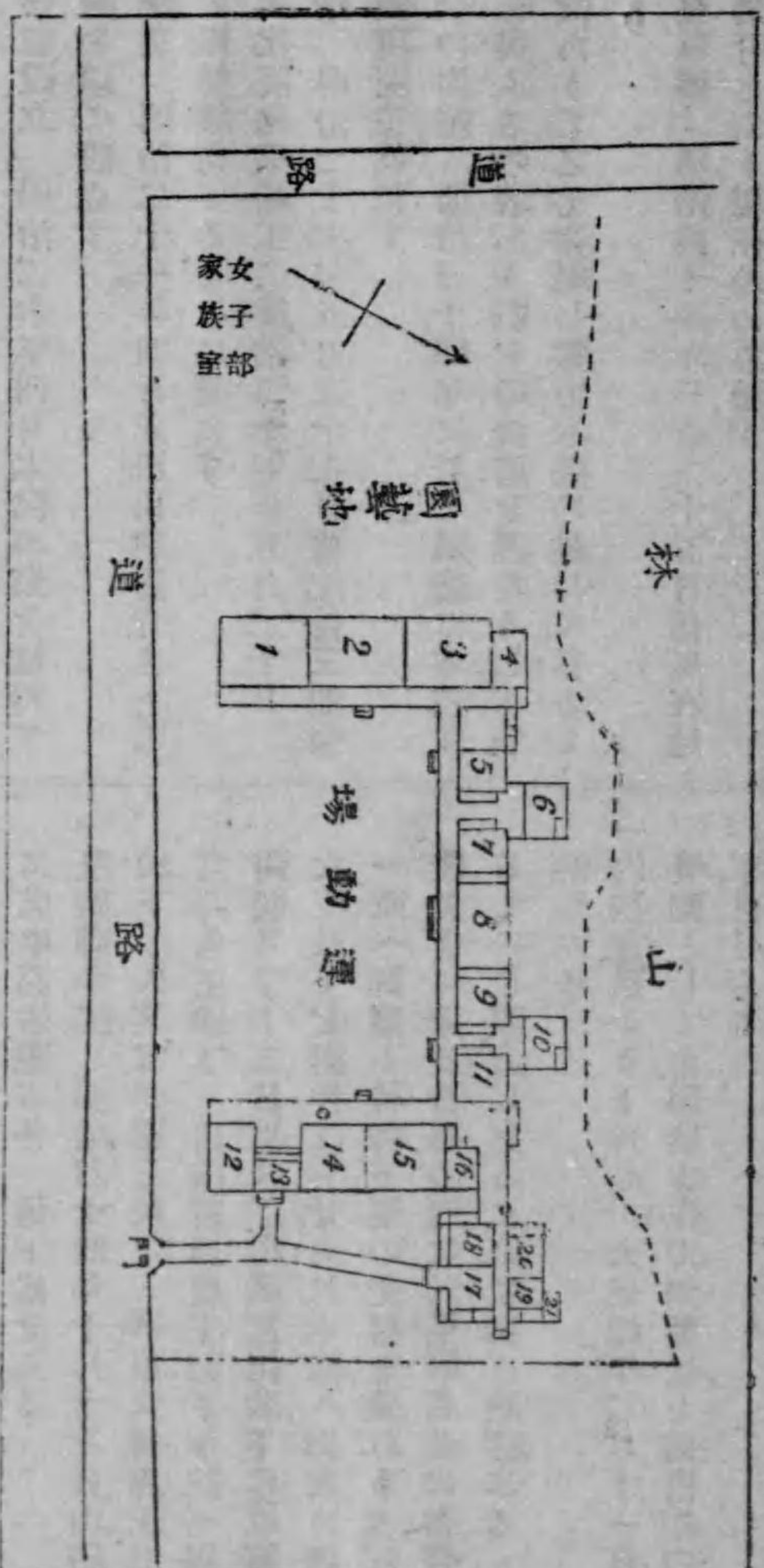
平面圖	五三
沿革要項	五四
位置	五五
構造	五五
組織	五五
關係事項	五六
疾患状況	五八
教育	五八
生活	五九
賞罰	六二
經費	六三
成績	六三
退院の生徒	七一
生徒の入院	七二
基本金の蓄積	七四



院化感山田成



私立成田感化院全圖



面積二百二十五坪	1	講堂
	2	圖書室
	3	教室
	4	教訓室
	5	生徒室
	6	教師室
	7	生徒徒室
	8	工場
	9	生徒徒室
	10	保母室
	11	生徒徒室
	12	應接事務室
	13	昇降口
	14	食堂
	15	炊事場
	16	洗風呂場
	17	主任室
	18	同家、族室
	19	病室
	20	新入生徒室
	21	物置
總建坪二百坪		

私立成田感化院一覽

### 私立成田山感化院一覽

(大正九年三月三十一日現在)

#### ◎本院沿革要項

- 一 創立 明治十九年十一月廿八日にして元千葉感化院と稱し縣下佛教各宗共同して創立したるものなり
- 一 感化慈善會設立 明治二十年四月本院事業を維持するの目的を以て設立す
- 一 組織の變更 明治二十一年四月成田山新勝寺主として本院を經營維持することに變更す
- 一 舊千葉感化院建築竣工 明治二十四年五月三十日
- 一 院長更迭 明治二十七年五月二十七日舊院長三池照鳳師辭職現院長就職す
- 一 縣補助金の謝絶 明治三十四年に於て縣廳は本院に補助金を與ふるの議あり縣會の決議を経たりしも新勝寺は故ありて之を謝絶し獨力本院の維持に當ることとせり
- 一 本院新築移轉 明治四十一年三月二十五日舊所在地たる千葉町を去り現在地に移轉す
- 一 改稱 右移轉と同時に成田山感化院と改稱す

- 一 内務大臣より下附金 明治四十二年二月十一日本院事業從來上功績ありとし且つ獎勵の趣旨を以て金百圓を下附せらる
- 一 御膳本下付 明治四十三年九月七日教育勅語膳本並に戊申詔書膳本各一通下附せらる
- 一 皇族御來院 明治四十四年十月十七日山階宮芳麿王殿下 久邇宮朝融王殿下 華頂宮博忠王殿下 久邇宮邦久王殿下 山階宮藤麿王殿下本院へ御成り被遊尙同月二十二日更に。山階宮妃殿下には御姫宮安子女王殿下を御伴はらせられ本院へ御成り遊され生徒一同へ御菓子料御下賜の光榮を蒙れり本院よりは生徒製作に係る竹籠の内に三里塚名産の初菫を入れたるものを献上したるに直に御嘉納遊さるゝ旨恩命に浴したり
- 一 内務大臣より下付品 大正四年二月十一日本院事業獎勵として市岡紫雲作青銅製松上鶴模様の花瓶一對下付せらる

#### ◎本院の位置

千葉縣下總國印旛郡成田町成田四百二番地ノ一にして成田山境内に在り前面成田町横町より新勝寺へ往復する道路に沿ひ成田停車場よりは約六町成田山不動尊へ參詣するものは山上奥の院大日如來の伽藍を右に見左方へ約一丁にして來るを得東隣出世稻荷への參詣者は左方に古木鬱蒼幽靜の間に白堊の一家屋を見るべし、本院即是れなり

#### ◎本院の構造

明治四十一年三月二十五日の竣工に係り敷地建坪並に建築費用左の如し

- 一 本院敷地面積 一千二百二十五坪
- 一 建坪 二百坪
- 一 建築費 一萬八十二圓九錢九厘

但し別に女子部家族室を有するも此中に算入せず敷地建物明細圖は別頁に掲ぐ

#### ◎組織

### 私立成田感化院一覽

成田山新勝寺住職

一 院長 勳六等 石川 照 勤

一 主 任 大友 秀 松

一 會計主任 久保田 萬 吉

一 教 師 東洋大學文學士 大友 惟 誠

一 唱歌教師兼保母見習 大友 ら ぐ

一 篤志院醫 關 川 博 道

右職員の外本院評議員左の如し

一 太 田 茂

職員中院内常住のもの左の如し

一 主 任 大友 秀 松

一 教 師 大友 惟 誠

一 唱歌教師兼保母見習 大友 ら ぐ

職員一同は院長の指導監督を受くるは勿論能く院長の精神と感化院職員たるの自覺とにより職務に従ふの外現在としては別に職員に對する成文の制令なし唯協同一致して圓滿に且つ規律ある家庭を作るを目的とし而かも此範圍に於て自由に活動を許し妄りに牽制を加へざる組織なり

◎大正八年度本院關係事項

五月二十五日 本院長石川照勤師成田山新勝寺住職として勤續二十五年成田町民諸君は茲に祝意を表せんとし熱誠を傾注して多數紳士紳商會集の下に最も盛大に祝賀會を執行せられたり申す迄もなく本院としては院長二十五年勤續の祝賀會なり職員生徒一同熱心に敬祝の意を表せり 七月四日 先きに本院を參觀せられ其後棄去せられたる土方久元伯が本院の爲めに揮毫の一幅此日表装成り本院に收む披き見れば曰く境清兒童浴慈仁 七月二十日 本日より六日間第一學期學科試験施行 八月六日 實業之日本社發行實業講習録は前年中熱心に生徒に讀ましめ居りたるも再考の末今後暫く習讀を廢止する事とせり其理由に一、之を讀んだ生徒は俄に博識になつたやうな心理状態を呈し其成功を急いで意外にも無斷外出を促進す二、慢心を起し頗る從順の氣風を減少する傾向あり三、眞實に勉強することなく唯此講義録を机にかざり物議りを氣取つて傲然他の生徒に對する者あり 八月十六日「成田町郷部理髮店八木善助氏より爾今毎月十七日篤志を以て本院生徒

の理髮を爲し度き旨交渉あり爾來氏は毎月來りて約の如く實行せり本院は同氏の芳志を深く感謝するものなり 九月五日 久しく音信不通なりし退院生無驕本日十三年振りにて本院を訪問す 十月一日 生徒由戸頭が悪くて勉強が思ふ様に進歩せずとて祈願斷食す少年の事故衛生上如何あらんかと思はれ一日丈にて中止せしむ 十一月十七日 入院の際従前は入院前の非行に對し懇篤訓誡を加へ來りしも割合に其效果薄弱なるを認め今回より講堂に於て右の訓誨後左の如き誓書を出さしむる事と改正せり要は該生徒の心底に一種の印象を與へん爲なり一、今後一心に不動尊を信仰し決して再び悪い事を致しません二、入院前の不良行爲は深く悔悟致しました三、さつと無斷外出致しません 十二月二十二日 本日より六日間第二學期學科試験施行 十二月二十六日 本山執事たる院代池田照誓師上京中深川不動堂に於て突然逝去せられたり享年僅かに四十二真に哀悼愁傷の情に堪えざるなり想へ起す本年九月十二日川越分監出獄人成田町石井某引取人差向けられ度き旨同監より成田山免囚保護會(感化院職員兼務)へ交渉あり祖父某は旅費が無くて行き度くも行かれませ

んといふ當時山主不在依つて事情を具して故院代に該旅費の補助を仰ぎ度き旨申出でたるに師は直に快諾し慈顔更にそれ丈で足りるだらうかと其同情心の深厚なるに當時痛く感涙を催したる事あり吾人は最早永久に再び此温顔に接するを得ず噫 大正九年一月一日 午前九時講堂に於て新年祝賀式を舉行す終りて直に一同不動尊に參拜す、本院院長新年の祝賀を辭退せられたるを以て院長への祝辭言上は見合はせたり 一月二日 生徒の書初下記の如し 一、無求是至善 賢哉 二、知足是至富 由戸 三、安心是至樂 爲徳 四、君子慎其獨 志道 五、主忠信 博施 六、物にたいつくするな 立人 七、何事も人なみになれ 約禮 八、よくをはなるべし 好學 一月八日 本院の手工は從來竹細工と定め専門の教師により盛に製作せしが近年は物價暴騰原料竹の如きは最も高價にして玩具の製品の如き到底收支償はず殊に専門の教師辭職其後缺員なるを以て本年は便宜暫く竹細工の手工を中止し之に代ふるに裁縫の初歩を以て生徒の手工となせり裁縫は單に運針丈にても其手工以外整列及並列並に直線の如きは多大なる精神教育上寄與する處少からざるを認めた

り 一月二日 院長より生徒に分配せよとて水菓子一籠(ミカン、ジャボン、リンゴ、バナナ、ネーブル等澤山)贈附あり尚休日中懐中日記一冊づゝ密柑二箱贈附し來れり同じ食物にても院長より贈與せられたる場合は生徒の感動格別にして感謝の念最も強し 一月二十七日 流行性感冒目下猖獗に付生徒全部篤志關川院醫の豫防注射を受けたり 二月十二日 故院代池田僧正の本葬執行職員生徒一同會葬す 三月十五日 本日より六日間學年試験執行 三月二十五日 本日紀念日祝賀式執行此日雨天且つ寒氣強く而かも生徒は數日前より當日の愉快なる紀念日を迎へんとして中々の元氣なり式場院長より夫々生徒へ賞品を贈與せられ一同大いなる満足をして拜受せり此日院長の法話は衣食住の安全を得るには他を顧みず先づ正しき心と信義を守れとの最も有益なる講話あり又來賓高津親義氏は責任といふ題にて親切なる講話あり何れも多大なる感動を與へたり來賓退院後は先きに退院したる生徒も來院し之に加はり一同十分なる感興を盡し最も愉快に此の日を送れり 三月三十日 院長より紅白の餅百個生徒へ贈附し來れり 以上

追て本年中參觀人の數は男女合計二百二人なり

◎大正八年度生徒疾患狀況

一、六月十一日 二日間 胃腸病 再可 一、六月十日 二日間 胃腸病 賢哉 一、九月一日 二十日間 胃腸病 好學 一、九月六日 七日間 自己負傷 約禮 一、九月十九日 四日間 眼病 約禮 大正九年一月二十八日 二日間 感冒 由戸 一、二月六日 六日間 足ノ甲腫 爲徳、一、二月七日 五日間 感冒 好學 一、二月十三日 十六日間 指腫 好學 一、二月二十一日 三日間 蛔蟲 好學

以上の通りにして本年は非常の多數に上り深く遺憾とする所なり然かも篤志院醫關川博道氏の盡力により何れも全快し何等の後害を遺さざりしは本院の最も欣幸とする所なり此機會に於て同氏の厚情に對し深く敬意を表するものなり

◎本院の教育

午前は學科にして總て普通小學令規に據る尋常小學程度全科を卒業せし後仍ほ向上の見込ある兒童にして且

品行最早差支なしと認めらるゝ時は中學へ通學せしむることあり又尋常科中と雖も其個人性の特に進歩の見込あるものは別に特種の教育を爲す例せば其兒童の將來に於ける職業を見込み農業入門商業道德を教ゆる等はなり午後は手工と農業にして冬期は手工のみなり本院修身教育の大本としては 教育勅語並に戊申詔書に基くこと勿論なり而して右實踐躬行の實を擧ぐるは宜く信仰の力に依りて之を喚起せざる可からざるを信ずるものなり本院の特色として成田山不動尊を信仰せしむる所以即ち是に在りとす

耕地は現下三反五畝を有し追々擴張の見込なり學科は數々試験を舉行し其試験の爲め各生徒をして學科を熱心勉強せしむるの方法を採り居れり元來本院に來れる兒童の大部分は所謂勝氣の兒童多く而かも此の氣風は他の必要な行動には猛烈に現るゝも日々受業する學科に至つては惜い哉他と競争する意地なく頗る不熱心なり故に數々試験する方法に依り各自に競争心を發動せしめ熱心に修學せしめんとするものにして目下學級を三級に分ちあるも同一の意味なり各生徒は入院時期何れも同一ならざると共に入院し來る生徒の學級及學

物を得ること最も困難にして施設繁多なる割合に好果を收められざる遺憾あり依つて單に手工農業の二課を設けある所以なり

◎本院の生活

本院を參觀せざる人々には本院は如何なる構造如何なる設備及び如何なる待遇の下に家庭生活が行はれて居るや其内容は詳ならざるべく從て中には過嚴冷酷の生活ならんと推量する向きも有り時に之を耳にする所なるも事實は全く反對にして一般に於ける温き家庭生活と毫も異なる所なし尤も普通教育と異なり或る一定の時間を限り教育するにあらずして普通教育の時間以外家庭教育として兒童一般の躰をなすを以て本院感化教育の最も緊要とする所なりと共に先づ生徒自身に信仰の觀念を生ぜしめ其習慣を與ふるを以て實に本院生活の精神と爲す所なり此根本の精神に基き總ての施設及全體の方法を實現し居れり其生徒待遇の方法に至つては慈悲仁愛の情を以て之に對するは勿論一面には亦整然たる規律生活をなしさめ亂雜放肆に流れざるやう最も注意せり然れ共本院家庭内の大小悉く豫て定めたる

力頗る不揃なるのみならず各自の能力も伶俐なる者あり低能なる者あり中間者ありて全く種々なるを以て實際に於て個人毎に學科を教授せざるを得ざる事情あり勿論個人毎に教育するは正當なる方法に相違なしとするも修學を存せざる本院生徒にありては同一の學級に於て相互競争すべき機會全然存せざる時は益々奮勵向上の熱心を缺き結果甚良好ならざるが故に生徒少數なるに拘はらず便宜各級に分類し教授し居れり又生徒改善退院の際は父兄と相談し本人の性質嗜好希望等を參酌して大工なり左官なりあらゆる職業中本人に最も適切なものを選び更に授業師たる家庭の適當なるものを索め徒弟若くは小僧として夫々奉公せしめ居るの定めなり此場合本院は委託生の名稱を用ゐず退院者として先方に送り又此方法を採らずして直に依頼者の家庭に歸宅せしむるものもあるも可成徒弟として他家に奉公せしむるの方針なり院内に大工指物靴工等の如きものを設備して授業する方法は從來考量したる一なるも三四の業務を設備したりとて到底全生徒の性質嗜好に悉く適合せしむる事至難にして強いて職業を狭き範圍に押込む嫌ひあり殊に感化院に適する授業師たる人

る成文によつて行動せしめ監督すると云ふが如き方法にあらざるに便宜を主とし温き家風自然の慣例等によつて之を教練し力めて愉快なる生活をなさしむるを以て主眼とせり

日課及日々の行事は左の如し

一午前五時起床職員生徒一同直に掃除に就く

一午前七時半講堂に於て禮拜

一天皇陛下の萬歳を奉祝す

二大廟遙拜

三成田山不動尊禮拜

四各自先祖敬拜

一午前八時朝食

一午前九時より正午まで學科

一正午十二時晝食

一午後一時より午後四時まで農業若くは手工

一午後五時夕食

一午後六時より午後七時まで學科復習

一午後八時就寢

以上の如く定むると雖も時季により時々變更するは勿論便宜上臨時に變改することあり

イ 生徒の食事

一、米七分麥三分の割合にして一日量五合乃至七合と定め生徒の欲する儘飽食せしむ

一、副食物は中等を標準とせり

ロ 生徒の衣類

一、生徒全體に鼠色の上衣を着せしむ是は鼠色は陰氣なりとか精神上如何に影響するとか六ヶ敷理屈より考案せるものにあらず最初は寺の小僧の如く服装せしめんとしたるもの流れて今は單に色合のみ残れるなり但外出の時は普通の衣類を用ゆ尤も毎朝禮拜の場合及教室に於て授業の際には袴を着用せしむ

ハ 院内の清潔

一、清潔は本院の最も勉むる所なり起床後直に各持場に就き掃除を爲し土曜水曜日は特に大掃除を爲す

ニ 生徒の祭日と誕生日

祭日とは生徒各自の祖先の祭日にして若し父母死したるものある時は勿論最も近き先祖の命日に於て一日の休暇を與へ祖先に敬拜の意を表せしめ終日謹慎せしむ誕生日も一日の休暇を與ふ早朝先づ不動尊に參詣其立身出世を祈らしめ本院よりは其祝意を表し特に本人の

好める文具品を贈り又特別に御馳走を供する等終日自由愉快に一日を送らしむ

ホ 生徒の娛樂

一娛樂の設備及娛樂の方法は左の如し

一孔雀 一鸚鵡 一猿 一疋

一將棋 土曜日曜日の午後及平日の正午休憩一時間

一圖書室 此所には教育に無害にして且つ娛樂を興ふべき書籍を成田圖書館より時々取替へ借り來るを以て見るべきもの頗る豊富なり

一箱庭作り 春夏の候に際すれば生徒一同は箱庭作り

に熱心に多大の趣味を以て餘念もなく娛樂せり

一日曜日の午後不動尊に參詣を爲さしめ同時に散歩せしむ(又臨時郊外に遠足を爲さしむ)

一成田町伊佐美座と稱する劇場及成田山境内に時々活動寫眞の興業あり此活動寫眞を見物するは生徒の最も嗜好する所にして本院は大抵生徒の此希望を満足せしめ居れり幸に活動寫眞の内容は教育種のもの多く却て教育上裨益を感ずること多きを認む思ふに常設館ならざる故に寫眞の材料に缺乏を感じて何等の注意選擇もなき寫眞を映寫するの必

要なき爲めならんと思料する所なり此外本山境内に時々興業する輕業其他あらゆる觀世物は本大抵生徒に見物せしむ

ヘ 雑件

一朝起きは新勝寺の曉鐘に警醒せられ蹶起せざるを得ざる習慣を作れり但本院のみならず成田町一般に此良習を存するが如し

一冷水摩擦は毎朝洗面の時必ず同時に約五分間以内之を行ふ冷水浴は自由に任せ置けり

一明治三十五年頃には精神運動と稱し一種の教化術を與へたりしが其後省身の方法に代へ(反省せしむる方法)今は更に靜坐法に改む但し今日流行する岡田式靜坐法と異り其靜坐中に一種の暗示を與ふる方法なり深呼吸は冬期を除く外盛んに之を行ふ

一就寢前一同不動尊に禮拜を爲す但し朝夕共此際簡單なる修身講話を爲せり

一催眠術は威化教育上或者には其必要なるを認め時々之を應用せり無信仰の者遺傳性の者寐小便癖ある者の如き特に効果少からざるを認め居れり但し年少の生徒に對しては單に一種の暗示法を行ひ居れり



一生徒用の雑誌は實業之日本、日本少年及幼年世界等  
なり新聞紙は閲讀を禁ぜり

一生徒在院中は特種の稱號を用ひ本名は嚴に之を秘し  
て呼ばしめず例へば盡善サン恭敬サン處貴サンと名  
稱するが如し生徒よりしては院長は御前様主任は先  
生他の職員は誰れだれ先生と其姓を頭に於て先生  
と呼べり又生徒に稱號を用ゐるは其依頼者に於て自  
己の住所氏名及其子供氏名とは公然世上に發表せ  
らるるを好まざるの希望あるを知ると共に本院とし  
ては生徒入院の際に於て改めて新なる道德的名稱  
を附するは本人の改善上一種の大きいなる暗示の力あ  
るものと認めたるに由れり

一週食は最初日曜日及毎月一日のみ之々與ふるの定め  
なりしも特志の人々より時々菓子等を生徒に寄贈せ  
らるゝことあり又院長手許より生徒を慰めよとて特  
に珍菓水菓子等送り來ること數々なるのみならず院  
教師へ他より贈られたる菓子等も總て生徒に分配し  
て實際に於ては間食の度數甚だ多き方なり是等の方  
法は總て一般家庭の兒童生活と異なることなし  
一唱歌は日々四回づゝ徒手體操は二回づゝ三十分間之

を行ひ居れり、但し一回は就寢前なり

一生徒中日々順番に當番並に水汲便所掃除の勞務に就  
かしめ當番には雜務の外臺所の手傳へをなさしむ

◎本院の賞罰

總て普通の家庭生活の状態と同一ならしむる希望なる  
が故に賞罰の如きも固より格別の定めなし假令ば重き  
過失と認めたるときは便所掃除一日乃至一週間位命ず  
ることあり

輕き過失の時は教師室に一時間乃至二時間沈黙せしむ  
但し大抵は訓戒を與ふるのみにして止む

毎年三月二十五日は本院の記念日にして當日は多くの  
賞與を與ふるを例とするも平日は格別なる善行ある場  
合の外賞與を實行せざるなり但し賞與を行ふ場合と雖  
も式場に於て舉行するが如き事なし又生徒に章標を佩  
用せしめ若しくは一部の生徒に優勝旗を附與する等の  
方法なし

生徒の席順は入院年月の順序又は年齢に依らず毎月一  
日より月末に至る一ヶ月間各生徒の操行成績を調査し  
右の結果により(日々)の成績表、視善録に依るの外更

に教員の意見を附加す)翌月一日席順の等差を定むる  
の例にして此席順には最も重きを置き嚴確に生徒間の  
階級を定む

◎本院の經費

一本院には嚴密なる豫算なしと云ふ事實に近し固よ  
り大體の豫算を定め置き右を標準として支出をなし  
嚴に濫費を防ぐは勿論なりと雖も實際は必要に重きを  
置き必要なる以上は實費を使用するに躊躇せず況  
んや錢厘に拘泥するが如きをや從て亦豫算内なりと  
して必要な費途を無理に消費するが如きこと無き  
は無論なり毎月定日本院經費の金額を新勝寺會計主  
幹より領收し之を支出するの慣例なるが會計上院長  
及主幹より未曾て一言の注意質問を受けたることな  
し全く深き信頼を與へて濫りに細小の監督を加ふる  
が如きはあらざるなり此結果は自然局に當る者に對

◎本院の教育成績

明治十九年本院創業以來大正九年三月末に至る入院生百二十九人  
内

し自制心を與へ求めずして總ての節約行はれ其效果 は儘に豫算を限定する以上において更に頗る便利を 極め居れり左に記載するは本院移轉後の決算なり	
金千六百十圓九十錢	明治四十一年度
金千九百五十九圓四十八錢	明治四十二年度
金二千三百二十一圓八錢	明治四十三年度
金二千三百三十一圓三錢九厘	明治四十四年度
金二千六百七十五圓六十七錢二厘	大正元年度
金二千三百四十五圓六十二錢九厘	大正二年度
金二千三百三十二圓七十四錢	大正三年度
金二千八百三十一圓五十七錢	大正四年度
金二千七百八十六圓五十九錢二厘	大正五年度
金參千〇貳拾五圓八拾八錢壹厘	大正六年度
金貳千六百〇八圓參拾參錢八厘	大正七年度
金參千六百四十圓三十六錢五厘	大正八年度
合計參萬四百參圓貳拾八錢六厘	

私立成田威北院一覽

改善限院のもの 八十六人  
 成績未定のもの 四人  
 現存生 九人

事故退院のもの 二十四人  
 不成績のもの 四人  
備考 事故退院とある大部分は明三十二年本院々長洋行不在中當時坪井前主任病死の爲め一時生徒を假退院せしめたる事あり此退院生徒を指したるものなり

逃走せるもの 二人  
 (死去せるもの一人)

自明治三十四年 十九年間生徒状況一覽  
 至大正九年 (大正九年三月末日調)

生育分類

- 一 實父實母(父母現存) 三十人
- 一 實父繼母 十七人
- 一 孤 兒 七人
- 一 繼父實母 六人
- 一 實母ありて父死亡せるもの 五人
- 一 父母なく祖母に生育せられたるもの 三人
- 一 養父母に生育せられたるもの 三人
- 一 父ありて母離縁となれるもの 二人
- 一 父ありて母死亡せるもの 二人
- 一 私生兒 一人
- 一 母ありて父離縁となれるもの 一人
- 一 父母なく叔父に生育せられたるもの 一人

計八十人

不良原因分類

- 一 極 貧 十一人
- 一 遺傳ありと思ふもの 十四人
- 一 低能の能め 一人
- 一 家庭の紊亂 一人
- 一 保護者なき爲め 一人
- 一 過度の愛 一人
- 一 過度懲戒 一人
- 一 教育放任のもの 一人
- 一 家庭不和 一人
- 一 里 子 一人
- 一 惡風俗の感化 一人
- 一 活動寫真耽溺の爲め 一人
- 一 遊戯耽溺の爲め 一人
- 一 離縁せる實母の教唆ありと思ふもの 一人
- 一 芝居道樂 一人

計八十人

私立成田威化院一覽

和貴	溫良	歸厚	忠信	重威	有信	謹愛	敬信	三省	孝弟	樂朋	學習	稱號
十六歲	十四歲	十四歲	十歲	十三歲	十三歲	十四歲	十四歲	十三歲	十六歲	十歲	十二歲	入院當時年齡
明治廿六年四月二日	明治廿五年七月五日	明治廿五年三月十六日	明治廿四年八月廿四日	明治廿四年八月十八日	明治廿四年七月六日	明治廿四年六月十六日	明治廿四年五月四日	明治廿四年三月八日	明治廿四年三月四日	明治廿四年二月十九日	明治廿四年一月九日	年月日
書籍商	料理店	豪商ノ番頭	○	農	農	慕番	勤メ人	理髮	農	○	○	家庭ノ職業
上	中	中	○	下	上	下	中	中	下	○	○	生計
健	健	健	健	健	健	中	健	健	健	健	健	健否
現父	母實	現父	孤	母父	現父	現父	現父	現父	現父	孤	母實	生育
存母	離父	存母	兒	存離	存母	存母	存母	存母	存母	兒	離父	不良ノ原因
家庭紊亂	家庭紊亂	惡風俗ノ感化	保護者ナキ爲メ	遺傳家	過度ノ愛	放任	放任	過度ノ懲戒	放任	保護者ナキ爲メ	遺傳	性行
放逸	沈溺	盜癖	盜癖	盜癖	執拗	多辯	多辯	沈着	多辯	執拗	懶惰	入院當時ノ學力
中學第	不就學	尋常第	不就學	不就學	尋常第	尋常第	尋常第	尋常第	尋常第	不就學	不就學	改良
改善	改善	改善	改善	改善	改善			改善		改善	改善	成績
死									逃走			退院年月日
明治廿六年十月二日	明治廿六年十一月九日	明治廿六年一月十六日	明治廿六年七月十日	明治廿五年二月廿八日	明治廿五年二月二日	明治廿五年六月廿五日	明治廿五年六月四日	明治廿五年九月廿五日	明治廿六年六月廿九日	明治廿六年十二月二日	明治廿八年二月五日	退院後ノ職業
	菓子職人	製銅職工	農	官船乘組員	農			製材會社雇人		建具職人	農	

私立成田威化院一覽

信義	無求	無恥	志學	無違	以禮	退省	知新	溫故	行言	思學	慎行
十四歲	十五歲	十二歲	十四歲	十六歲	十五歲	十二歲	十歲	十二歲	十歲	十五歲	十歲
明治卅六年四月十八日	明治卅六年七月廿四日	明治卅七年四月廿五日	明治卅八年二月八日	明治卅八年六月廿二日	明治卅九年七月三日	明治卅九年七月三日	明治卅九年七月三日	明治卅九年七月三日	明治卅九年七月三日	明治卅九年七月三日	明治卅九年七月三日
農	勤人	無職業	勤人	相場師	○	農	農	農	他家ノ小使	農	古物商
上	中	下	下	中	○	下	下	下	中	下	下
健	健	健	中	健	弱	健	中	健	中	中	健
實繼母	實父繼母	實父繼母	實父繼母	實父繼母	實父繼母	實父繼母	實父繼母	實父繼母	實父繼母	實父繼母	實父繼母
過度ノ責	過度ノ愛	過度ノ責	過度ノ責	過度ノ責	過度ノ責	過度ノ責	過度ノ責	過度ノ責	過度ノ責	過度ノ責	過度ノ責
沈着	浪費	放肆	盜癖	盜癖	盜癖	盜癖	盜癖	盜癖	盜癖	盜癖	盜癖
尋常第二學年	尋常第二學年	尋常第二學年	尋常第二學年	尋常第二學年	尋常第二學年	尋常第二學年	尋常第二學年	尋常第二學年	尋常第二學年	尋常第二學年	尋常第二學年
改善	改善	改善	改善	改善	改善	改善	改善	改善	改善	改善	改善
大正七年七月七日死亡	明治卅九年五月十八日	明治卅九年八月十七日	明治卅九年五月三十日	明治卅九年十二月廿日	明治卅九年十一月廿四日	明治卅九年八月十八日	明治卅九年八月十八日	明治卅九年八月十八日	明治卅九年八月十八日	明治卅九年八月十八日	明治卅九年八月十八日
造船職工			僧侶	染物職			菓子職			農	菓子職人

私立成田威化院一覽

其中	敬忠	孝慈	大親	因證	爲義	禮樂	禮本	文獻	揖讓	郁文	愛禮	知禮
十六歲	十一歲	十歲	十六歲	十四歲	十三歲	十二歲	十三歲	十五歲	十三歲	十五歲	十一歲	十五歲
明治卅四年七月五日	明治卅二年一月廿八日	明治卅二年五月十五日	明治卅二年六月十二日	明治卅二年八月廿一日	明治卅二年九月一日	明治卅二年十月十一日	明治卅二年十月十一日	明治卅二年十月廿七日	明治卅二年十月廿四日	明治卅二年十二月七日	明治卅二年四月十二日	明治卅二年五月十五日
飲食店	勤人	馬夫	勤人	○	料理店	車夫	勤人	農	桶屋	農	被備人	人力車夫
下	中	下	中	下	中	下	○	中	下	下	下	下
健	中	健	健	健	健	健	健	健	健	健	健	弱
實繼母	實父繼母	實父繼母	實父繼母	實父繼母	實父繼母	實父繼母	實父繼母	實父繼母	實父繼母	實父繼母	實父繼母	實父繼母
祖暴	祖暴	祖暴	祖暴	祖暴	祖暴	祖暴	祖暴	祖暴	祖暴	祖暴	祖暴	祖暴
尋常第一學年	尋常第一學年	尋常第一學年	尋常第一學年	尋常第一學年	尋常第一學年	尋常第一學年	尋常第一學年	尋常第一學年	尋常第一學年	尋常第一學年	尋常第一學年	尋常第一學年
改善	改善	改善	改善	改善	改善	改善	改善	改善	改善	改善	改善	改善
明治卅一年八月十四日	明治卅二年十二月廿日	明治卅二年七月五日	明治卅二年十一月廿日	明治卅二年六月廿九日	明治卅二年九月二十日	明治卅二年九月六日	明治卅二年六月廿八日	明治卅二年三月廿五日	明治卅二年二月十五日	大正二年五月十四日	大正元年十月十四日	大正三年十二月六日
菓子職人	菓子職人	菓子職人	菓子職人	菓子職人	菓子職人	菓子職人	菓子職人	菓子職人	菓子職人	菓子職人	菓子職人	菓子職人



私立成田威化院一覽

安之	信之	懷之	自訟	靜山	好學	不達	賢哉	由道	約禮	爲德	博施	立人
十二歳	十四歳	十歳	十三歳	十六歳	十歳	十三歳	十四歳	十歳	十二歳	十六歳	十五歳	十三歳
大正六年二月十六日	大正六年三月四日	大正六年三月十日	大正六年八月十五日	大正六年十一月廿八日	大正七年五月十一日	大正七年七月五日	大正七年七月六日	大正七年八月十三日	大正八年六月八日	大正八年七月廿五日	大正八年七月廿八日	大正八年九月六日
農	農	教	農	農	漁	○	運送	勤人	下駄屋	社員	豆腐屋	肥料屋
下	下	中	下	上	下	○	下	中	中	中	中	中
弱	健	健	健	健	中	中	健	健	健	中	健	健
實父母	同上	同上	同上	同上	祖母	孤兒	繼父母	同上	實母	叔父	繼父母	實父母
低能	低能	低能	低能	低能	保護不十分ノ爲メ	保護者ナキ爲メ	過度ノ叱責	家庭ノ不和	放任	芝居旅行	活動寫眞	豆活動寫眞
放火	浮浪	躁狂	器物破損	浪費	浮浪	浮浪	浮浪	盜竊	肆暴	盜竊	放浪	放浪
不就學	同上	同上	同上	高等第一學年	尋常第一學年	尋常第一學年	尋常第一學年	尋常第一學年	尋常第一學年	尋常第一學年	尋常第一學年	尋常第一學年
改善(中途退院)	改善	改善	改善	改善	改善	改善	改善	改善	改善	改善	改善	改善
大正六年十一月廿九日	大正七年五月七日	大正六年五月六日	大正七年十月十八日	大正七年十月十八日	○	○	○	○	○	○	○	○
農	家庭リ	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上

七〇

合計八十人

内譯  
 改善者 六十人(内死亡六人)  
 逃走者 二人  
 現在生 九人  
 成績未定者 四人  
 不成績者 四人(内死亡一人)  
 事故退院 一人

右は明治三十四年以後に係る調査にして便宜上十九年間の出入を以て製表せり

◎退院の生徒

備考 前年岩手縣下水害の爲め頗る惨狀を呈したる事あり此際同縣より收容したる生徒四人あり内一人は本院教育後印旛郡酒々井町菓子店高須賀商店へ年季奉公せしめ爾來同家にあること十餘年此間何等の失敗もなく頗る順調に送光せり然るに本人の都合により今回歸郷することとなり其際主人方より本人へおくりたる表彰狀次の如し

賞狀

菊地 巳佐吉

右當店に於て菓子製造の徒弟を纏て職人となり多年の被補間能く忠實正直に勤勉せりに依り其賞として當本店の徽意を表し金參拾圓を贈與す右行動の證明を兼ね本狀を付與するものなり

千葉縣印旛郡酒々井町本佐倉  
 菓子製造業店主 高須賀辰之助印  
 大正八年九月一日

生徒の改良を認め退院を許す迄には種々の階段を附せり第一不動尊を信仰する態度第二逃走せず第三院外に便に出し時々金錢を携帯せしめ毫も不都合なきとき右半年以上乃至一年間同様に持續するを以て改良生と認め退院せしむ若し不良の原因其の家庭にあるときは可成直に家庭に歸さざるを以て適當とし父母の同意を得前記の如く本院より直に本人の性行に適當する職業見習の家へ紹介し就業せしむることに定め居れり  
 本院の最も心勞するは實に此の退院後の成績効果なり

私立成田威化院一覽

七一

本院は此場合に於て入院中の教育を第一期と稱し退院後は第二期と稱し第一期中の教育成否は實に第二期の如何に因て定まるものと重視せり事實を云へば入院中如何に改善の成績を占め得たりと確信する生徒ありとするも退院後の境遇若しくは動機により動もすれば逆戻りをなし其効果を破壊せらるゝ恐あり故に本院に於ては第二期に對し周到なる注意をなすと共に油断なく左記の監督視察をなせり

- 第一本院職員の視察。 第二本院と書面の往復
  - 第三本人所在地の寺院住職學校長町村長又は篤志婦人に其保護を依頼すること
  - 第四其主人及其家庭の良否を撰擇すること但し本院より直接に他へ徒弟に出したる場合とす
  - 第五其周圍に注意を拂ふこと前記但書の場合に同じ
- 以上の内書面の往復は本院の勉めて勵行する所にして事體甚だ平凡なるも最も有力なる効果を奏し居れり

◎生徒の入院

明治二十一年前本院の未だ成田山の經營に移らざる以前は専ら他の寄附金に因り本院事業を維持するの必要

を有し此場合に於ては熱心に搜索勸誘の方法を採り多數の生徒を收容するの實勢を存し生徒の少數は其外觀を損し生徒の多少は維持上頗る大關係を爲したるものなり今日と雖も維持本位を主とするとせば亦如此き必要を生ずるや知る可らず然るに新勝寺の經營に歸したる以來漸次教育本位に移り本院維持の如きは新勝寺の自營に屬し亦勉強して他の寄附金に依らざるを得ざる必要なに至れるを以て自然維持上の關係より強て生徒の多數を集むるの要なく遂に今日の如く依頼人の要求のみに満足し寧ろ少數の生徒に對し及ぶ丈け良好なる成績を擧ぐるの方針を採り靜かに且つ正直に斯道に盡しつゝ居れり

- 第一 成田山不動尊を信仰し日々善に進み惡を去ること
- 第二 規律及教師の教訓に従順なるべきこと
- 第三 虚言を云はざること
- 第四 善事に勤勉なること
- 第五 職員同行の場合を除き通常は外出せざることを

右五ヶ條の教訓を懇示したる後大約一週間新入生室に居らしめ其性行を實地に調査し然る上一定の居室を定むるを以て原則とするも猶其性行の如何を早く知り得たる場合は直に生徒室に入るゝこととせり又各室配置按排は新入生の年齢及其性癖に應ずる等種々工夫の下に居室を定め如此くして本院生活の人とならしむ向入院の際は左記の書面を差出さしむ

(第一號)

入院 依頼書  
何府縣何市郡何町村大字何番地  
族籍職業何某何男(弟或は……)  
何 某

右者父兄親戚等の教に背き教育の途を失し候に付今般親戚會議の上(孤兒にして悪化の恐あるものに付)當院の感化矯正を受度別紙履歷書並に誓約書相添へ此段御依頼仕候也

何府縣何市郡何町村大字何番地  
族籍職業(父母親戚若しくは町村長)  
依頼人 何 某印  
年月日 成田山感化院長石川照勳殿

(第二號)

履歷書  
何府縣何市郡何町村大字何番地  
族籍職業何某何男(弟或は……)  
何 某

- 一 年月日 日生
- 二 祖父母存亡若し死亡したる時は其年月日病名

私立成田感化院一覽

- 三 父母存亡並に年齢生計の程度(上、中、下)と單記すべし(實父母或は養父或は養父母の別)若し死亡したる時は其年月日並に其病名
  - 四 實父母は飲酒するや否や其概略の分量
  - 五 如何にして生育せしや假令ば(父母死亡後祖母に養はる或は父母生存するも祖父又は本人を愛し云々或は何年何月本人何歳の時……何職某方に徒弟に出し云々)
  - 六 學業履歷本人學業を好むや否や
  - 七 兄弟姉妹有無(内兄弟何人弟妹何人)
  - 八 性質特質並に不良と認むべき行動詳細
  - 九 不良の原因と認なべき事由詳細
  - 十 本人の最も嗜好するもの
  - 十一 如何なる地方に生活せしや
  - 十二 里子に出せし事ありとせば其年月及歸家せし時の年月並に其行先きの職業住所氏名生計の程度
  - 十三 身體の健否若し病氣ありとせば如何なる病症なるや及其發病の原因並に時期
  - 十四 現に健康體なりとも曾て大病に罹りしことありや否や若しあれば其年月及病名
  - 十五 寝小便するの悪習ありや否や
  - 十六 改善退院後に於ける豫定業務
- 右の通り相違なし  
年月日 依頼人 何 某印

(第三號)

印紙 在院誓約書

拙者儀今般入院御許し被下候に付ては在院中は職員一同の教訓に従ふべきは勿論諸規則は堅く遵守可仕候也  
年月日 何 某印

私立成田感化院一覽

前書何某一人に關しては本院中如何様の義出候とも掛者等引受決して御院に迷惑相掛申間敷は勿論尙左の條々堅く相守り申すべく候  
 一 規定の院費及食費は毎日三日限り前納致すべく候事  
 二 在院中本人諸規則命令に違背致し候節は相當の罰に處せらるるも異存申間敷事  
 三 本人不正の爲め感化方法執行上に必要な親權は總て委任致し候事  
 右の三ヶ條約定致し候處確實也仍て保證人連署を以て誓約書差入候也

年月日

住 所	住 所	住 所	住 所
依頼人 何	住 何	住 何	住 何
保證人 何	住 何	住 何	住 何
保證人 何	住 何	住 何	住 何

成田山感化院長石川照勳殿

備考 入院の手續は前記の書面を本院に差出すを以て其手續を終るものにして此他何等面倒の方法無く又此の書面と雖も依頼人希望によりては本院にて代書するも差支なし從來參觀せられたる諸君の中より本院は單に本山信徒の希望者のみ限り其依頼に應ずるものか又は千葉縣下の依頼者のみ限り入院せしむるかとの質問を受けたることあれ共固より如斯き制限すべき理由なし本院は成田山新勝寺の私立經營しつゝある感化事業なれば何れの家庭何れの地より依頼せらるるも差支なきなり

◎本院基本金の蓄積

明治四十一年三月本院を千葉町より成田町へ移轉せし

以來各慈善家より本院へ寄附せられたる金員を蓄積し將來の基本金を作るの方針を採り着々實行中恰も明治四十二年二月十一日内務大臣より本院へ事業資金として金百圓の下賜金あり依て政府の斯道に對する意嚮獎勵も茲に存するを知らるも本院より進んで寄附金を受けんとするの方法を探るは往々世の誤解を受くるの嫌ひあるを以て全然勸募方法を探らず一に篤志家の同情義捐に任せ其結果として現下は金壹千八百五圓四十三錢と勸業債券十圓券七拾五枚(三月三十一日調)とを有するに至れり殊に敬服すべきは成田町々民諸君の美風にして一朝其家人に死者あるときは其追善供養の爲に大抵本院に金圓を寄附し其意を表せらるゝことになり居れり  
 尙ほ此基本金蓄積の外本院は銀行預金五百九十七圓七十三錢を貯蓄せり右は本山御開帳の折該御開帳を紀念すべく右施設費として本山主より寄附せられたる金員なり依つて本院は本金を基礎として將來本院附屬の果樹園を建設するの見込を以て本金を預金しつゝあるものなり  
 本院は不動尊本堂脇、本院門前、成田停車場内、東

京深川不動堂並に横濱成田山出張所以上五ヶ所へ喜捨箱の設置あり大正八年四月一日より大正九年三月卅一日に至る各慈善家より本院に寄附せられたる金品並に該芳名尙各篤志家より投入せられたる喜捨箱の金額左の如し但し本金は全部基本金として貯蓄して毫も本院經費に使用せざるなり

- 寄附金品の分
- 一金 壹圓 荊込庄次郎殿(茂原)
  - 一金 壹圓 濱邊七太郎殿(東京)
  - 一金 壹圓 笹本榮藏殿(東京)
  - 一金 壹圓 山内友吉殿(東京)
  - 一金 貳圓 大木市太郎殿(成田)
  - 一金 參拾七圓 小林富次郎殿(東京)
  - 一金 參圓 篠塚安太郎殿(成田)
  - 一金 參圓 齋藤宇助殿(東京)
  - 一金 壹圓五十錢 松本八五郎殿(東京)
  - 一金 拾圓 坂本力太郎殿(成田)
  - 一金 貳圓 (生徒菓子料) 金子元藏殿(東京)
  - 一金 壹圓 (全) 早川清二殿(東京)
  - 一金 貳圓五十錢 (全) 吉田源應殿(滋賀)

- 一金 壹圓 (全) 吉田信吉殿(東京)
- 一菓子澤山 (三回) 阿川貫達殿(東京)
- 一菓子澤山 渡邊徳三郎殿(成田)
- 一菓子澤山數回 淺井壽子殿(成田)
- 一雜誌「書畫文」(每號) 山内友吉殿(東京)
- 一臺法月報 (每號) 岩立幸次郎殿(臺灣)
- 一窓の光 右同 入殿

喜捨箱の分

- 一金壹圓三十錢 四月
- 一金壹圓貳拾貳錢五厘 五月
- 一金壹圓六十三錢五厘 六月
- 一金壹圓四十六錢五厘 七月
- 一金五拾四錢一厘 八月
- 一金貳圓五拾七錢 九月
- 一金六十四錢 十月
- 一金九拾九錢 十一月
- 一金壹圓五拾貳錢五厘 十二月

私立成田感化院一覽

一金八拾四錢五厘	一月
一金壹圓四十錢	二月
一金壹圓五拾四錢	三月

合計金拾五圓六拾七錢六厘

終りに臨み各入院生の金額を擧げんに

○自費生は食費衣類夜具文具書籍雜費一切の費用として毎月三日迄に左の頭書金額を依頼人より本院へ差出せしむ

一金拾圓 年齡滿八歲以上十歲まで

一金拾貳圓 同十一歲以上十三歲まで

一金拾三圓 同十四歲以上十六歲まで

○減費生は家計の都合上前記の金額丈出金し能はざる向き限り本院に於て其幾分を補助するもの

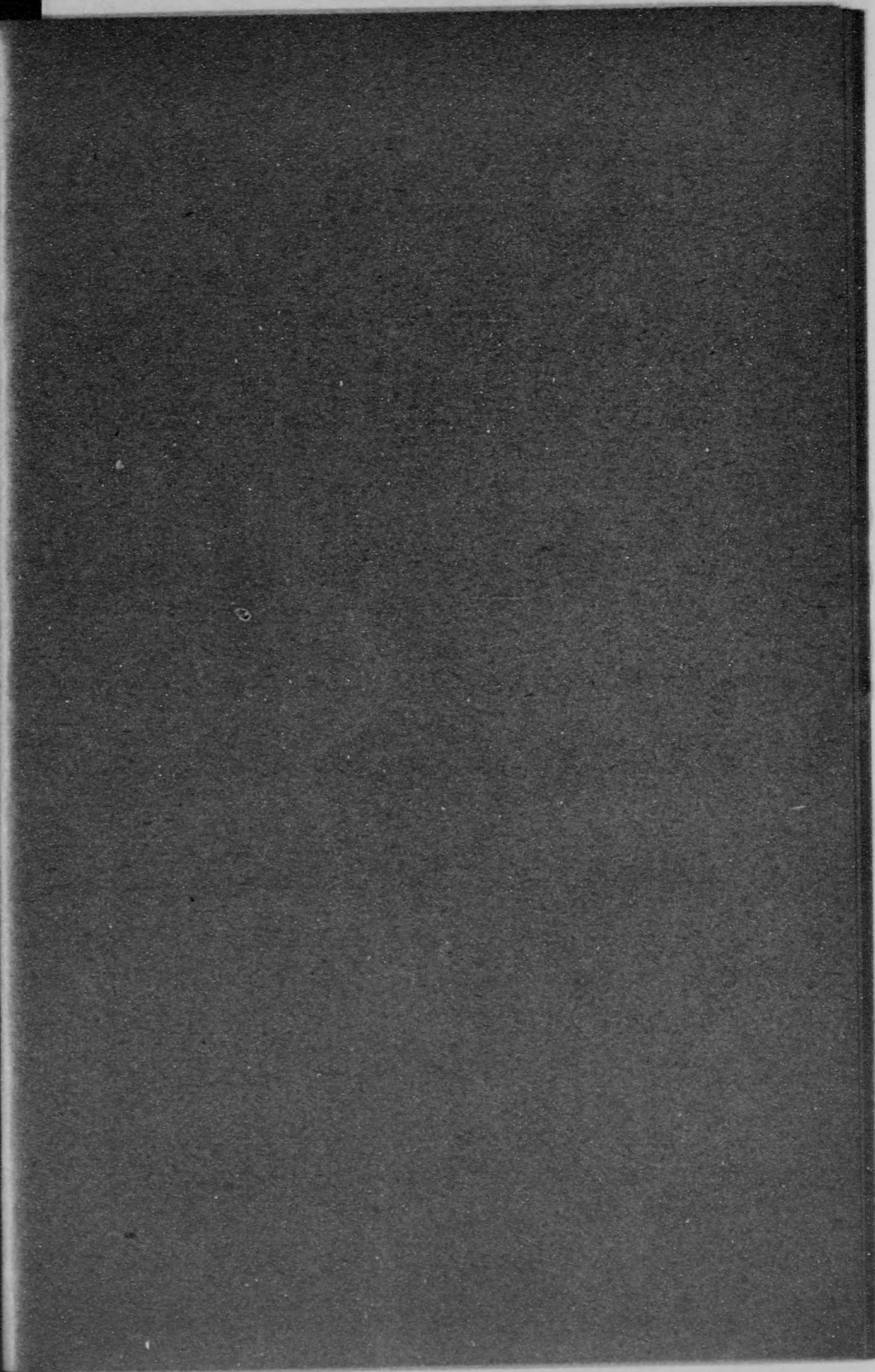
○院費生は全部補助するもの

入院の際は各本人現に所持する衣類書籍文具等實用に適するものは持參せしむ 以上

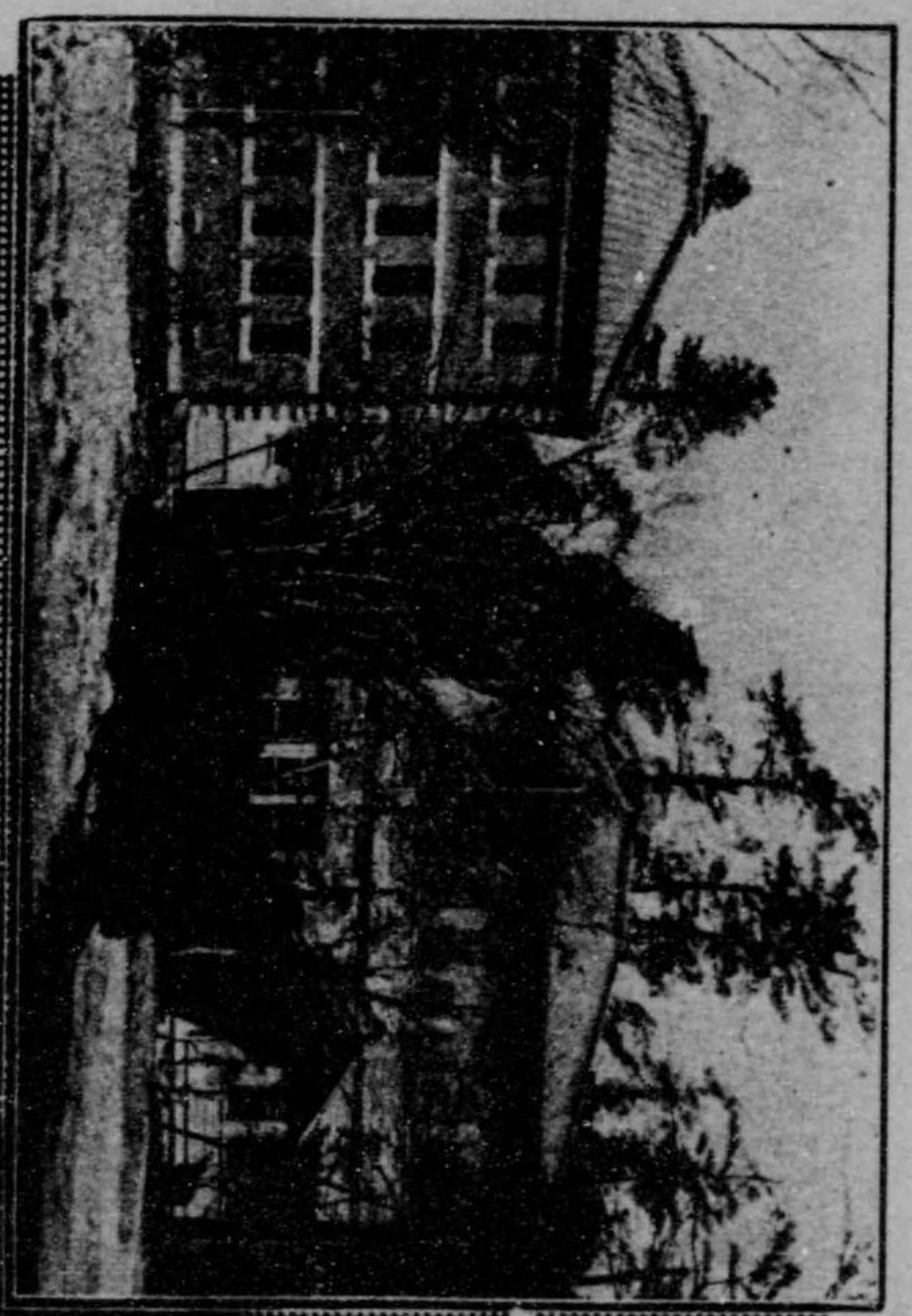
# 成田圖書館一覽

沿革略	七七
建築	七九
經費	八〇
職員	八一
藏書	八二
圖書の増加	八二
閱覽人及貸出圖書	八三
特許帶出一覽	八四
圖書寄贈者芳名	八六
雜誌新聞寄贈者芳名	八七

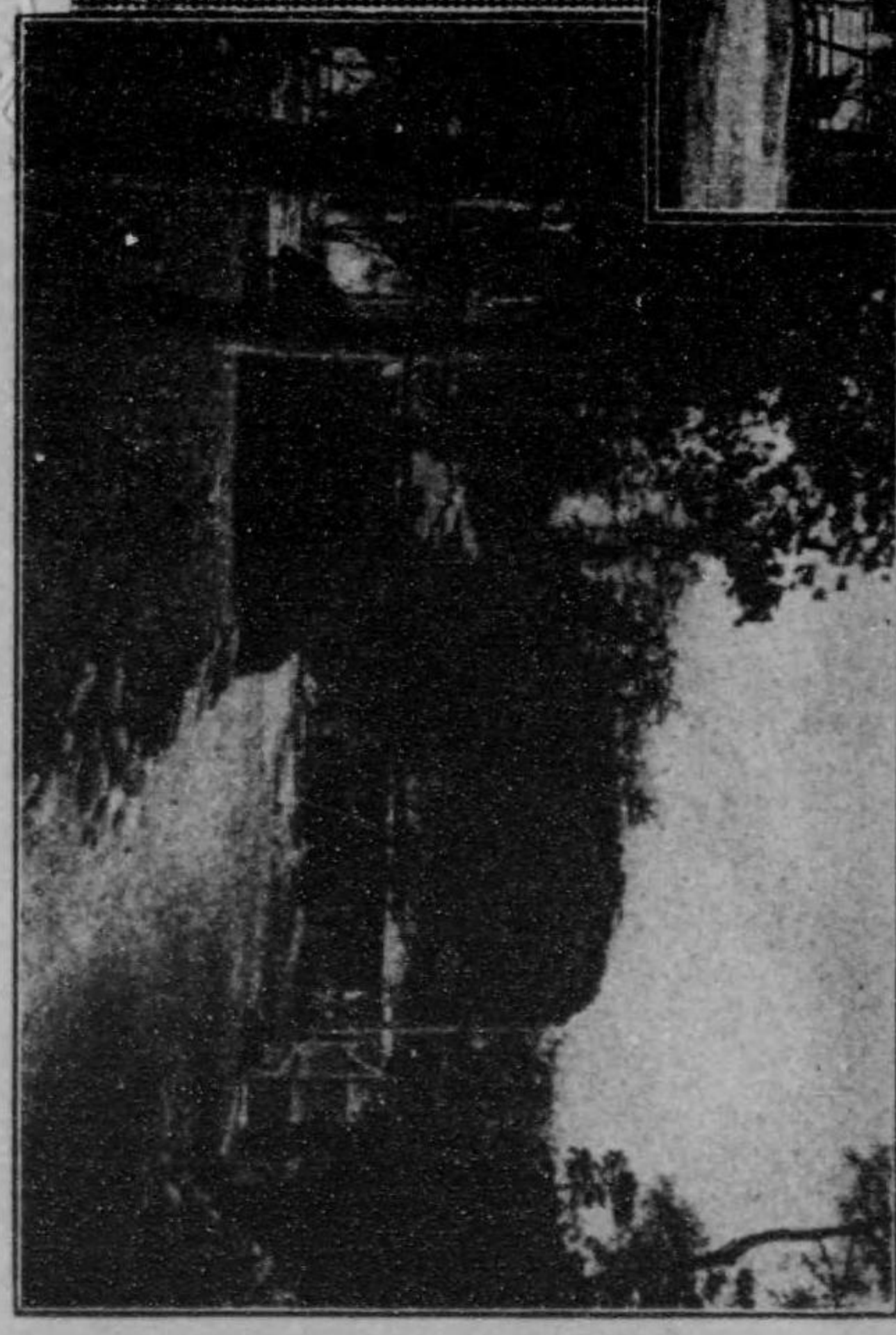
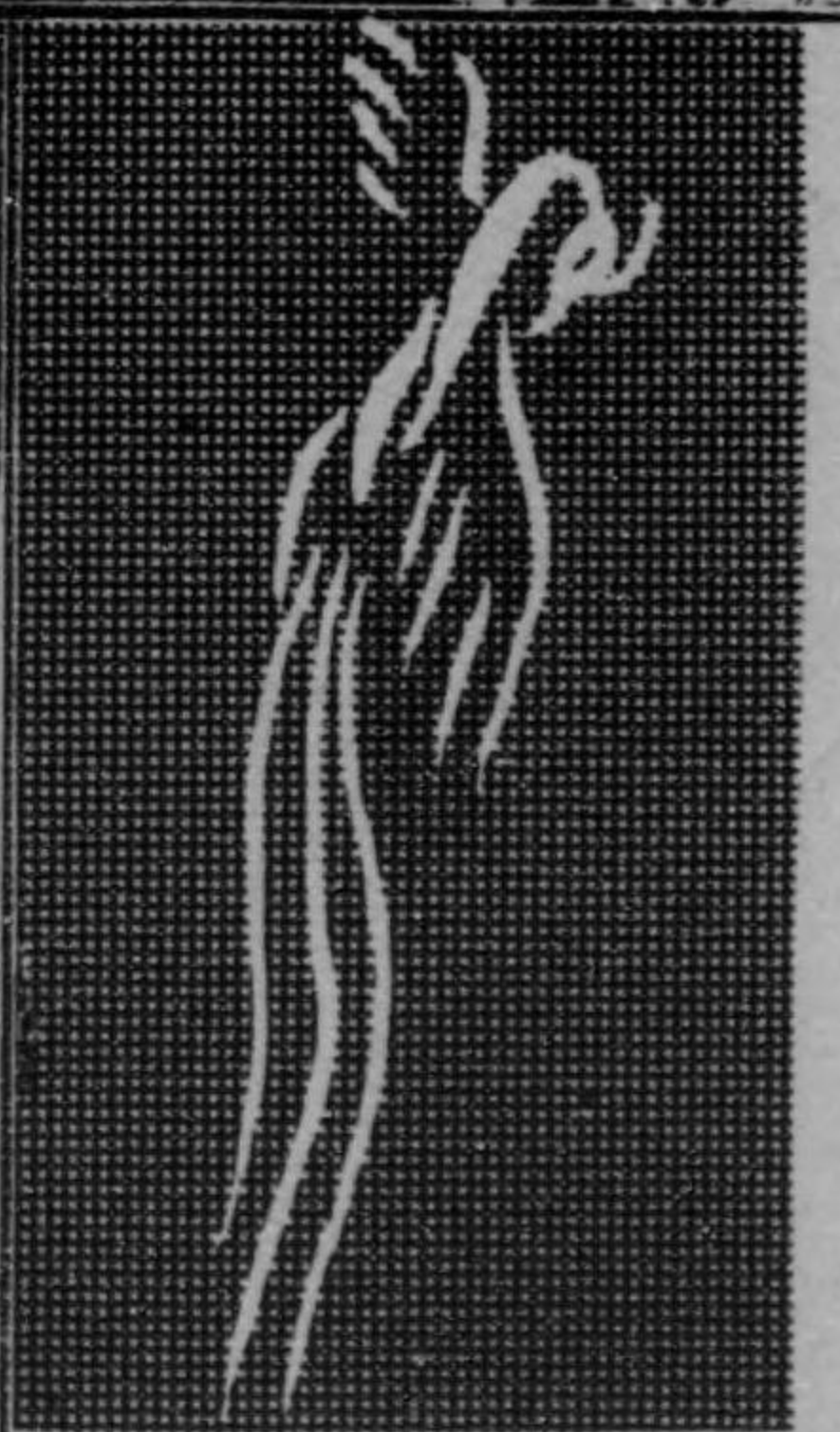
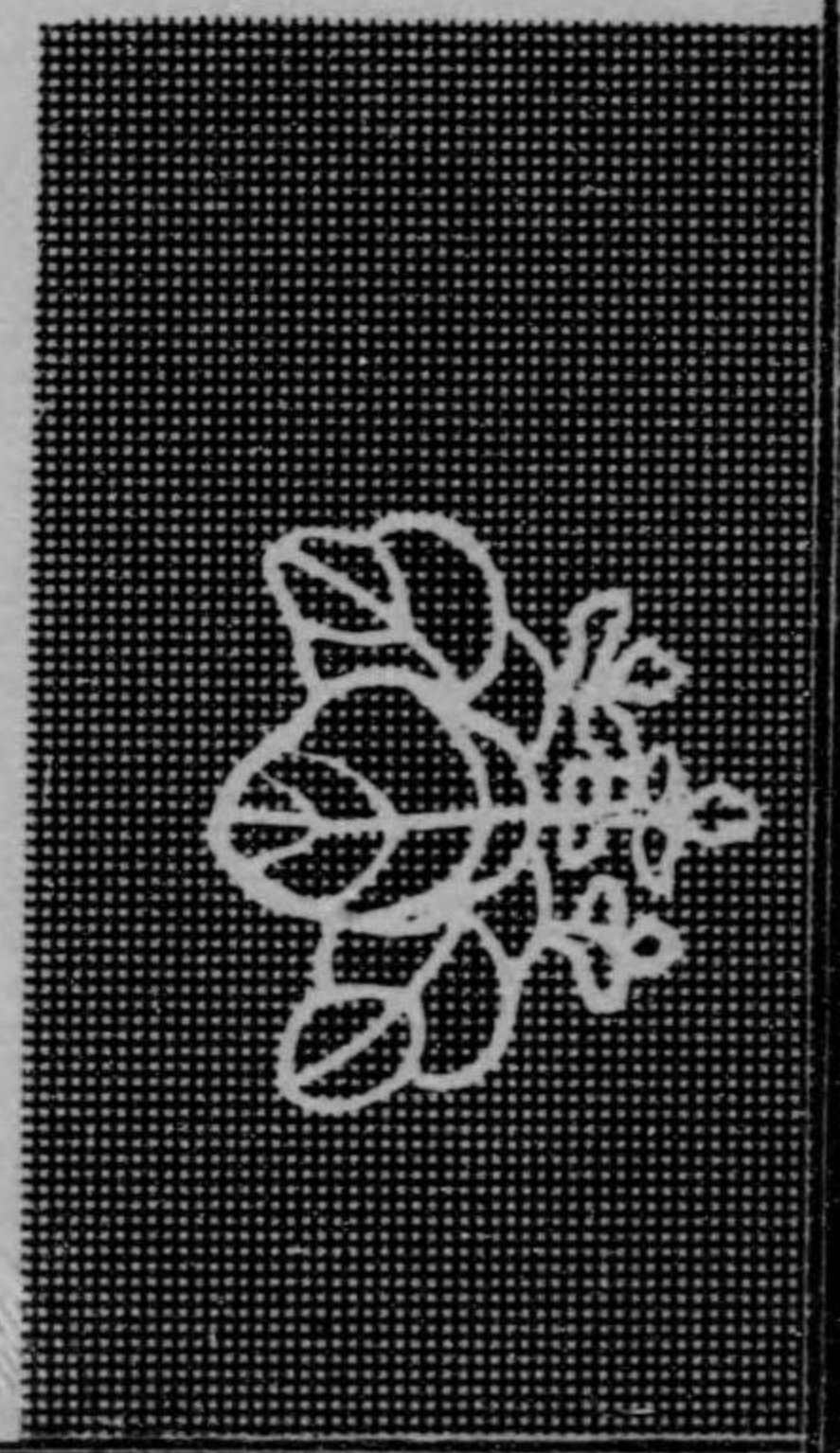




成田圖書館



本館及書庫



館員住宅の一部



## 私立成田圖書館一覽

### ◎沿革

私立成田圖書館は、成田山の經營に係る教育事業の一にして、明治三十四年一月十一日創立の認可を得、開館の準備に約一年を費し、翌三十五年二月一日を以て開館せり。本館の現在地は、字東谷と稱し、本堂の東、花屋敷の南、別に一區劃を爲せる形勝の地にして、冬暖かに夏涼しく、而も市街に接し、交通四達、圖書館として、最好の位置たるは疑はず。此地は安政年間現山主より五代の先師にして、今の本堂等を再建せられたる傑僧照鳳上人が、始めて隱棲所を營造せられ、其後先代三池照鳳上人が、明治二十年十月、今の成田中學校の前身たる、成田英漢義塾を此地に興され。爾來十年間、幾多の秀才を教育し來りしが、時勢一變、明治三十一年十月六日成田中學校となりて、現在の地に移れり。越えて三十三年、一府三縣の水産物品評會を成田に開設するに當り、此地を以て會場となし、剩へ總二階建、五十五坪の本館を作り、之を品評會に貸與したり。先代三池照鳳上人は、曾て博物館建設の計

畫ありたれども、果さずして遷化せられたれば、品評會終了後の建物を以て、或は博物館とすべきか。種々下評議ありしも、當時現貫首僧正は洋行中にて、勿論決定すべくもあらず。然るに現貫首は同年を以て歸朝せられ、一は列國の風潮に鑑み、一は僧正積年の理想を實現せられんが爲に、斷然圖書館開設の議を決せられ、斯くは急速に開館するの運びに至りたるなり。故に本館は全く現貫首の洋行紀念にして、而も現位置と、今の閱覽所たる建物には、前述の如き變遷と歴史とを有せるなり。

斯くて三十五年二月一日開館の際は、不取敢從來新勝寺に藏せる、佛書、漢書、和書、雜書、約七千餘冊。山主僧正手許の、宗教、哲學、教育、文學、語學、歴史、傳記、地理、紀行、洋書、其他の新刊書、約七千餘冊。合計約一萬五千冊を移して、兎に角開館したり。

當時は未だ書庫も目錄も具備せざれば、閱覽室の四周に書架を排列し、閱覽人は書架に就きて、自由に其求むる圖書を撰擇し、其圖書の出し入れも、殆ど隨意にして、頗る簡易の方法に隨ひ、唯老書記一人、監督として在館したるのみ。爾來入藏圖書及閱覽人等、漸

次増加せしかば、同年六月高津親義を主任に青葉貞治成田善亮を書記として館務を執らしめ、第一に和漢書分類目錄編纂に従事し同年九月を以て一先づ完成し、讀者に幾分の便宜を與ふるに至れり。

館長の熱心と、大方有志諸君の好意とに由り、爾來入藏圖書は、非常の速力を以て増加し、閱覽室の中央部まで填充して、殆んど閱覽者を容るゝ餘地なきに至れり。依て三十九年の春、書庫新築の設計を定め、六月起工。翌四十年三月竣成、六月九日を以て、朝野の名士、文庫協會員、新聞記者、本館關係者等を招待して、落成式を舉行し、且つ此日を以て本館永遠の紀念日と定めたり。

三十六年十二月より。圖書館講和會を開き、三十八年二月より、館外帶出特許を施行したり。四十一年に及びては收藏圖書四萬を超え、従つて在來の目錄を根本的に整理するの要を認めたるより、更に元帝國圖書館司書文屋留太郎を司書に増員して、同年十一月より其編纂に着手し、四十三年十月一先づ完成を告げ「和漢書分類目錄第一編」の刊行を見るに至れり。創立十年紀念會 四十三年十一月六日を以て、當時

東京に於て開會中の日本圖書館協會大會に參列せる諸氏の來臨を乞ひ、目錄完成の披露を兼ねて舉行せり、來會者和田萬吉、渡邊又二郎、富士川游、西村竹間、菊地謙二郎、太田爲三郎、今井貫一、佐野友三郎氏等四十一名なりき。

和漢書目錄第一編刊行後圖書の劇増を見たるにより更に「第二編」に著手し、大正三年三月を以て印刷を了り、頒布することを得たり。

四十四年一月より電燈裝置の成れるを以て、夜間開館を實行したり、元來、成田町は早起早寢の土地柄なれば、夜間の開館果して效果あるべきやと氣遣ふたり。然るに實施後は、晝間一定の業務に服する爲從來登館し得ざりし實業家の子弟又は雇傭人等の登館を見、其成績は案外にして、求覽人の約十分の四は、夜間閱覽人なりとす。

開館後、本館が地方に與へたる影響としては、一般青年及兒童に讀書の趣味を涵養し、殊に各種學校の職員生徒は、無限に嶄新有益なる參考書の供給を受けるを以て、學術の進歩上偉大なる利益あるが如く、且つ風俗習慣の上に著しき好效果あることを認めたり。

◎建築

- 本館 本造 二階建 五十五坪
- 建築費 金九千貳百〇九圓拾七錢四厘
- 書庫 煉瓦造 三階建 三十坪
- 建築費 金壹萬參千貳百四拾八圓八拾錢貳厘
- 附屬建物 木造及煉瓦造 百一十一坪五合餘
- 建築費 金七千三十二圓十四錢二厘
- 計
- 建坪 百九十六坪五合餘
- 建築費 金貳萬九千四百九十一圓十一錢八厘
- 敷地 壹千貳拾八坪

本館は沿革の條に記せるが如く、最初水産物品評會會場として造りしものなれば、其位置と云ひ、其間取りと云ひ、圖書館としては稍や不便なれども、事情止むを得ざれば、其儘各所に修繕を加へて之を閱覽所に宛てたり。

書庫は、帝國圖書館を始め、各書庫を參觀して、地方相當、位置相應に加減斟酌し、最も書架と光線と通氣との割合に注意し、飾裝外觀等を顧慮せず、唯實用

と堅牢と防火との三點を主としたり。而して其容量は平均幅十一尺七段の書架九十基を据附たれども、既に増築の必要に逼れり。

附屬建物は、事務所、應接所、閱覽人休憩所、廊下、事務員住宅、物置、便所等なりとす。事務員住宅は、四戸約八十餘坪にして、主任以下重なる館員に住居せしめ、一面は常在當直に宛て、一面は安心館務に従事せしむる方針を取れり。從來本館設備の完からざるものは、暖房器と夜間點火の用意充分ならざりし二點なりしが、四十三年十一月に於て、成田電氣事業完成したれば、本館は第一着に、四十燈、百五十二燭光の裝置を爲し、四十四年一月より直に夜間開館を實行したり。夜間開館は、平均五時間の延長にして、之に一年平均開館日數三百三十日に乗ずれば、實に壹千六百五十時間、從來一日の開館時間平均九時間とすれば百八十三日間、即ち約六割の増加なれば、それ丈閱覽者の便利は増加せられたる割合なり。茲に特記すべきは成田電氣會社が、四十四年一月夜間開館實施以來大正六年一月に至るまで、毎月點火料金中へ二萬キロワットの無料寄附を繼續せられたる好意を深謝す。

◎經費

本館經費は一に出版界の状況に伴ひ一定の豫算なし。最近に於ては一ヶ年約六千圓内外にして、大略總經費の約三分の二は圖書購入費にして、三分の一は俸給賞與館員養成費營繕費雜費等なりとす。創立以來の概算を擧ぐれば、

明治三十四年	九、〇〇九、一七四 (本館建築費を含む)
同 三十五年	一、八一六、三七四
同 三十六年	一、六一一、五五〇
同 三十七年	一、九七五、〇〇〇
同 三十八年	二、六九三、五八三
同 三十九年	三、三四〇、九七五
同 四十年	二、二七八、九九一 (書庫建築費を含む)
同 四十一年	三、九六三、八三五
同 四十二年	五、四六〇、二二三
同 四十三年	六、四三四、九九八 (第一印刷目錄刊行)
同 四十四年	五、一七一、六七七
大正 元年	六、六六三、五三七
大正 二年	五、〇七四、八二七

大正 三年	五、一六〇、七六〇 (第二印刷目錄刊行)
同 四年	五、二九〇、二三二
同 五年	六、一六七、五五二
同 六年	五、七二一、八八五
同 七年	六、一二九、八一五
同 八年	六、三七一、七六〇
合計	金拾壹萬千四百參拾六圓七拾錢八厘
内 譯	
金四萬八千貳百九拾四圓六錢六厘	圖書購入費
但創立の際新勝寺及館長手許より移したる約壹萬五千冊の價格並に寄贈圖書又購入費として寄附せられたる金額等は總て本項に算入せず	
金三萬二千五百九拾圓四十四錢二厘	建築費
金三萬五百五十二圓二十錢	經營費
	臨時費

以上費目中圖書購入費の外、他の諸費目は前掲を以て其全部を竭したるものにあらず。建築營繕に於ける材料人夫經常部に於ける薪炭筆紙等其多くは新勝寺大經濟中に含まれて、別に算出せざるもの多ければなり。

◎職員

館主兼館長	石川 照勤
主任	高津 親義
司書	荒木 照定
同	成田 善亮
事務員	山内 卯之助
事務見習	高田 定吉
同	渡邊 清

館主兼館長は即成田山貫首大僧正石川照勤師にして、一般外界にては館長とは唯空名なるべしと想像せらるゝ人もあらんが、事實は決して爾らず。嘗に館務の大綱を總攬せらるゝのみならず、購入圖書の撰擇及其手續等は勿論、内外多忙の身を以て、館務の大小は殆ど其獨宰せらるゝ所なり。

高津主任荒木成田兩司書以下館員全部は、和衷協力各員事務を分擔し、又互に相輔けて館務遂行の敏捷を圖れり。

五事業の職員も毎年報に多少の交替を見ざるなし、中に就きて圖書館は從來比較的變化少なかりしが、曩

きに青葉貞治氏と文屋留太郎氏との死去あり。昨年六月には司書加藤萬作氏が一身上の都合にて退職せらるゝあり。更に齋藤陽一、文屋一の二人去りて、山内卯之助渡邊清の二人新たに入館し、著しき變化ありたれども、熱心なる館長現下督勵の下に、創立以來茲に二十年、兎に角多少の進歩と發展とを續け、社會の文化と公益とに貢献し來れり。

本館構内には附屬住宅四棟ありて、重なる館員は悉く構内に住居せしむ。是れ本館の特色とする所にして往古以來成田山の從業者使用方針に準じ、非常なる事故あるにあらざる限りは、猥りに其人を替えず、安んじて一身を其事務に託せしめんが爲なり。凡そ從業者に安心を與ふるは、事務に忠實ならしむる唯一の方法にして、殊に圖書館の如き、永久的にして地味なる。系統的にして緻密なる、而して勤務時間は他の諸學校等に比較して三倍し、日曜大祭及寒暑等の休暇なき、殆ど常任的業務に限する事業に於て、殊に必要な良法なりと信ずればなり。

本年度の如き人員の上に異動を生じたることは、決して本館の本意にあらずと雖も。時代の風潮、總ての人

を驅りて動搖せしめずんば止まず。

◎藏書

明治三十五年開館當時に於ける本館藏書は、約壹萬五千冊内外に過ぎざりしが、爾來逐年増加して、大正七年三月末日現在數は

和漢書 六萬五千七百一十一冊  
洋書 三千二百二十八冊  
合計 六萬八千九百三十九冊

を算するに至れり

本館藏書中、他に特色あるものなしと雖も、佛書の八千餘冊、殊に秘密部の豊富なるを、學者の研究調査に資せんが爲めに奨めて、新刊の辭書類、叢書類を網羅したると、白鳥博士等の好意に由りて得たる、朝鮮本六十九部三百六十五冊等は、本館の貴重書として些か誇る所なり。

其他康平弘安の古寫本、慶長己前の古版本、古徳碩學の書入本、手澤本、洋書に於ては一千五百年代の古刊本、其他多少の由緒歴史附ものなきにあらざるも、煩はしく之を擧げず。

◎圖書の増加

本館の圖書は三種の方法に由りて増加す。第一は館長の購入及寄贈、第二は新勝寺公費を以て購入するもの、第三は一般有志家の寄贈なりとす。已上の第一と第二とに就て又三種の區別あり。第一種は館長の認め以て有益なりとしたるもの、第二種は讀者より備付の請求ありて、館長の是認したるもの、第三種は一般讀書界の趨勢傾向に注意して、館事務員より請求するものは是れなり。

本館圖書購入費には、別に豫算なるものなし。故に其の財源は一に館長の私囊と新勝寺公費の一部とに依る。要は本館の購入は出版界の隆替如何に在りて、本館は唯有益と認めたる新刊書を網羅せんことを努むるのみ。

開館以來の増加の割合は、一ヶ年約三千五百冊にして、將來の増加率は、必ずしも此標準を以て律する能はずと雖も、今日は各部門共稍や一通り具備したるを以て、今後の増加は、最も慎重に撰擇すべければ、其價值や必ず見るべきものあらん。

◎閱覽人員及貸出圖書

年 度	開館日數	閱覽人員	貸出圖書
明治三十五年	三一五	二、四五二	三、九二二
同 三十六年	三三三	三、四四八	五、八六三
同 三十七年	三三五	三、四三七	六、五九〇
同 三十八年	三四一	四、一三九	五、九三八
同 三十九年	三二六	四、四三七	九、四九二
同 四十年	二七七	六、二二八	一、二九七
同 四十一年	三二六	六、五八九	一、〇三八
同 四十二年	三二八	六、九一七	一、二六五
同 四十三年	三二六	一、四、六四八	三、二、八五八
同 四十四年	三二七	一、八、六四三	四、二、八一〇
大正元年	三二六	二、〇、〇六四	五、四、四〇二
同 二年	三二四	二、〇、〇九八	七、五、八二八
同 三年	三二二	二、四、二二五	九、五、九七六
同 四年	三一八	三、一、五五四	一〇、四、一六六
同 五年	三二二	二、九、六二一	八、八、七九六
同 六年	三三三	三、四、一八六	九、〇、一〇四
同 七年	三三三	三、一、一五一	七、三、八一九
同 八年	三二〇	三、二、四六一	六、六、二〇一
合計	五、八一三	元四、二九八	九二、八四八

昨年度一日平均(人員百〇一人四分、書冊二百〇六冊八分)

明治四十年度より稍増加の傾向を示したるは、館外特許帯出を實施したるに基き、四十三年度以後の劇増は主として、(一)目錄の完成(二)新入藏書を重なる閱覽人、學校、團體等へ告知方を實行せると(三)夜間開館の實行等は其主因なるが如し。殊に近來一般に讀書の趣味を解し來ると、就中附近農家の本館を利用するもの著しく増加せる結果なるべしと思考せらる。

貸出圖書の割合は文學語學を首位に、歴史傳記之に次ぎ、近くは工學産業等の實務書類を閱覽するもの増加し來れり。

- 昨年度に於ける閱覽人員三萬二千四百六十一人を職業別とするときは左の如し
- 學生(中學生程度以上) 九、〇八五
  - 實業家 五、三六二
  - 婦人(女學校生徒を含む) 三、七二七
  - 僧侶 一、三六二
  - 教員 一、二五六
  - 官吏 一八九
  - 其他 三、〇五〇
  - 兒童及新聞閱覽人 八、四三〇

◎特許帶出一覽

明治三十八年二月、特許帶出實施以來、今日まで特許票を附與せし人員は、五百〇四人なり、其内住所の移轉又は死亡等に由り、特許權の消滅せしものは二百二十一人あれども、千葉教育會附屬圖書館、京都智山勸學寮、成田中學校、成田高等女學校等の番外貸出を加ふれば、現實に三百人に相當すべし、殊に千葉縣教育會附屬圖書館への貸出は一回二百冊以上三百冊以内期限九十日の定めなり。而して此多數特許者中、期限を過て注意を受けし如きはあれども、未だ規則に依りて律せざるべからざるが如き甚だしき反則者を見ざるは本館の苟かに慶ぶ所なり。尙三十八年以降帶出者及帶出圖書の累年統計を掲ぐれば左の如し

明治三十八年度	一一〇八回
明治三十九年度	一二八八回
明治四十年度	一三五三回
明治四十一年度	一四二一回
明治四十二年度	一四九二回
明治四十三年度	三四四〇回
明治三十八年度	二九一五冊
明治三十九年度	三〇二〇冊
明治四十一年度	三一七一冊
明治四十二年度	三三二九冊
明治四十三年度	五九八五冊

◎閱覽狀況一覽表

開館日數	月												合計	百分比例
	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月		
宗 教	三六	三五	三六	三〇	三九	四〇	二八	三九	三四	三六	二六	三〇	三〇〇	七・〇
哲 學	三三	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五
文 學	四、〇六	三、三五	三、三五	四、〇六	四、〇六	四、〇六	四、〇六	四、〇六	四、〇六	四、〇六	四、〇六	四、〇六	四、〇六	四、〇六
地 理	五〇六	七六八	七六八	七六八	七六八	七六八	七六八	七六八	七六八	七六八	七六八	七六八	七六八	七六八
法 律	二二七	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇
社 會	二九四	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇
教 育	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三
工 業	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三
農 業	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三
醫 學	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三
諸 書	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三
合 計	六、五六三	六、七六六	六、七六六	七、一三三	七、一三三	七、一三三	七、一三三	七、一三三	七、一三三	七、一三三	七、一三三	七、一三三	七、一三三	一〇〇・〇
館内 閱覽人員	二、四一八	二、七四四	二、七四四	二、七四四	二、七四四	二、七四四	二、七四四	二、七四四	二、七四四	二、七四四	二、七四四	二、七四四	二、七四四	二、七四四
館外 帶出者	一、一四五	一、一〇六	一、一〇六	一、一〇六	一、一〇六	一、一〇六	一、一〇六	一、一〇六	一、一〇六	一、一〇六	一、一〇六	一、一〇六	一、一〇六	一、一〇六
合 計	三、五七三	三、八五〇	三、八五〇	三、八五〇	三、八五〇	三、八五〇	三、八五〇	三、八五〇	三、八五〇	三、八五〇	三、八五〇	三、八五〇	三、八五〇	三、八五〇
一日 平均	八六・〇	一〇一・八	一〇一・八	一〇一・八	一〇一・八	一〇一・八	一〇一・八	一〇一・八	一〇一・八	一〇一・八	一〇一・八	一〇一・八	一〇一・八	一〇一・八

明治四十四年度 七〇二〇回 一一九七四冊  
 大正元年度 八八四六回 二〇〇六四冊  
 同 二年度 八〇三八回 二二八六〇冊  
 同 三年度 九一八〇回 二〇五五六冊  
 同 四年度 一六二一六回 三〇二〇六冊  
 同 五年度 一四六一〇回 二五九七八冊  
 同 六年度 一六七一〇回 二八〇五四冊  
 同 七年度 一六五八四回 二九四六九冊  
 同 八年度 一七三四六回 三二四六一冊  
 合計 一二四六五二回 二四二、一八四冊

本館は地方青年團と、小學校教職員諸氏とに對し、特に借覽の便宜を寄與しつゝあり。是れ其齎す所の効果頗る廣く、且つ團長校長等之れが責任者たるが故に本館事務取扱上にも甚だ便宜多ければなり。而して近來附近の青年團にして、此種の團隊借覽申込増加の傾向あるは、喜ばしき現象なり。

大正圖書寄贈者芳名

秋田縣立圖書館	旭高明	石川照勤	石川正英	石川甚兵衛	石川順	石川秀雄	石倉翠葉	板倉保之助	印旛郡役所	上田恭輔	大阪府立圖書館	大塚篤三	小川保	外務省通商局	柏原文太郎	加藤精神	川村昌助	
一	一	四一	一二	四	二一	五	七	一	二	一	一	四	一	一	二四	一	七	
京都帝國大學	岐阜商業會議所	木村幾五郎	慶應義塾圖書館	高知縣立圖書館	小林照信	小林照勤	小林正盛	佐賀圖書館	須田寬治	關川藤右衛門	關川義太郎	第八高等學校	台灣總督府殖産局	台灣總督府圖書館	高桑藤代吉	千浦友七郎	千葉縣廳	
一	一	一六	一	一	九七	二	一	一	一	四〇	一	一	一	一	一	五	一	
銚子一河候所	鐵道院	東京高等工業學校	東京市養育院	東京市立圖書館	東京帝國大學法學部	東京養老院	長岡市立互尊文庫	奈良女子高等師範學校	成田鐵道株式會社	南葵文庫	農商務省農務局	林正一	林庄三	福原資生堂	堀田家農事試驗場	本多日生	三浦照空	宮城縣立圖書館
九	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	三	七	四	一	一	二	一	一
武藏純秀	元山徹	モスリン文庫	文部省普通學務局	山内卯之助	山口縣立圖書館	山本久	横山健堂	聯合軍隊慰問協會	渡邊新太郎	渡邊德兵衛								
一七	二	二	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

大正雜誌新聞紙寄贈者調(毎號寄贈者のみを掲ぐ)

石川照勤	赤い鳥	アメリカン、レビニ、オ	ア、レビニ	醫學及醫政	英語研究	改造	解放	學燈	懸葵	家庭と佛教	漢詩	高野山時報	高野の光	國家及國家學	國民精神	護國新論	債券時報號外	濟生會々報	史學雜誌	慈航	涉女界	
自傳道話	支那	社會改善公道	社會と救済	宗教新聞	樂善	修養世界	新公論	眞言	新時代	新修養	新小説	神變	水産界	精華	青年傳道	禪學雜誌	大正詩文	大日本私立衛生會雜誌	大日本農會報	中央公論	中央美術	
中央佛教	中外新論	通俗學術講演集	帝國教育	帝國在郷軍人	哲學研究	東亞之光	東方時論	にひはり	日本學校衛生	日本勸業銀行月報	農村研究	話の世界	美術畫報	佛教新聞(旬刊)	佛教新聞(奈良)	佛都新報	文藝俱樂部	ヘラルド、オブ、エジプト	變遷心理	奉公	マルゼンス、アナウンス	
メンツ	無盡燈	倫理講演集	六條學報	旅行案内	旅行俱樂部	ロンドン、レビニ、オ	レビニ	我等	ザ、ステューヂオ	石川甚兵衛	外交時報	國家學會雜誌	日本及日本人	三田評論	石川順	上海	岩立幸次郎	臺灣日々新聞	陰陽新聞社	英語青年社	英語青年	
えつくすわい社	えつくんわい	初等數學	大竹又次郎	萬朝報	大友秀松	臺法月報	香取新聞社	香取新聞	上村觀光	禪宗	苦歸樂會	クキラ	研精社	研精	國民英學會	中外英語	黑龍會	亞細亞時論	魁新聞佐原支局	魁新聞	佐瀬角三郎	千葉縣農會報
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

露光量違いの為重複撮影

- |                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                            |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 密宗學報<br>史蹟名勝天然記念物保存會<br>史蹟名勝天然記念物<br>會<br>友新聞社<br>友新聞<br>城東公論<br>城東公論社<br>新興社<br>新興<br>新勝寺<br>關東新報<br>慈善新報<br>無礙光<br>新總房新聞社<br>新總房<br>審美書院<br>美術の日本<br>正民新報社<br>正民新報<br>關川博道<br>脚氣豫防救濟會雜誌<br>國家醫學會雜誌 | 實驗醫報<br>治療學報<br>東京醫事新誌<br>日本消化機病學會雜誌<br>臨床醫學<br>臨床月報<br>石油時報社<br>石油時報<br>宣湯社<br>神道<br>千葉醫學專門學校々友會<br>千葉醫學專門學校雜誌<br>千葉公論社<br>千葉公論<br>千葉庶民新報社<br>千葉庶民新報<br>千葉每日新聞社<br>千葉每日新聞<br>智嶺新報社<br>智嶺新報<br>帝國軍人後援會千葉支會<br>後援<br>帝國圖書館<br>帝國圖書館報 | 銚子一等測候所<br>千葉縣氣象報<br>天臺發行所<br>天臺<br>東京市養育院<br>九惠<br>東西會<br>國枝<br>東洋哲學發行所<br>東洋哲學<br>富井宗之助<br>木太刀<br>名古屋通俗圖書館<br>名古屋通俗圖書館報<br>成田高等女學校<br>校友會雜誌<br>成田山延命院<br>橫濱貿易新報<br>成田中學校<br>校友會雜誌<br>日米新報社<br>日米新報<br>日本弘道會<br>弘道 | 日米製本時報社<br>日本製本時報<br>日本圖書館協會<br>新刊圖書目錄<br>圖書館雜誌<br>日本藥學會<br>藥學雜誌<br>福田會育兒院<br>フクデン<br>豐山派宗務所<br>豐山派宗報<br>富士川游<br>兒童研究<br>佛書刊行會<br>佛書研究<br>古川與一郎<br>ポケット<br>平間寺<br>慈德<br>堀田家農事試驗場<br>農場通信<br>丸見屋商店<br>エッセイ文庫<br>前橋市立圖書館 | 前橋市立圖書館報<br>密教研究會<br>密教研究<br>三越吳服店<br>三越<br>茗溪會<br>教育<br>森江書店<br>三寶<br>諸曲發行所<br>諸曲界<br>世の光發行所<br>世の光<br>六大新報社<br>六大新報<br>早稻田大學圖書館<br>早稻田學報 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

大正九年六月二十五日印刷  
 大正九年六月二十五日發行

(非賣品)

編輯人 淺井照次

印刷人 佐久間衛次

印刷所 株式會社 秀英會

發行所 成田山新勝寺

東京市京橋區西船場二丁目二十七番地

東京市京橋區西船場二丁目二十七番地



露光量違いの為重複撮影

密宗學報 史蹟名勝天然記念物保存會 史蹟名勝天然記念物 會	實驗醫報 治療學報 東京醫事新誌 日本消化機病學會雜誌 臨床醫學 臨床月報 石油時報社 石油時報 宣湯社 神道	銚子一等測候所 千葉縣氣象報 天臺發行所 天臺 東京市養育院 九惠 東西會 國枝 東洋哲學發行所 東洋哲學 富井宗之助 木太刀 名古屋通俗圖書館 名古屋通俗圖書館報 成田高等女學校 校友會雜誌 成田山延命院 橫濱貿易新報 成田中學校 校友會雜誌 日米新報社 日米新報 日本弘道會 弘道	日米製本時報社 日本製本時報 日本圖書館協會 新刊圖書目錄 圖書館雜誌 日本藥學會 藥學雜誌 福田會育兒院 フクデン 豐山派宗務所 豐山派宗報 富士川海 兒童研究 佛書刊行會 佛書研究 古川與一郎 ボケツト 平間寺 慈德 堀田家農事試驗場 農場通信 丸見屋商店 ミツワ文庫 前橋市立圖書館	前橋市立圖書館報 密教研究會 密教研究 三越吳服店 三越 茗溪會 教育 森江書店 三寶 談曲發行所 談曲界 世の光發行所 世の光 六大新報社 六大新報 早稻田大學圖書館 早稻田學報
----------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

大正九年六月二十一日印刷  
大正九年六月二十五日發行

(非賣品)

編輯人兼  
發行人

淺井照次

千葉縣印旛郡成田町百九十三番地

印刷人

佐久間衡次

東京市京橋區西紺屋町二十七番地

印刷所

株式會社 秀英舍

東京市京橋區西紺屋町二十七番地

發行所

成田山新勝寺

45p.63

◎土曜會

本山經營の教育事業も、既に五指を屈するに至れり。即ち中學校、圖書館、高等女學校、幼稚園、感化院とす。悉く成田山新勝寺なる根幹より傍生せる枝葉なれども、其事に従ふ人も多く、且つ場所を異にし、執る所の事務も同じからざれば、隨て相互の事情に迂遠なる傾きあるを免れず。如斯は獨り外來者に不便なるのみならず、同胞たる五事業の關係が、甚だ密接を缺くの憾みあり。依て各部の主任者を以て會員とし、毎月第一土曜日を以て開會し、直接に經營者たる山主僧正の指導を仰ぎ、又各自の意見をも開陳し、報告し、披露することゝして、去明治四十四年二月十一日の紀元節を以て、其發會式を舉げ、爾來繼續開會しつゝあり。本會會員は

會長山主 石川 僧正

中學校 評議員 監 濱田丑之助

高等女學校 主 理事 矢野金太郎

感化院 主任 石川甚兵衛

圖書館 主任 高津親亮  
司書 成田善子  
幼稚園 保育主任 山口政子  
幹事 三橋重兵衛  
小學校々々長 小林庄太郎

外に

小野寺 清三郎(女學校理事)

關川 博道(幼稚園理事)

高川直三郎(中學校々々)

川島能三郎(女學校事務掛)

淺井 儀助(幼稚園會計主任)

山内平治郎(女學校々々) の十七名なり

終

